

家康赤阪に着

即ち今の勝山にして、家康の戦勝に依つて若かく改めたる所、山上より望めは、大垣城は實に其の眼下にあり。此くて兩軍一たび株瀬川に戈を交るしも、固より大勢を決すべき戦にあらず。家康乃ち池田淺野其他駿遠三の兵を留めて大垣に備へ、主力を以て一舉して佐和山を抜き、直ちに大阪城に向はんとす。三成之れを聞き、大に驚いて守兵を大垣に留め、餘は往いて關原の狹隘を扼守せり。此くて東西兩軍合せて十五万各、其陣地に着く。其の陣形は圖に示すが如し。十五日朝黒田松平の隊先づ動き、福島隊宇喜多の陣を衝けるを始めとして、戰漸く酣なり。三成乃ち烽火を擧げて松尾南宮兩山に於ける西軍の下撃を促がせども應せず。已にして松尾山上秀秋の軍吶喊して山を降り、却て大谷吉繼の陣を襲撃す。吉繼は初めより秀秋の叛應を知り、豫め之に備ふる所ありたりしが、脇坂枅木の諸隊相尋て叛し、又如何ともする能はず。東軍爲めに勢を得士氣愈振へるものあり。大谷の軍先づ亂れ吉繼戰死す。尋いで宇喜多毛利右田の諸隊皆崩れ、島津の軍亦潰ゆ。是に於て西軍全く敗走す。(戰地々圖は主として參謀本部の關原戰史に基く)

秀秋叛變す

關原戰後諸侯に對する處置

關原の一戰東軍勝を奏して、此に全く天下兵馬の權は徳川氏的手中に歸しぬ。家康は即ち戰功を議し、賞罰を行へり。而して、其の結果封土の上に於ゐても大なる變化を來しぬ。中部地方は交戰の巷に衝り、諸侯の西軍に屬する者亦少からず、其の領土の沒收せられたるは言ふ迄もなく其他池田福島淺野山中山内等關原の戦勝に勳功ありし諸客將に對しても其の功を賞すべく、封祿を増加すると共に多くは之れを中部地方以外に徙しぬ。蓋し天下の大勢已に定まれりと雖も、豊臣氏は未だ其の祀を絶ちたるにあらず。現んや公武の關係は幕府の施政上に重大なる問題たるあり。是を以て關東と京畿とが徳川氏に取つて重要なる地域たるが如くに、其の中間に當たれる中部地方は亦忽にすべからざる地方なるべし。是れ諸客將に増封を興へて、而も之れを他に徙し、臈がて此の地方に封ずるに多くは譜代恩故の者を以てしたる所以なり。之れを要するに各地諸侯の配置は、徳川氏の尤も苦心せる所、其三百年の泰平は職として此の對諸侯策の巧妙なるに依らずんばあらざる也。此くて此の後大阪兩度の戰役あり。豊臣氏亡びて世は全く徳川氏の泰平を

家康駿府に隠退す

謳歌するに至りぬ。家康は此の前後に於て、更に諸侯の轉封改易を頻りにして、海内封建の形勢漸く一變せり。中部地方は其の地理上の位置が前述の如くなるのみならず、又徳川氏興起の地たるを以て、前期以來徳川氏に關する遺跡多く、此の期に於るても猶少からざる關係あり。家康は三河より起り、遠江に移り、天正十四年更に居を駿府城に占む。越えて四年、天正十八年江戸に移りてより茲に殆ど十五年、職を其の子秀忠に讓つて、復駿府に隠退せり。然れども大事は固より其方寸より出でしもの、駿府は實に四方歸仰の中心となりき。元和二年家康遂に此に薨じ、遺命によりて久能山に葬る。東照大權現と稱す。後野州日光山に改葬せりと雖も、本廟の祭祀亦舊の如く、兩社並びて徳川氏の宗廟たり。即ち今の久能東照宮此れ也。(第四十五回)家康の薨ずるや、其の子頼宣に府城を賜ひ、封五十五万石、常陸國より移らしむ。元和年中之れを紀伊に徙し、漸く城代を國中に置いて州事を管せしめしが、寛永元年家光の弟忠長を以て之れに封ず。同九年忠長除封の後は收めて幕府の公領となし、城代を府中に置き、士隊及騎歩卒を以て之れに成せしむ。而し

駿河の諸藩

柳澤吉保

て別に松平忠重(後本多正矩)を田中に封じ、元和中松平信治に小島を興へ、安永の初水野忠友に沼津を興ふ。總て三藩以て維新の際に至れり。
 甲斐は初め淺野長政の領たりしが、關原役長政を紀伊に徙して、平岩親吉に甲府を興へ、慶長八年徳川義直を甲斐一圓に封じ、親吉を以て其相となす。後義直を徙して之れを公領に收め、大久保長安を奉行として州事を治せしめ、國內の金鑛を開き、佐渡の金工を召して、吹所と建てしは此の時にあり。尋て徳川忠長を此に封ぜしが、寛永年中復大久保忠成を府中城代とし、谷村には秋元泰朝を封ぜり。後寛永二年に至り、秋元氏を川越に徙し、柳澤吉保に甲府城を賜ひ、州内十五万石を附す。後數年柳澤氏轉封、一州復幕府の直隸となる。勤番支配を置き、士隊騎歩卒を統べ、府城を守らしめ代官をして民政を分掌せしむ。西八代郡の市川、東八代郡の石和は又其の陣屋のありし所なり。

伊豆

伊豆は天正十八年北條氏の亡ぶるや、徳川氏の有となる。即内藤信成を並山に、戸田忠次を下田に封じ、其他郡邑は州の豪族江川英長を代官として民

江川氏

飛騨

政を執らしむ。慶長六年内藤戸田の兩氏の封を轉じ、全州盡く幕府の公領となる。江川氏は代官の職を世襲せり。代官所は初め三島にありしが、寶曆中之れを韭山に移し、別に吏員を派して田賦を掌らしむ。

飛騨は豊臣氏の時金森長近封を高山に受けてより、關原役後も其の領を全うしたりしが、六世の孫頼時に至り永祿中出羽上山に徙され、前田綱紀に命じて、戍兵を高山に屯せしめ、代官伊奈志篤長谷川忠崇等田賦を掌る。後城を毀ち、戍を罷め郡代を置いて州事を管せしむ。

幕府直轄地の重なる者は關東八國と上方八國とにありと雖も、猶都會要塞及金鑛等は幕府の公領に屬せりき。以上に擧げたる三國は中部地方に於ける幕府の直轄地とす。

尾張

尾張は初め福島正則の領たりしが、關原役後家康正則を安藝に徙し、家康の第四子忠吉を清洲に封じ、二十四万石を食ましむ。忠吉の卒後弟義直代つて封を受く。然るに清洲は水患あるを以て慶長十五年更に名古屋に遷る。之れ所謂御三家の一にして、封邑六十二万石、其の地尾濃參信の四州に亘たれ

美濃

り。城は西國の諸侯二十家の力を集めて築きしもの、規模の廣壯比すべきなし、其の天守閣は加藤清正の遺營する所にして、巨石を疊みて臺となし、五層の樓閣を其上に置き、葺くに銅瓦を以てし、鷗尾に、丈餘の鯨を立て、其の鱗片黄金を以て鑄る。故に當時金城の稱ありき。(第四十二圖甲)

初め忠吉の藩に就くや、犬山城(第四十二圖乙)主小笠原吉次を以て其の傅相となせしが、後吉次を下總佐倉に徙し、更に犬山を平岩親吉に賜ひて、之れを相となす。後親吉嗣なくして除封せられ、成瀬正成之れに代つて義直に相とし、子孫其職を世にせり。

美濃は關原役後徳川氏岐阜を廢し、石川康通を大垣(第四十七圖甲)に封ず。江戸將軍の東西往來するに當りては、常に此の城を以て宿次とせられき。後戸田氏鐵之に代りて入部す。其の曾孫氏定弟氏成に新田一万石を與へて支封とす。元和の初め國の東南境を以て、尾州公德川義直に賜ひ、義直其の傅相竹腰正信を今尾三万石に封じ、附家老といふ。天正の末市橋長勝の邑となり、關原役に長勝東軍に屬して其の領を保てり。慶長十二年伯耆八橋に轉封せられて



より城主中絶したりしが、竹腰氏の封を此の地に受くるや、子孫相襲ふて居館を此に設けり。其の他の藩地には加納高須郡上岩村苗木高富の八藩あり。此等各藩の廢置領主の變更等を詳記するは繁に堪へざる所、末尾に附せる列藩諸侯表に譲ることせん。

三河には吉田岡崎西尾田原刈谷舉母奥殿西大平西端の九藩ありしが、文久年中奥殿を罷め、信濃の田野口に徙す。

遠江にては關原役後松平忠頼を濱松に松平忠勝を掛川に松平忠政を横須賀に與ふ。慶長十四年濱松に水野重仲を封じ、同年徳川頼宣をして掛川横須賀を合て領せしむ。元和五年頼宣の紀伊に徙るや、濱松に高力忠房を、掛川に松平定綱を、横須賀に松平重勝を封ず。後掛川横須賀二藩を廢し、駿河一國を徳川忠長に賜ふと共に、遠江國中十二万餘石を兼領せしむ。忠長除封の後濱松掛川横須賀の三藩あり、後相良藩を置き總て四藩王政維新に至る。各藩領主の變更ありきと雖も、今盡く之れを述ぶるの暇なし。

信濃には總て十一藩(初五藩)あり。松本松代上田高嶋高遠飯田飯山須坂小諸

三河
遠江
信濃

岩村田山野口是れなり。各城概ね領主の交迭一再に止まらず、此に盡く列擧するの要を見ず。暫く列藩諸侯表に譲るべし。

地名 幕府初世の領主

尾張名古屋	六十二万石	徳川義直
三河岡崎	五万石	本多廣紀
全吉田	三万石	松平忠利
全西尾	二万石	本多康俊
全刈谷		
全舉母		三宅康信
全田原	一万石	戸田尊次
全西大平		
全伊保	一万石	丹羽氏信
遠江濱松		
全掛川		

幕府末路の領主

五十六万四千五百石	徳川徳成
五万石	本多忠民
七万石	松平信吉
六万石	松平乗秩
三万石	土井利教
二万石	内藤正兵?
一万二千石	三宅康保
一万石	大岡忠敬
六万石	井上正直
五万三千七百石	太田資美

全横須賀		
全相良		
駿河府中	五十五万石	徳川頼宣
全沼津		
全田中		
全小島		
甲斐谷村	一万八千石	秋元泰朝
美濃大垣	五万石	石川忠總
全郡上(八幡)	二万六千石	遠藤慶隆
全加納	十万石	松平忠隆
全高須	五万七千七百石	徳永昌重
全岩村	二万石	松平朱壽
全苗木	二万五百石	遠山友政
全高富		

三万五千石	西尾忠篤
一万石	田沼意尊
五万石	水野忠誠
四万石	本多忠納
一万石	松平丹波守
十万石	戸田助三郎
四万八千石	青山幸宜
三万二千石	永井尙服
三万石	松平義勇
三万石	松平乘命
一万廿一石	遠山友祥
一万石	本庄道美

全 掛美三万五千石	西尾光教	十万石	真田幸民
飛驒高山六万千石	金森重頼	六万石	松平光則
信濃松代			松平忠禮
全 松本八万石	小笠原忠真	五万三千石	内藤頼直
全 上田六万石	真田信幸	三万三千石	諏訪忠誠
全 高遠三万石	保科正光	三万石	本多乙次郎
全 高島三万石	諏訪頼水	二万石	堀親義
全 飯山三万石	堀直寄	一万石	牧野康濟
全 飯田	脇坂安元	一万五千石	内藤正誠
全 小諸	仙石忠政	一万五千石	堀直虎
全 岩村田		一万五千石	松平乘謨
全 須坂一万五千石	堀直重	一万六千石	
全 田野口			

九 維新以後

維新以後は中部地方の沿革として特に述べべきもの多からず。彼の戊辰の役に際しては美濃大垣藩首として官軍に属し、其の兵勇悍の聞えありき。

明治初年地方の政治を改めて府藩縣となすや、飛驒に高山縣、伊豆に韭山縣、甲斐に甲府縣、美濃に笠松縣の四縣を置く。而して各藩の廢合せる者を擧ぐれば、尾張にては徳川氏の傳相たりし犬山の成瀬氏を以て藩屏に列し、三河にては板倉勝重を磐城の福島より移して重原に、安部信發を武藏の岡部より徙して半原に封じ、總て十藩、吉田を改めて豊橋と稱す。遠江にては從來の四藩を房總の地に徙し、其の故地を駿河の静岡藩に屬せしめ、別に堀江藩を立つ。駿河にては川中及び小島の兩松平氏、沼津の水野氏を房總に徙し、新たに徳川家康を府中に封じ、且つ府中を改めて静岡と稱す。信濃に伊那中野の二藩を立つ。その他諸國の藩には概ね舊時と異ならず。後藩を改めて縣となし、舊藩主をして之が縣知となす。幾くもなく皆廢せられ、其結果中部

諸藩の廢合

廢藩置縣

地方の行政區畫は左の如くなりぬ。

愛知縣(尾張) 額田縣(三河) 濱松縣(遠江) 静岡縣(駿河) 岐阜縣(美濃)

伊豆は相模半部と共に足柄縣の管する所、已に第一卷述べたる如し。此後

額田縣を廢して愛知縣に、濱松縣を廢して静岡縣に、筑摩縣を廢して長野縣

に合せ、而して伊豆は足柄縣の廢止と共に静岡縣の管轄に入り、以て今日に

至れり。

軍政

軍政は明治六年正月全國を六管鎮臺となすや、名古屋に名古屋鎮臺を設けらる。其の後師團制に改め、名古屋に第三師團を置き、第五旅團を名古屋に第十七旅團を豊橋に置けり。

爾來中部地方に於ては産業と言はず、教育と言はず、其の進歩頗る大なるものあり。殊に名古屋市の如きは、真に中京の名に背かざる盛況を呈しつゝあり。其の現況に至つては之れを政治宗教以下の諸編に徴すべし。

行政區劃及縣

第二章 政治宗教

一 行政

中部地方に屬する尾張三河遠江駿河甲斐伊豆美濃飛驒信濃の九國は現今の行政區劃に於て之れを静岡愛知岐阜山梨長野の五縣に分かつ。静岡縣は駿河遠江及び伊豆の三國を管して一市十三郡あり。其の縣廳を静岡市(第五十圖乙)に置く。伊豆七島は東京府に屬すること已に第一卷に述べたるが如し。(第五十圖甲) 愛知縣は尾張三河の兩國より成り一市十九郡あり。縣廳を名古屋市に置く。(第四十九圖丙) 岐阜縣は美濃飛驒兩國の全部より成り、管内一市十八郡、縣廳を岐阜市に置く。(第四十九圖乙) 山梨縣は甲斐國全部を管し、一市九郡より成り、甲府市を縣廳の所在地とす。(第四十九圖甲) 長野縣は信濃國一圓を管し、一市十六郡、長野市に縣廳あり。

各縣の中面積の最も大なるものは長野縣にして、八百七十八方里あり。其

の最も少きものは山梨縣にして、二百八十三方に過ぎず。今前巻の例に倣ひ、各縣の面積を示せば左の如し。

縣名	面積 (方里)	人口	人口密度 (方里ニツキ)
静岡縣	七五〇三方里	一、二〇〇、三二二	一方里ニツキ 二四九七
愛知縣	四九二八方里	一、六三九、六一一	一方里ニツキ 三三二〇
岐阜縣	一〇九〇四方里	九七七、九二二	一方里ニツキ 一四〇〇
山梨縣	三二二八方里	五〇六、四九七	一方里ニツキ 一八五六
長野縣	一、三二〇方里	一、二六四、九一八	一方里ニツキ 一四三九

即ち入口の最も多きは長野縣にして百二十万餘に達し、最も少きは山梨縣にして僅かに五十万餘に過ぎず。更に人口の密度に就て觀るに、之れを前巻奥羽地方に比して、其の度著しく大なるを示せり。即ち奥羽地方に於ては密度最も大なる宮城縣にても、其の密度僅に一千七百七十三に過ぎざれども、中部地方に於ては、愛知縣の如きは五千百二十に達し、其の最も小なる岐阜縣に於てさへ、一千四百の密度を有せり。

山梨縣廳 (甲)

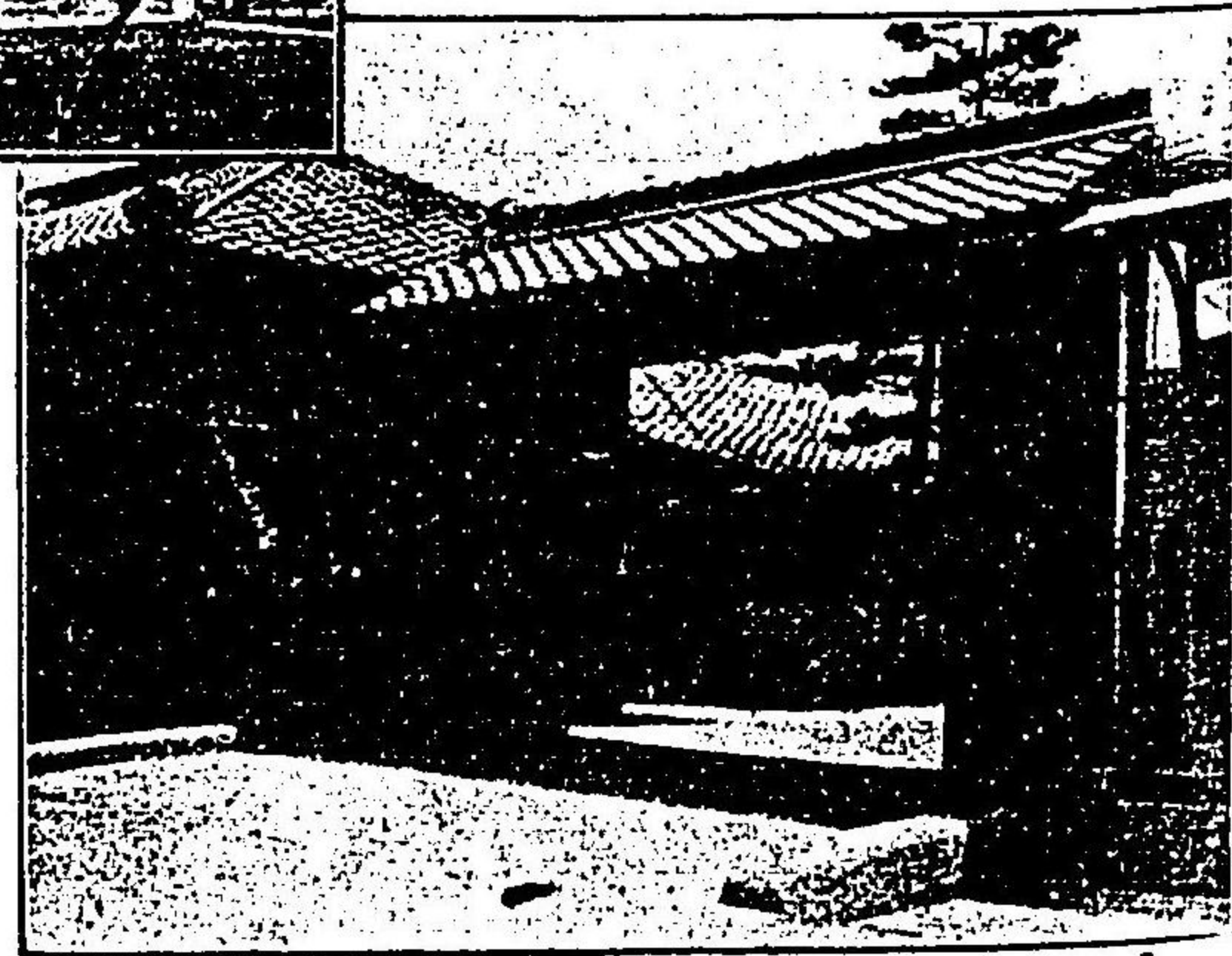


(乙) 岐阜縣廳

愛知縣廳 (丙)

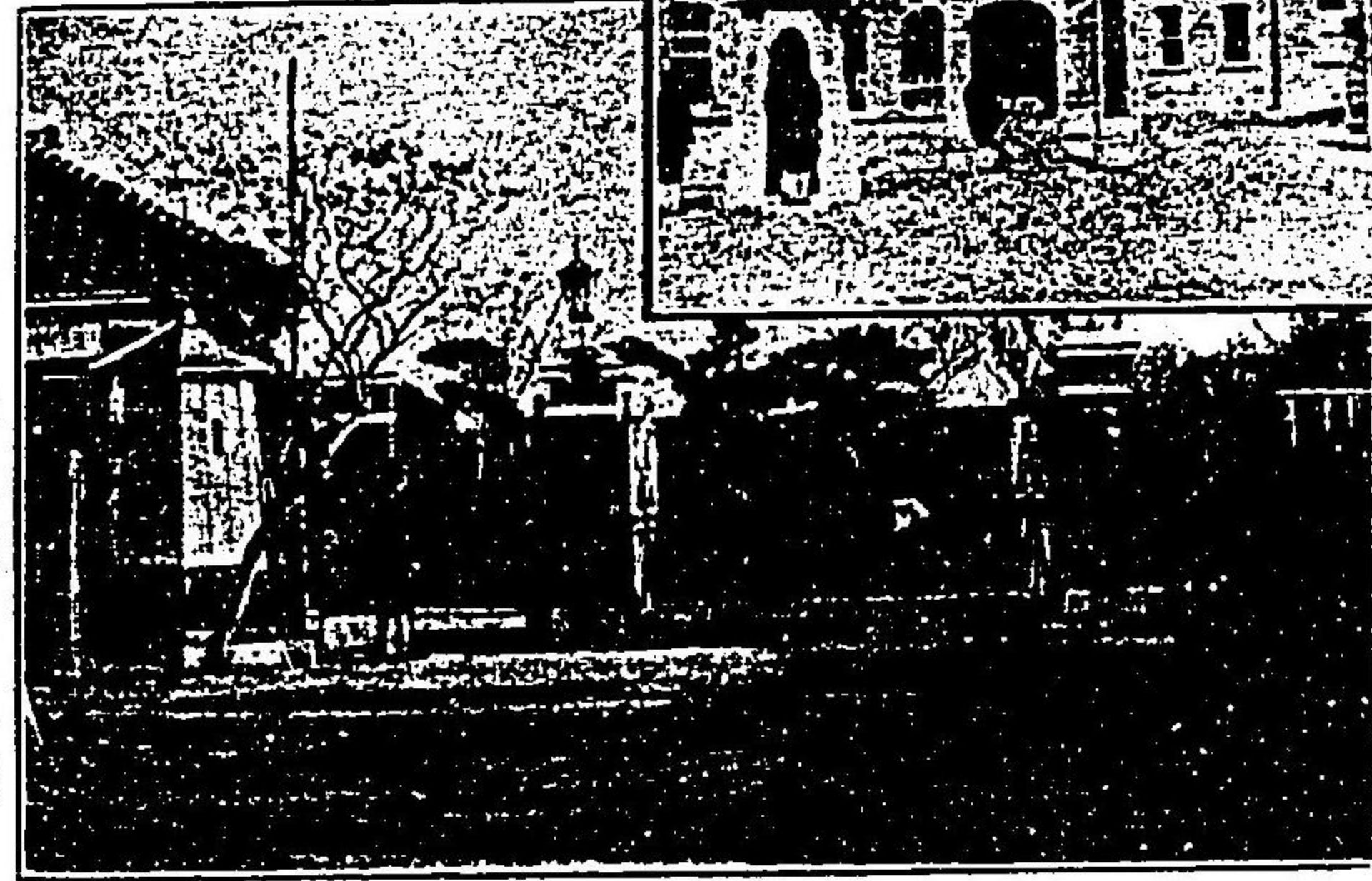
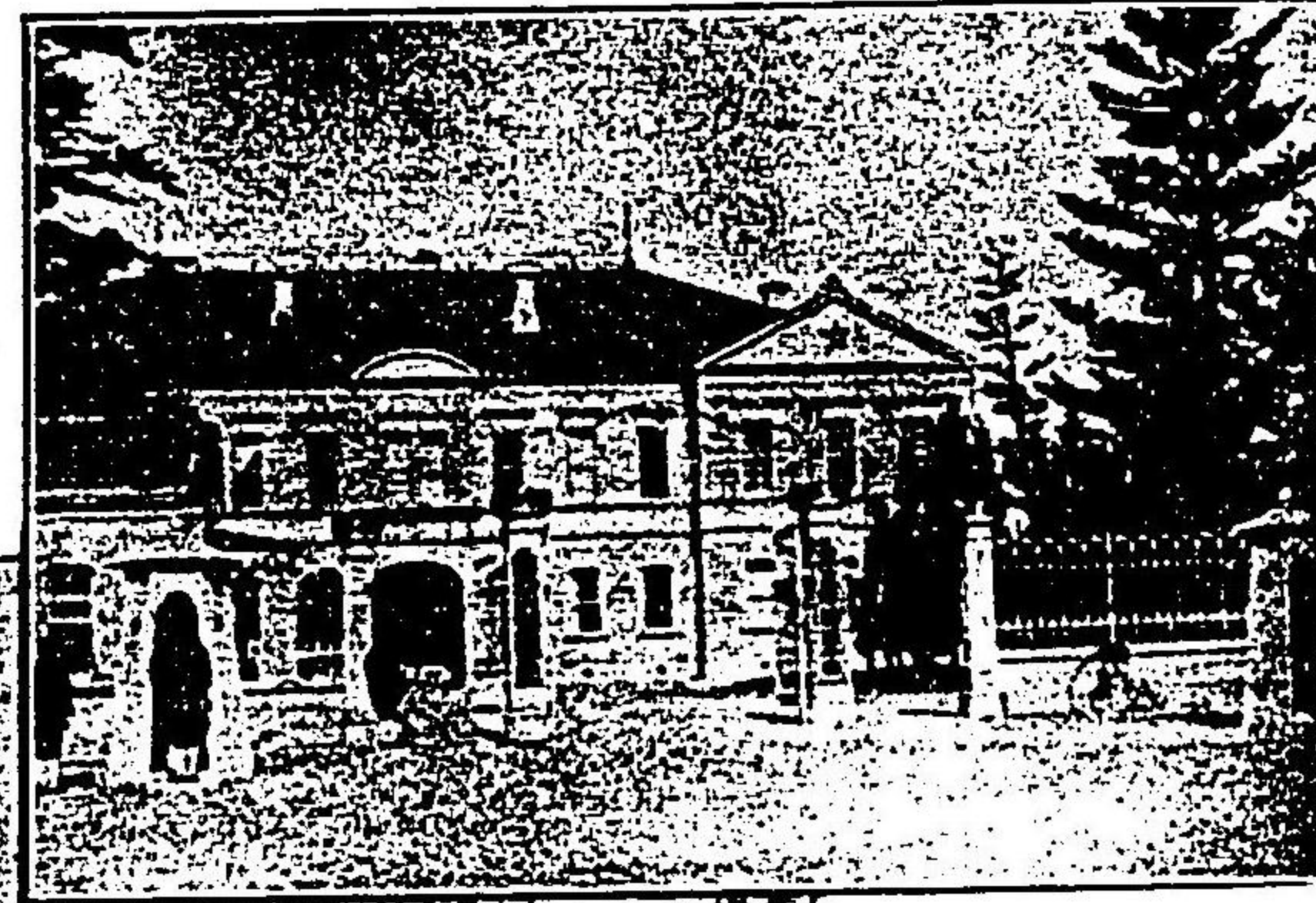


名古屋市役所 (丁)



(第四十九圖)

部令司團師三第屋古名 (甲)



(乙) 豐橋第十七旅團司令部



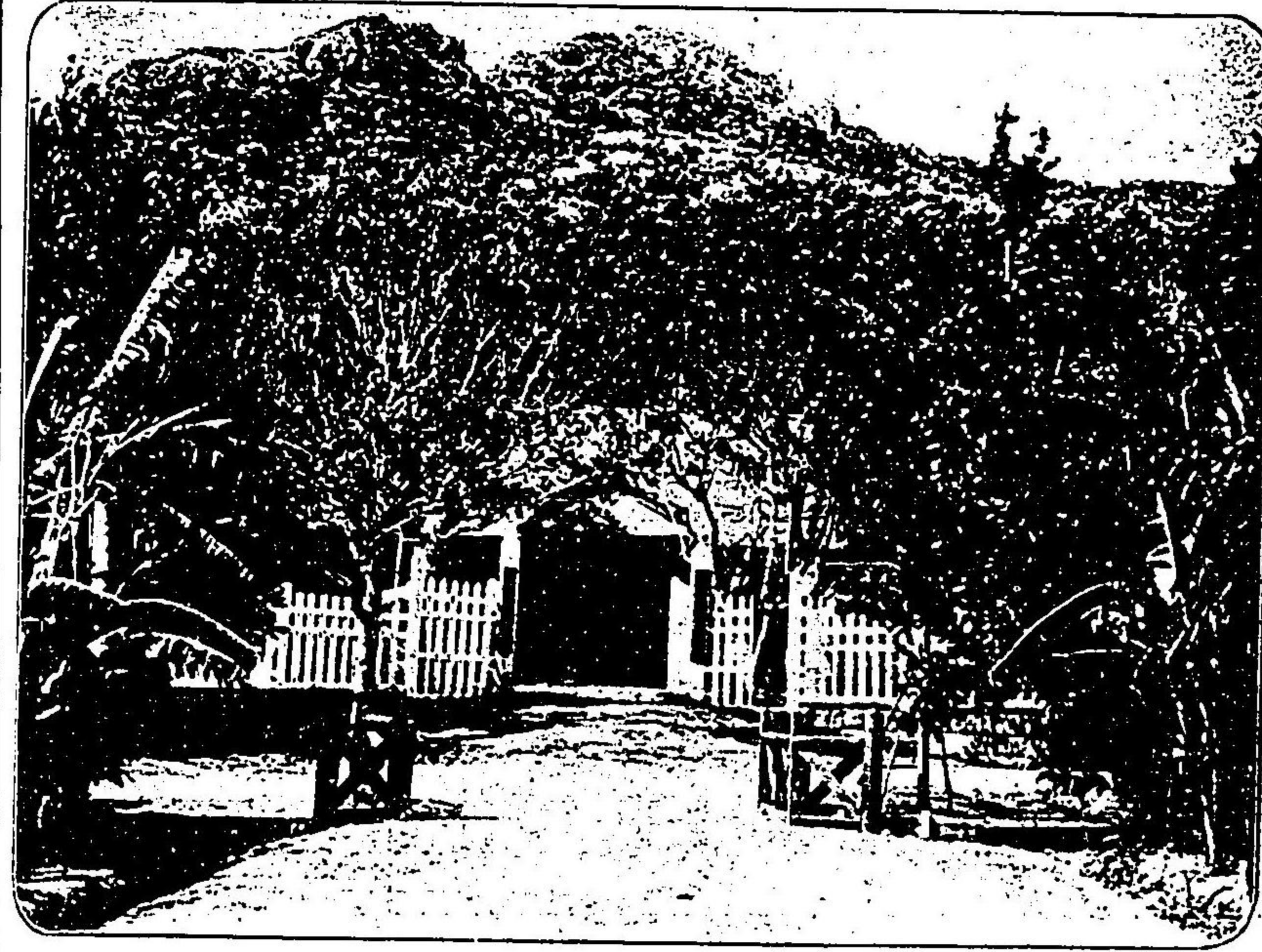
(丙) 豐橋十八聯隊
兵營



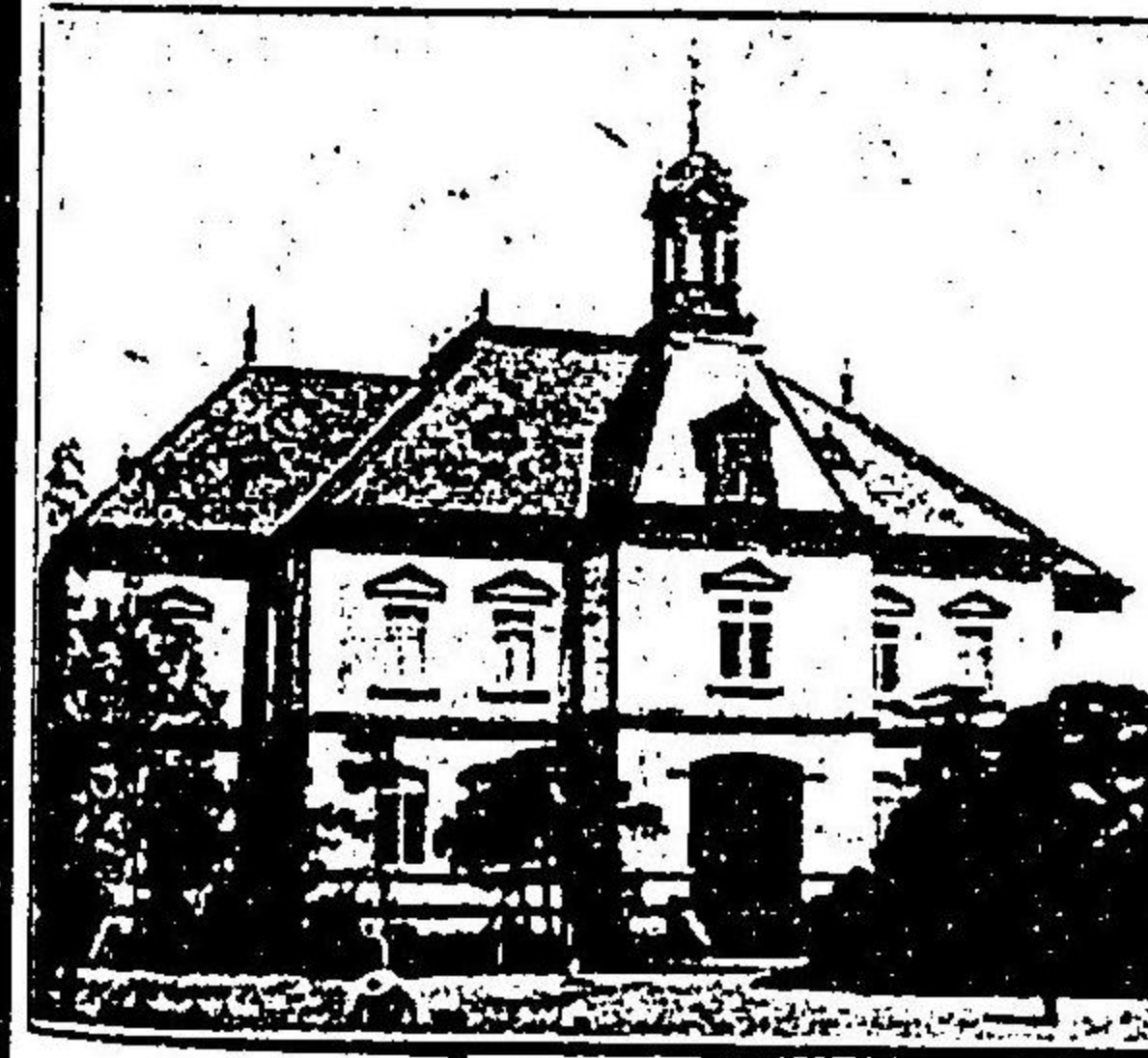
營兵隊聯四十三第岡靜 (丁)

(第五十一圖)

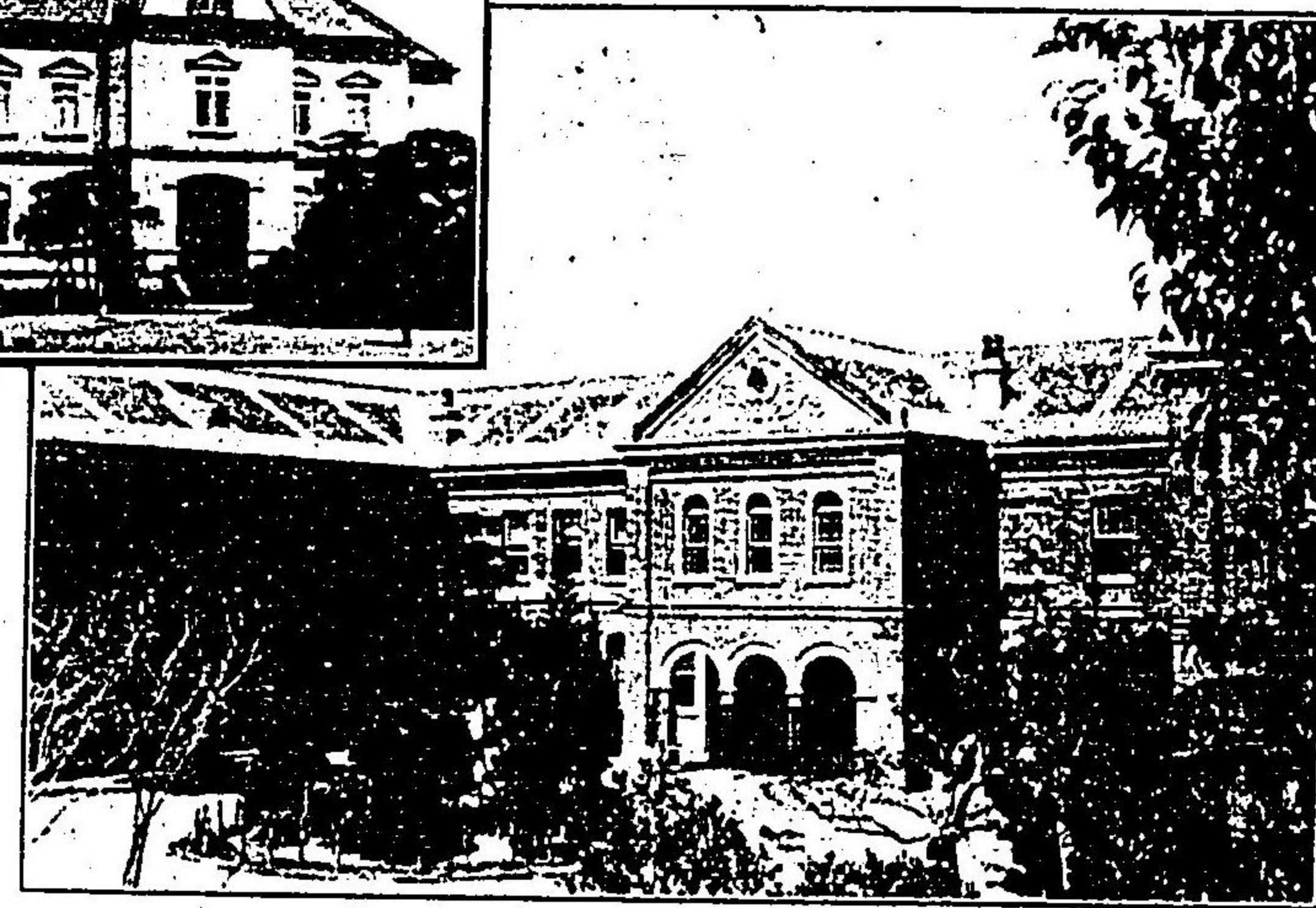
廳島原笠小 (甲)



堂事議會縣岡靜 (乙)



廳縣岡靜

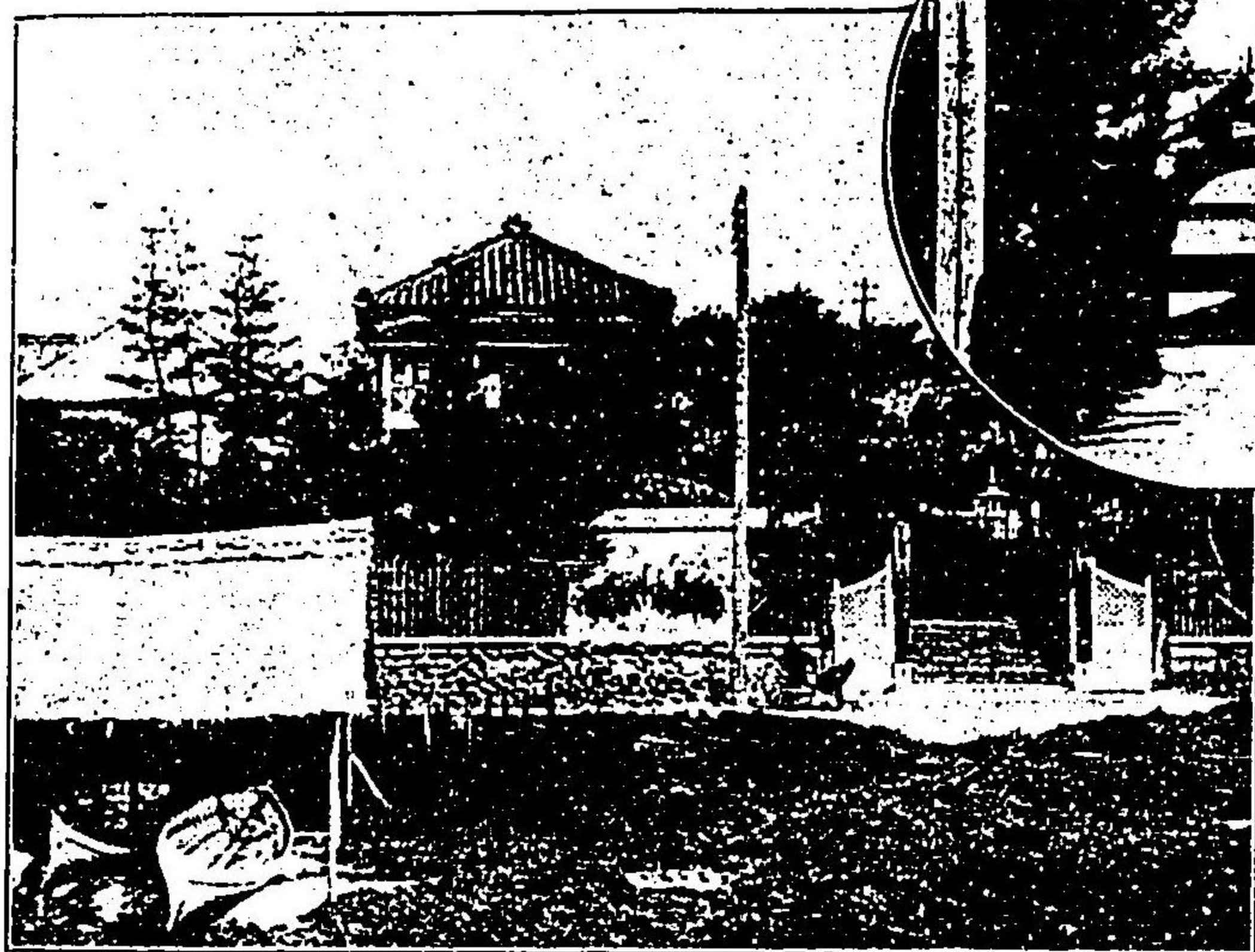


(第五十圖)

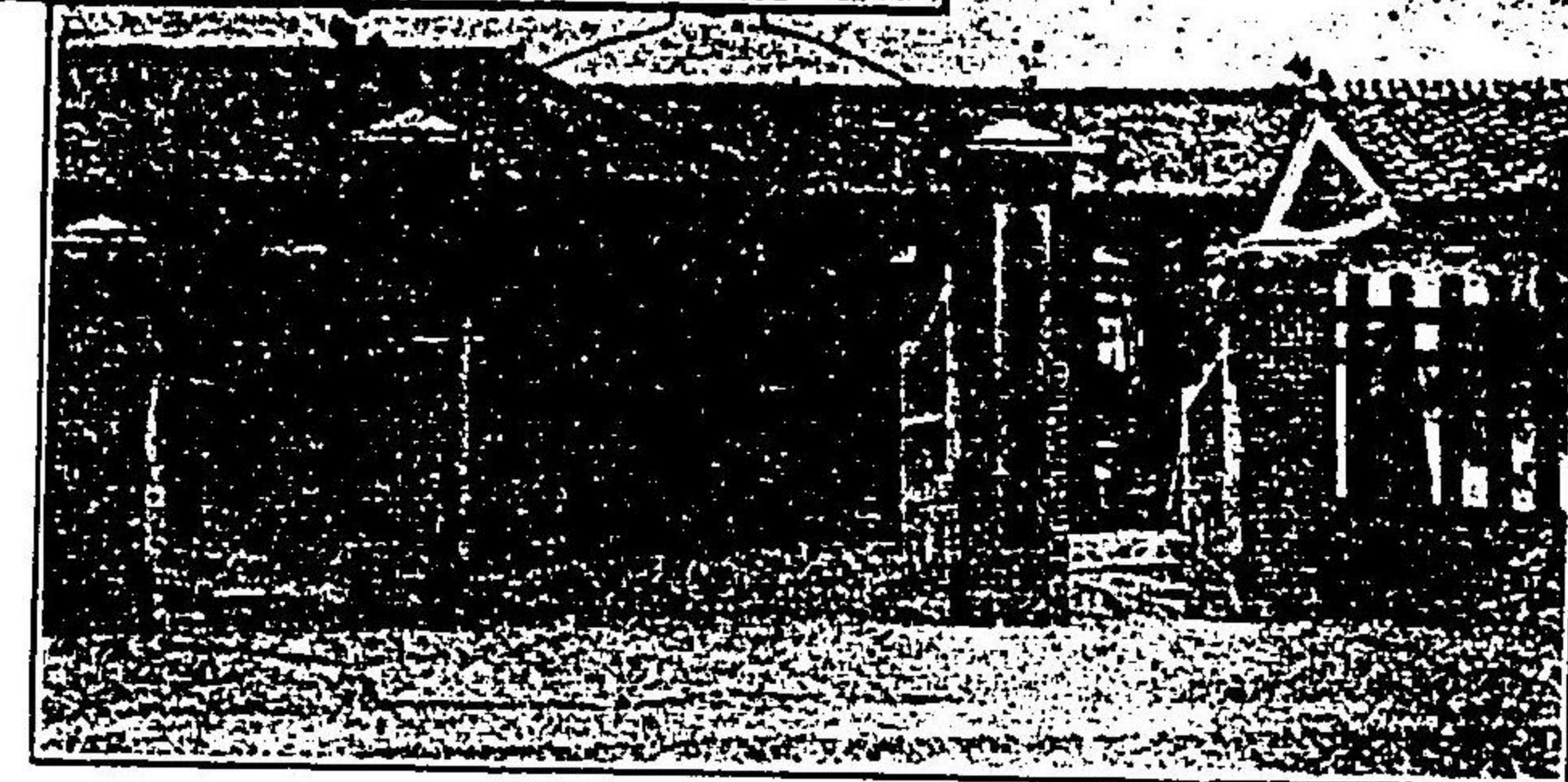
校學業工立縣知愛 (甲)



校學醫門專知愛 (乙)



校學範師縣阜岐 (甲)

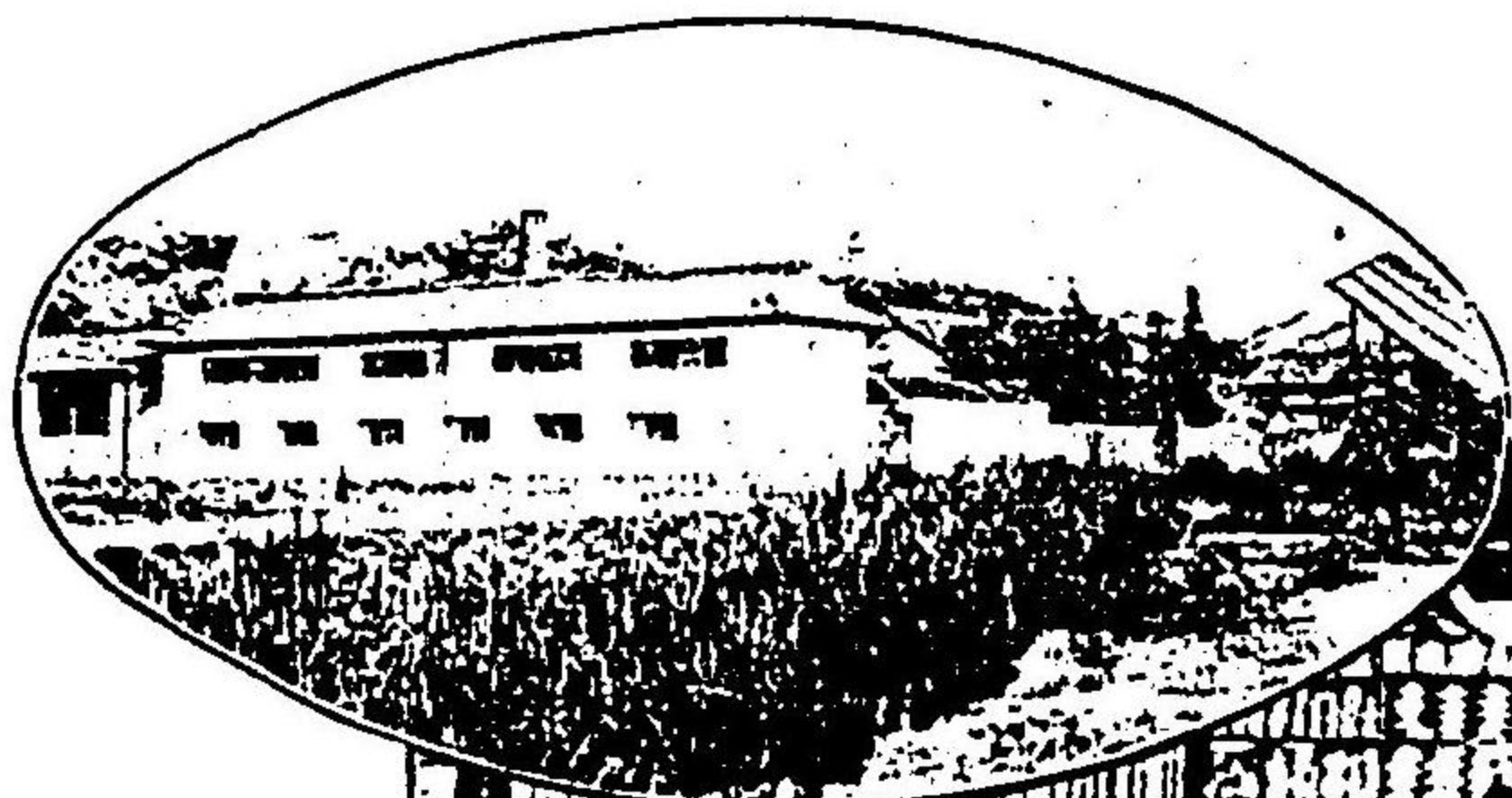


(乙) 愛知縣第一師範學校

校學中太斐山高 (丙)



(第五十二圖)



(第五十三圖)

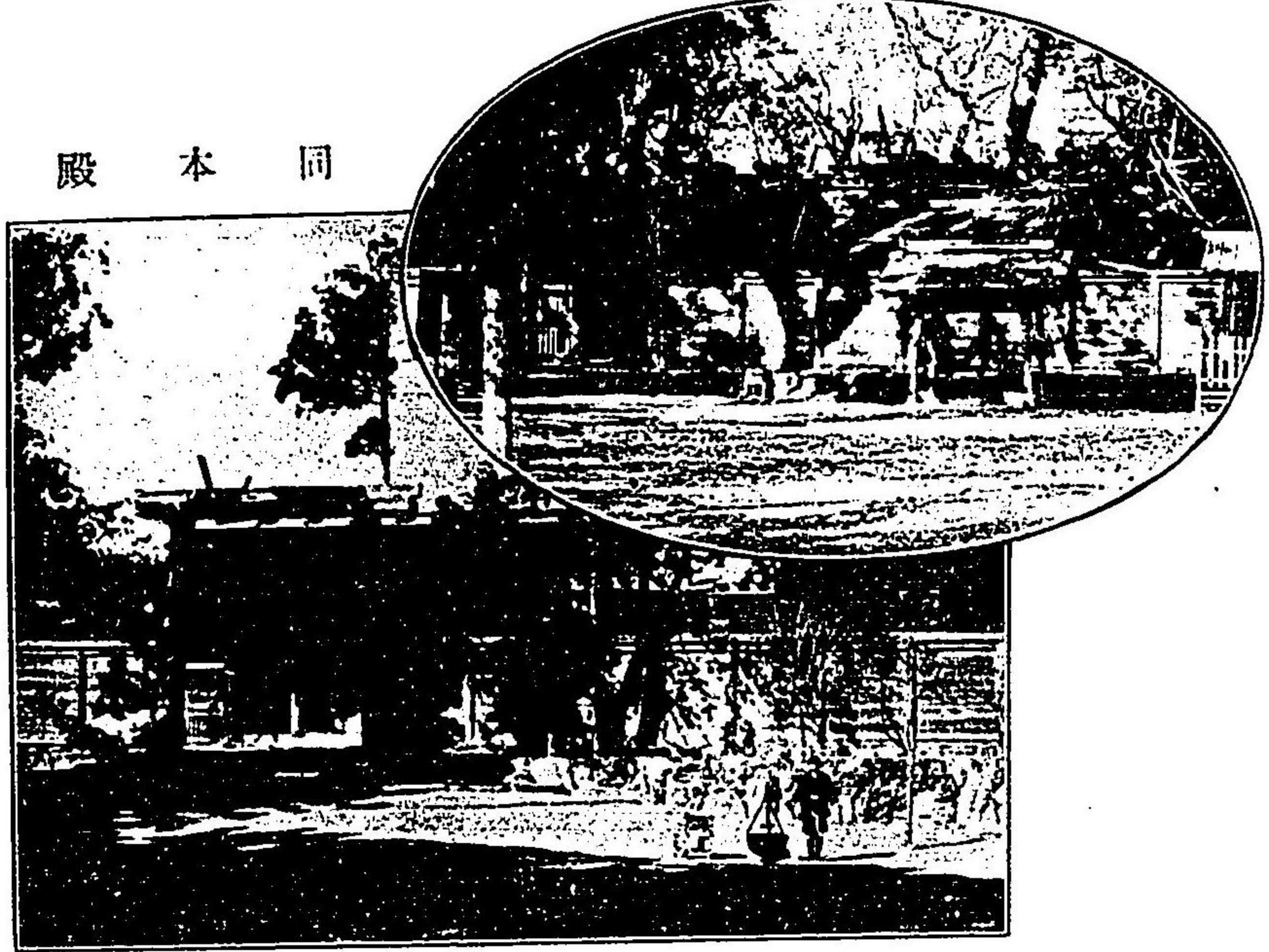
校學器陶郡岐土國濃美 (乙)



校學中阜岐 (丁)

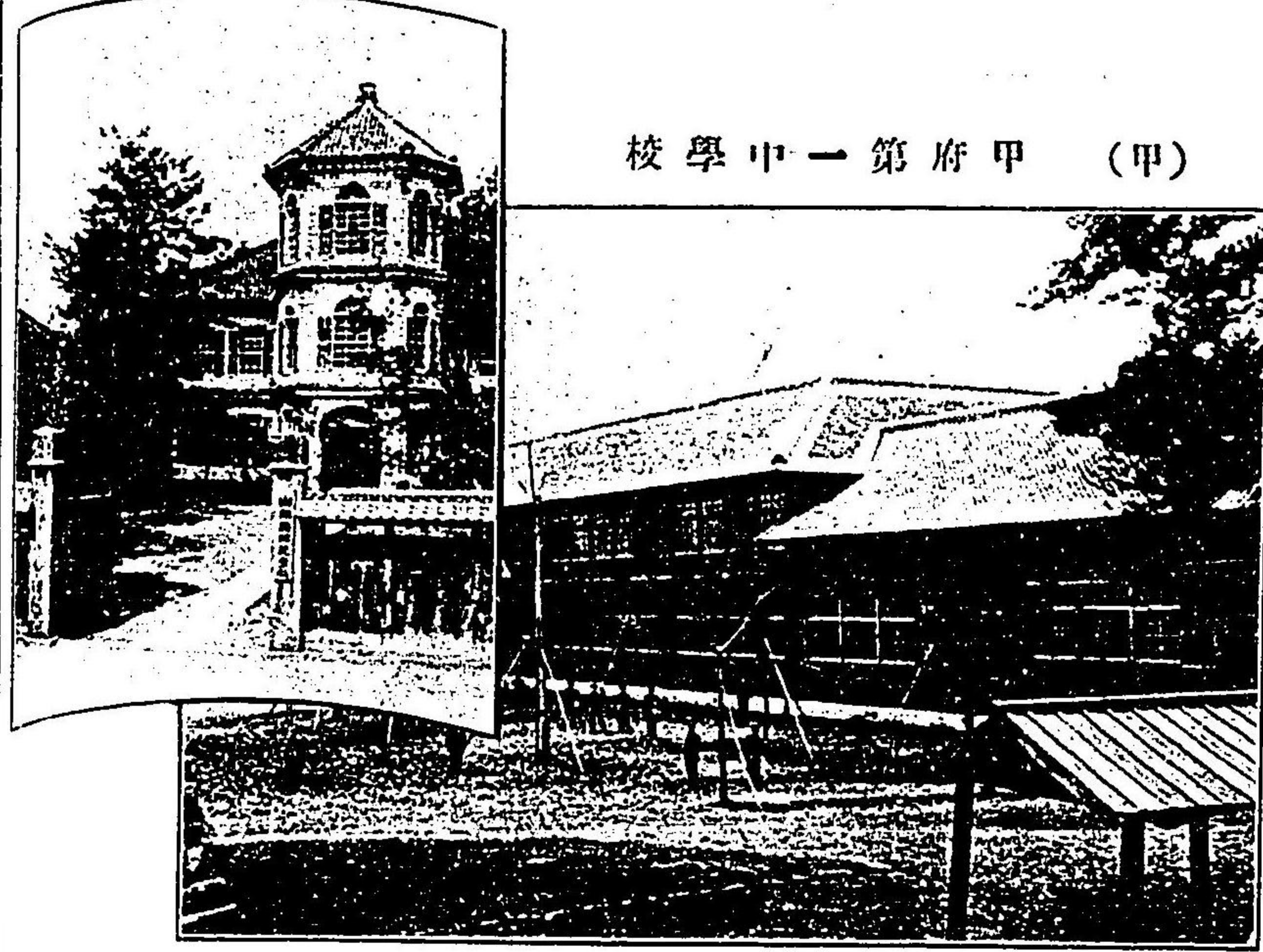
宮劔八宮神田熱國張尼 (甲)

殿本同

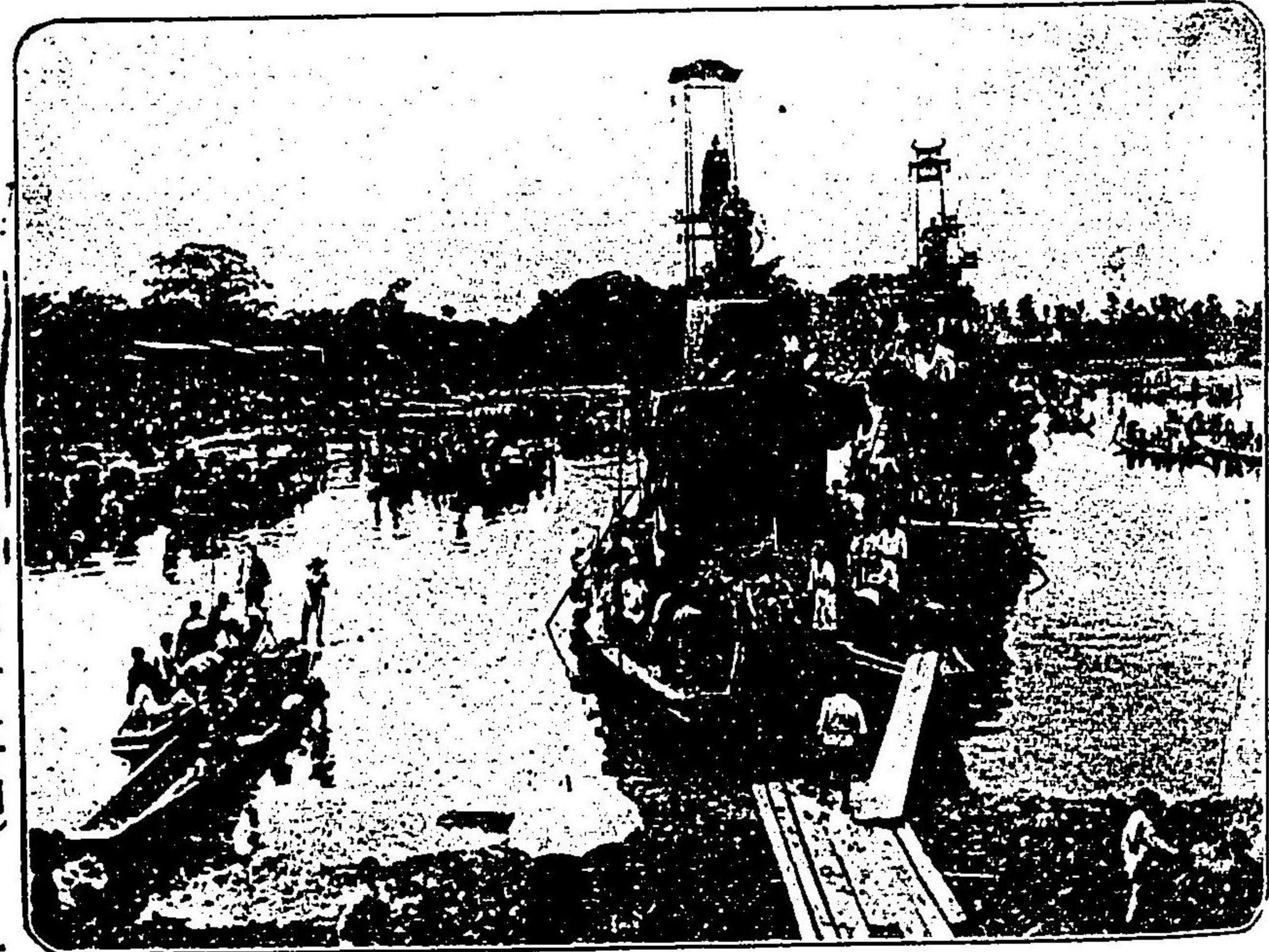


校學範師縣梨山 (乙)

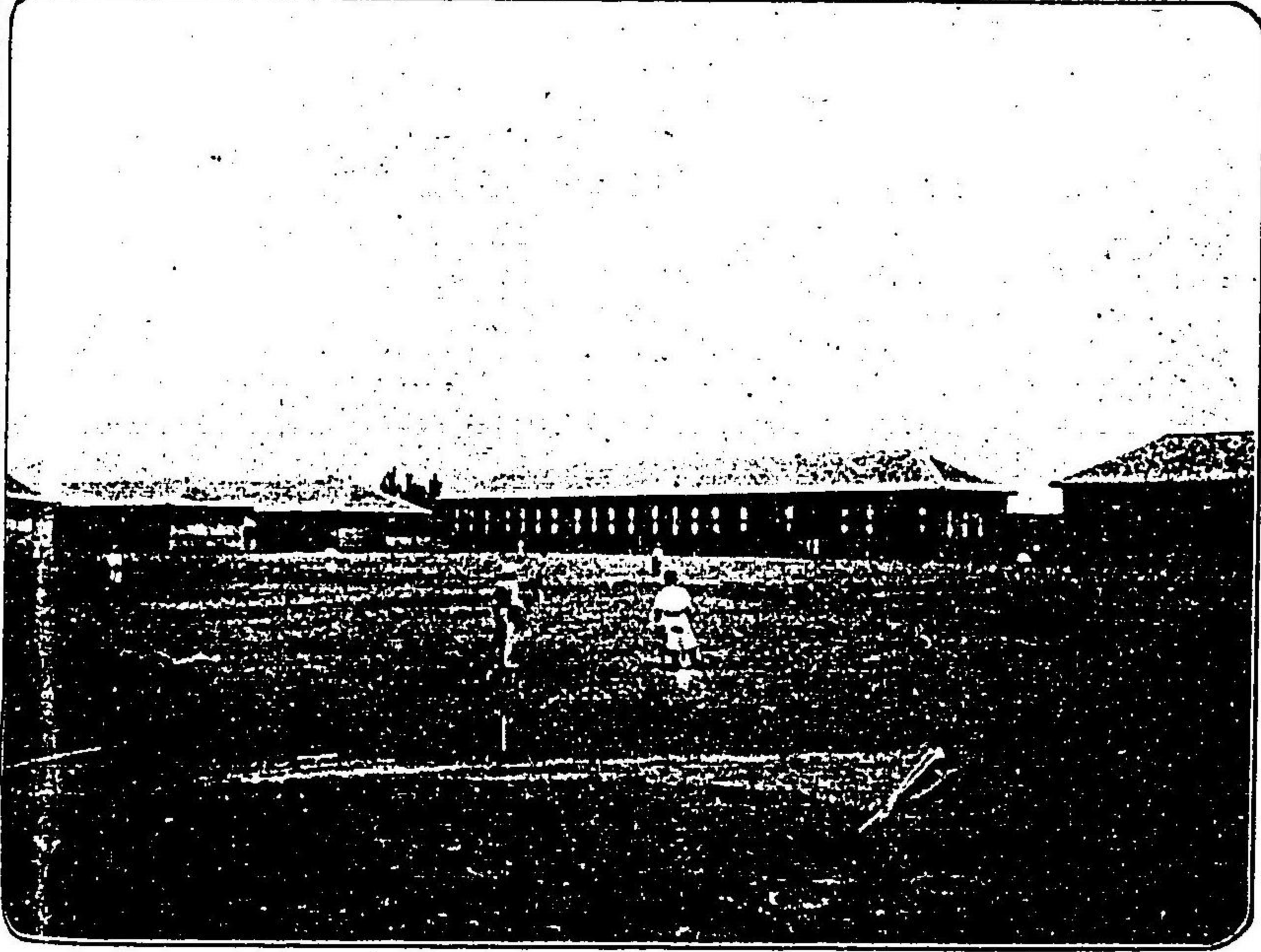
校學中一第府甲 (甲)



(第五十五圖)



典祭社神島津國張尼 (乙)



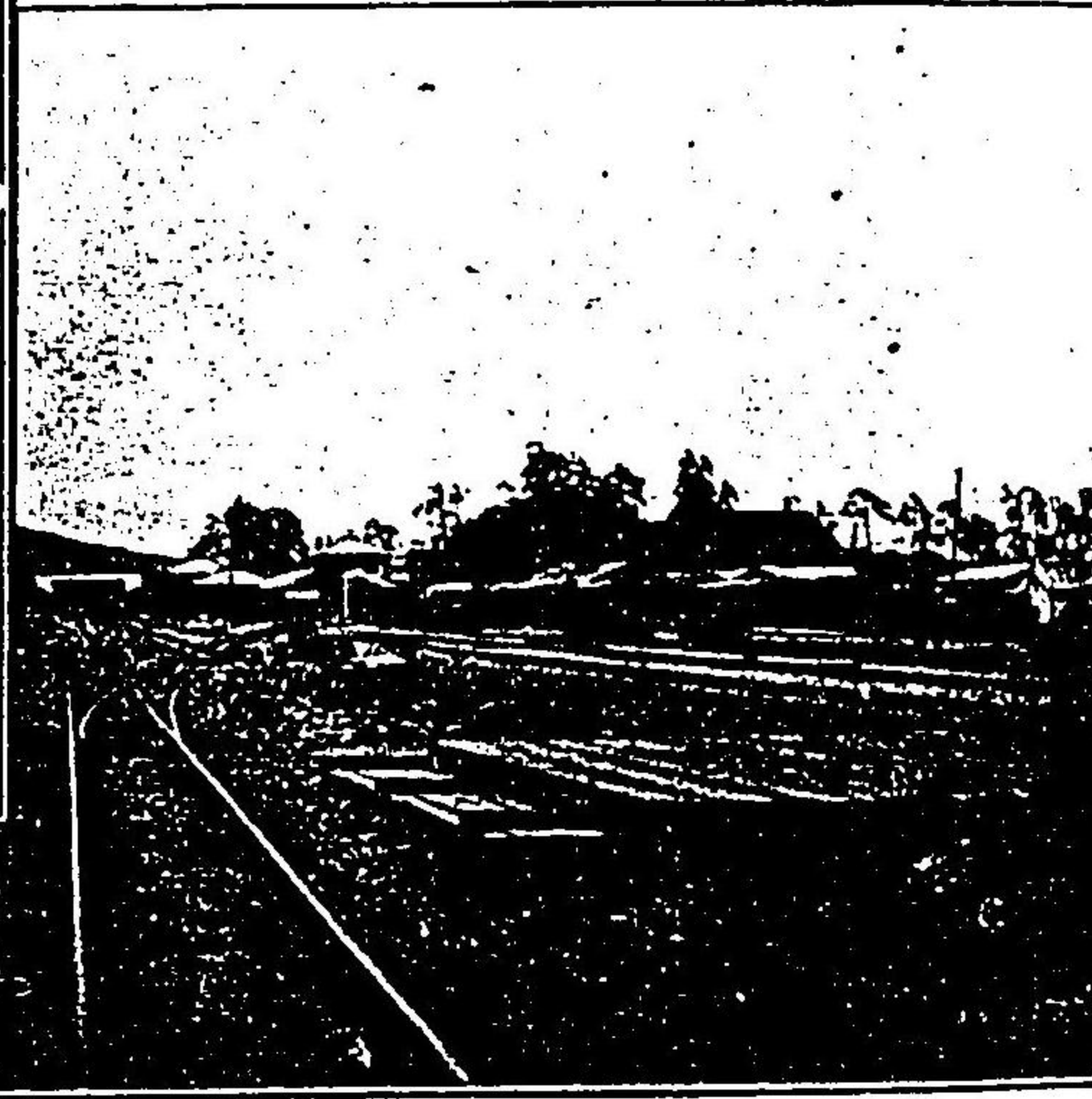
(第五十四圖)

校學中松濱 (丙)

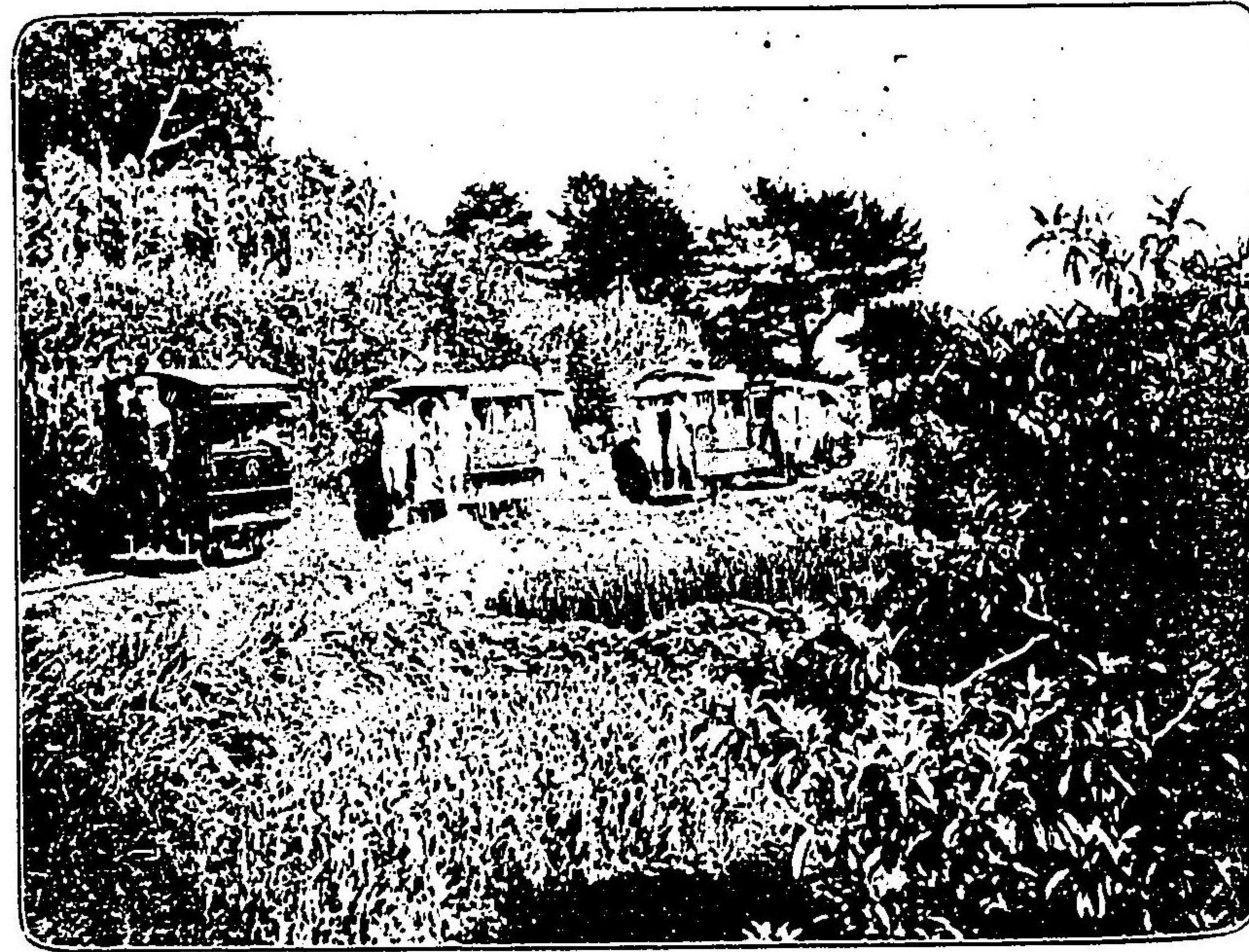
(甲) 甲斐國猿橋



甲府府停車場 (乙)

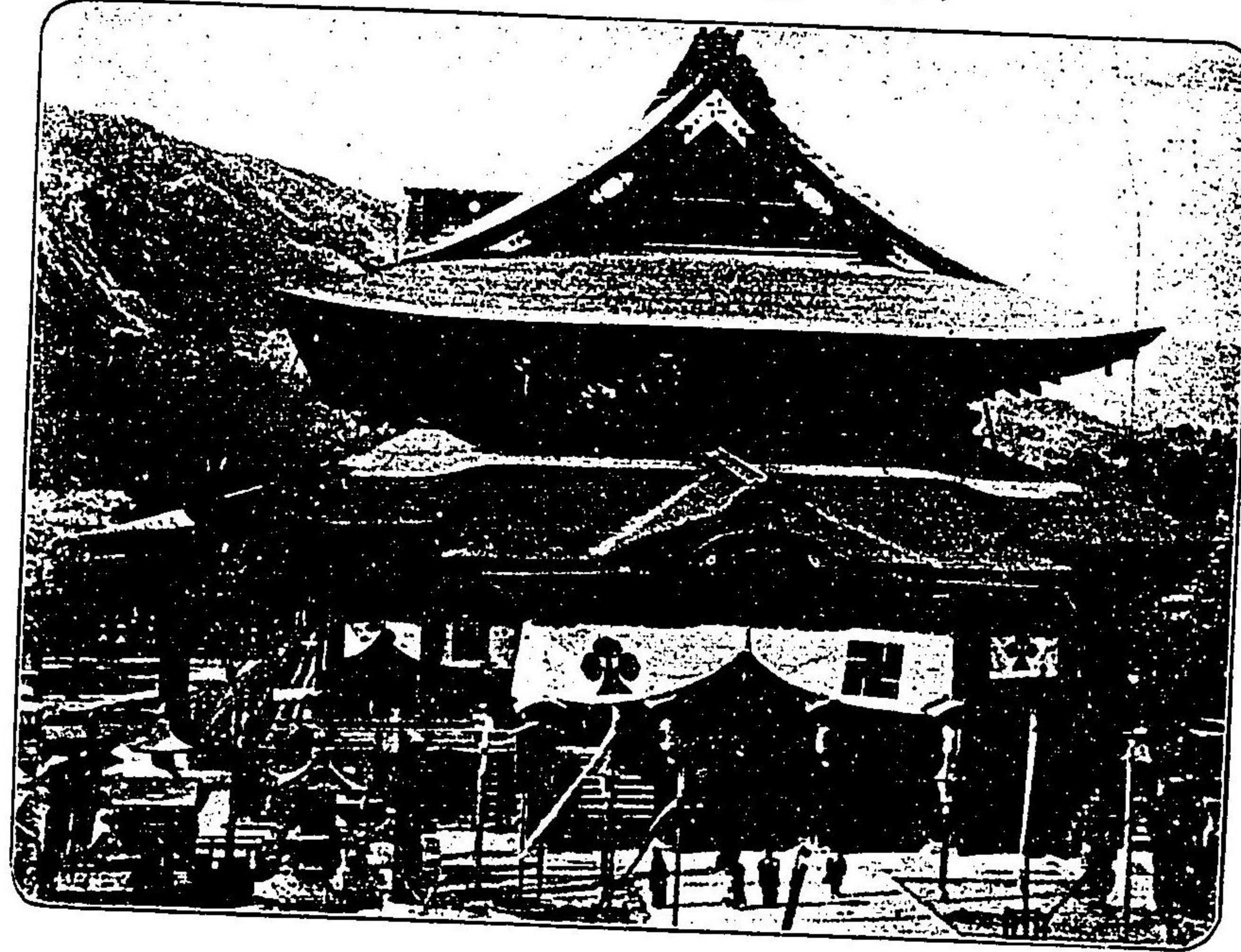


伊豆人車鐵道 (丙)



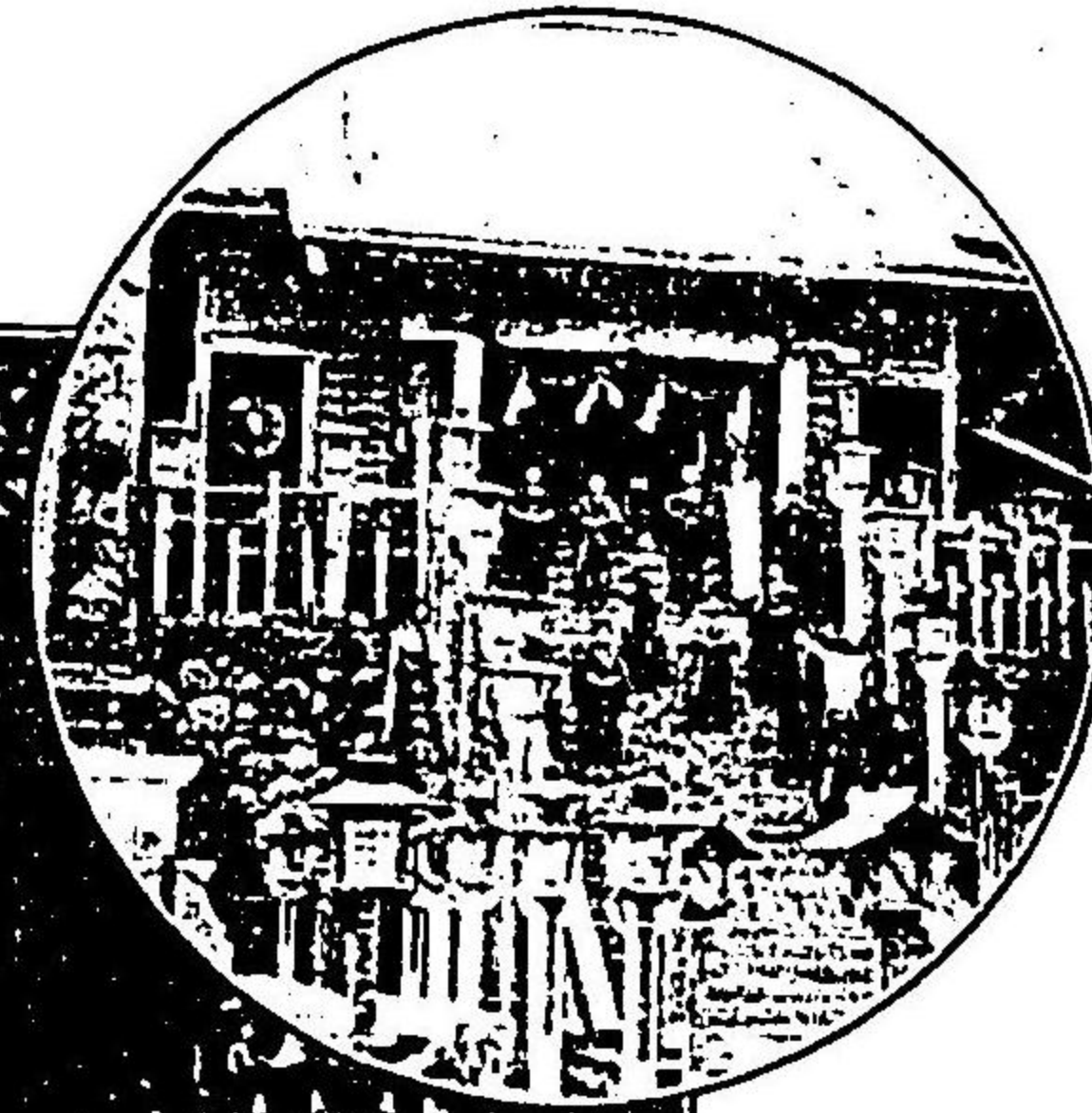
(第五十七圖)

信濃國善光寺 (甲)



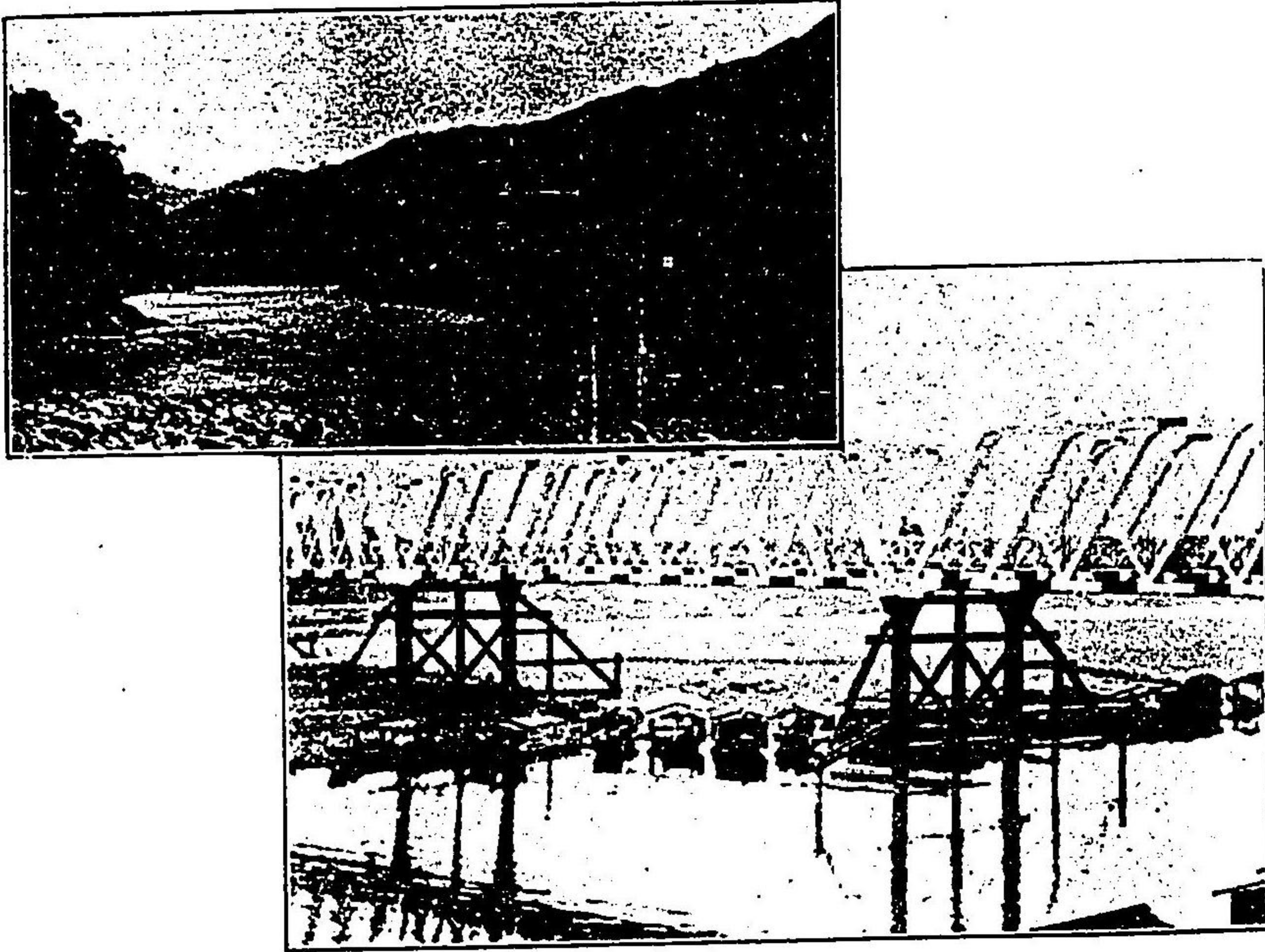
遠江國秋葉神社拜殿 (乙)

三河國川淵閣正門 (丙)

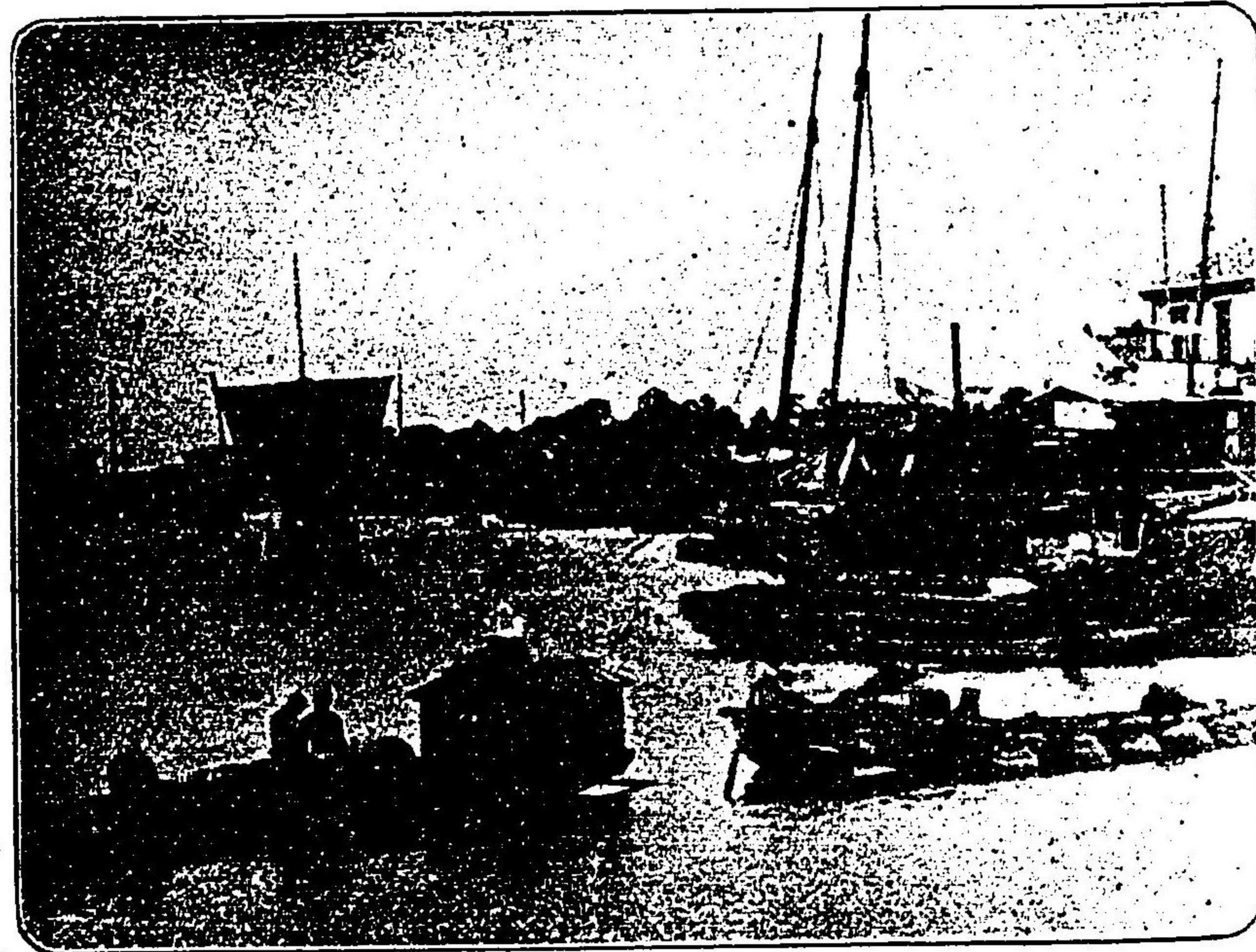


(第五十六圖)

(甲) 飛驒國朝六橋



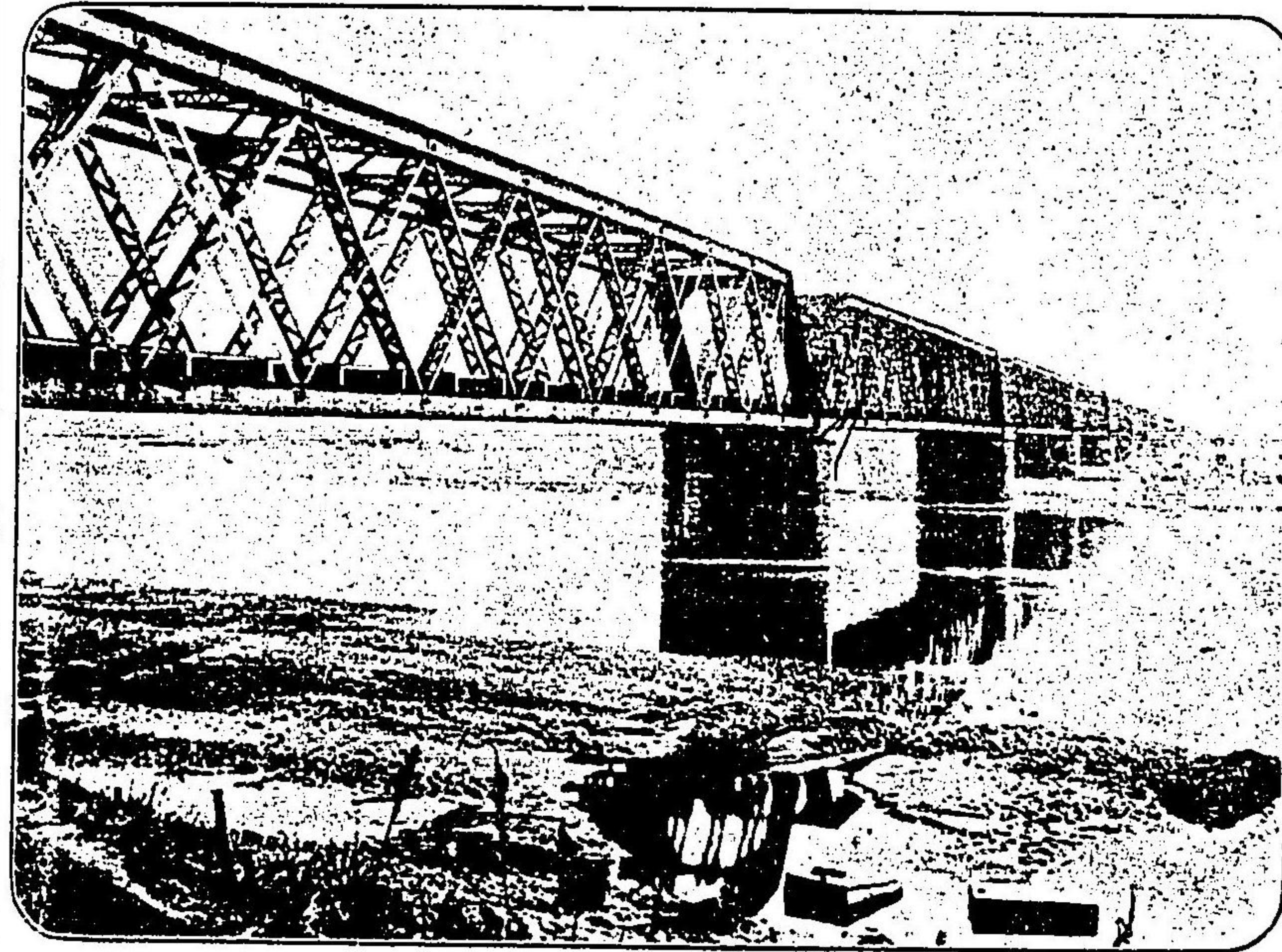
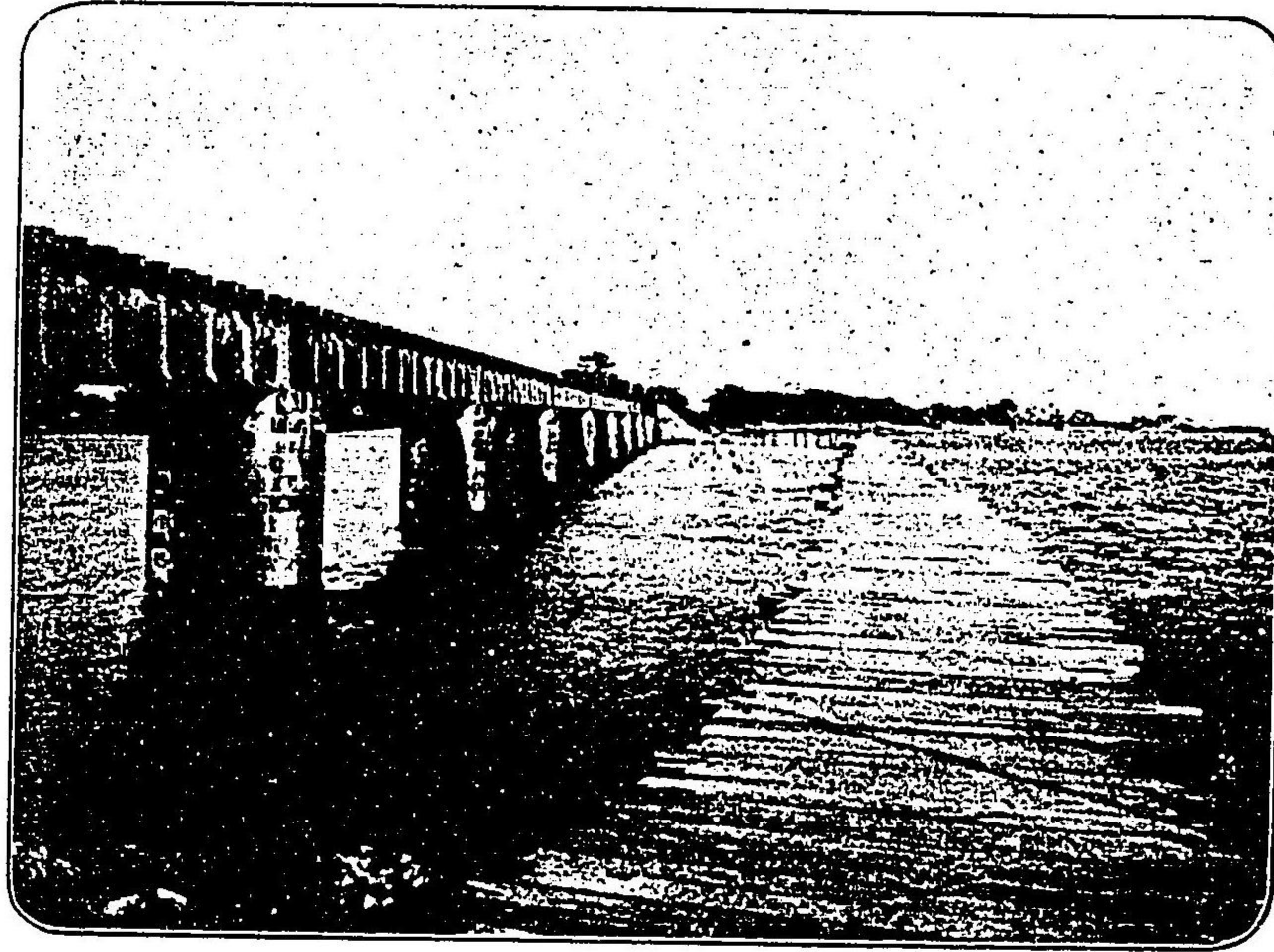
橋良長國濃美 (乙)



港山熱國張尼 (丙)

(第五十九圖)

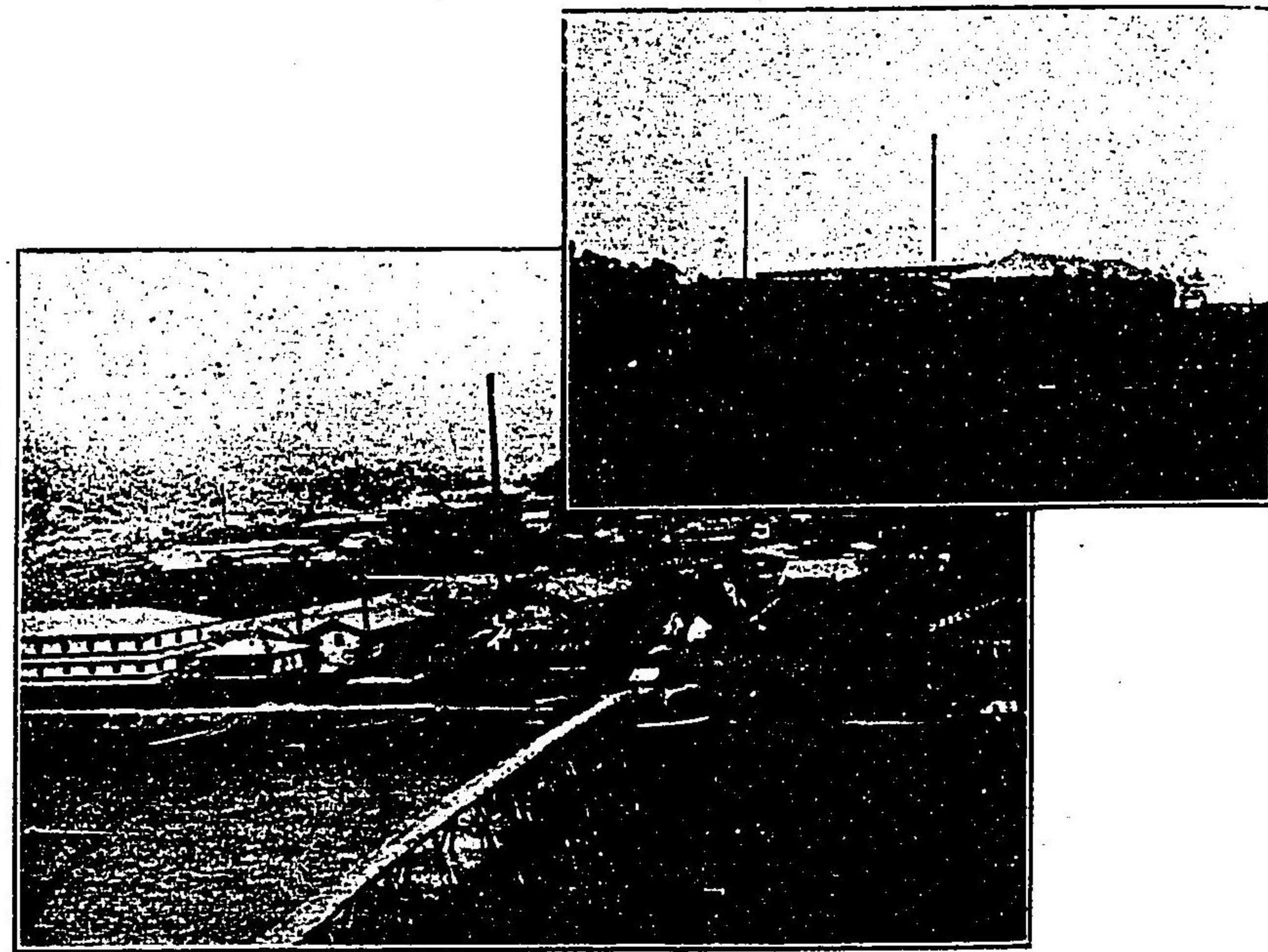
橋鐵湖名濱國江遠 (甲)



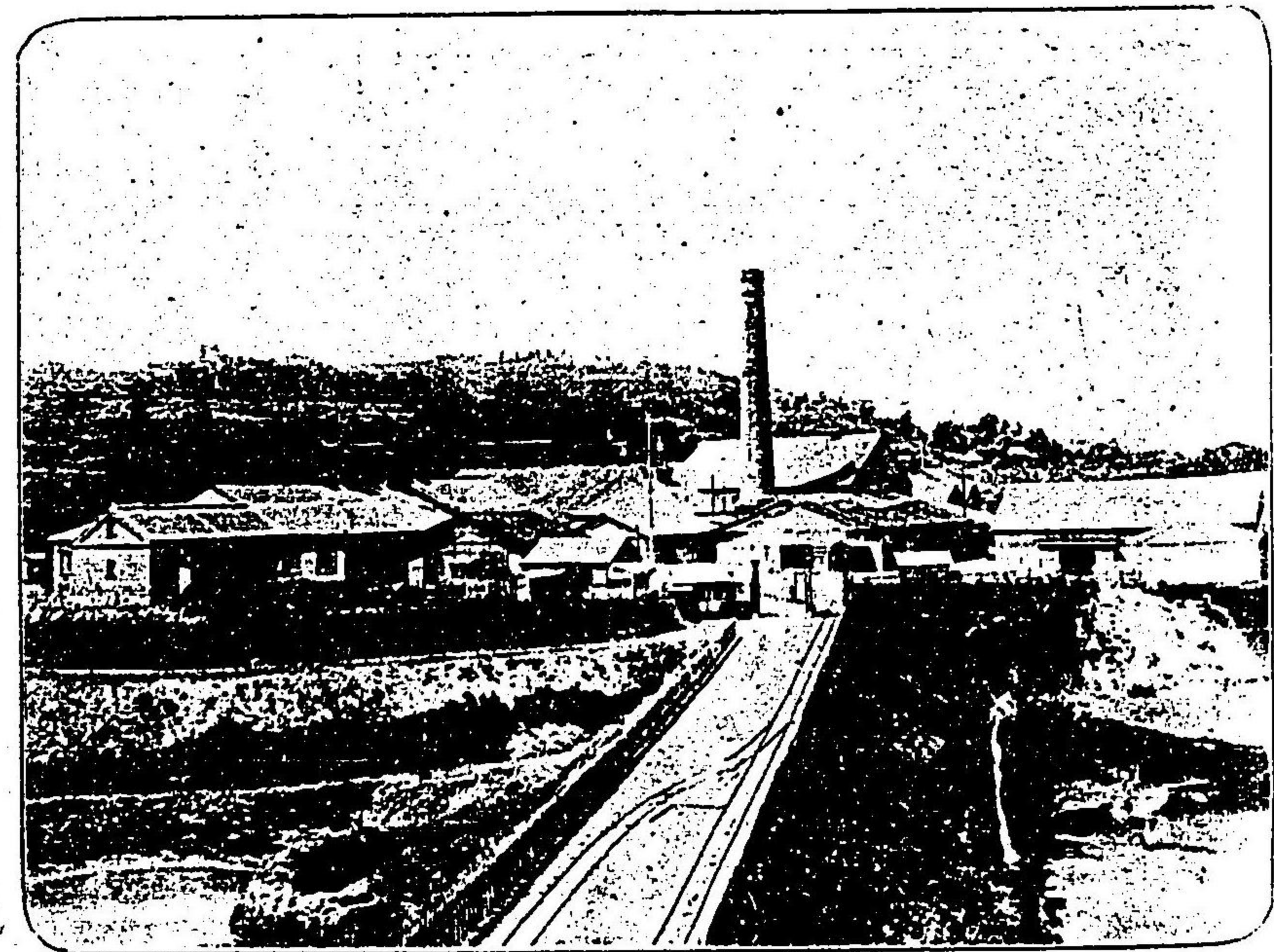
橋鐵川龍天國江遠 (乙)

(第五十八圖)

場絲製間風國斐甲 (甲)



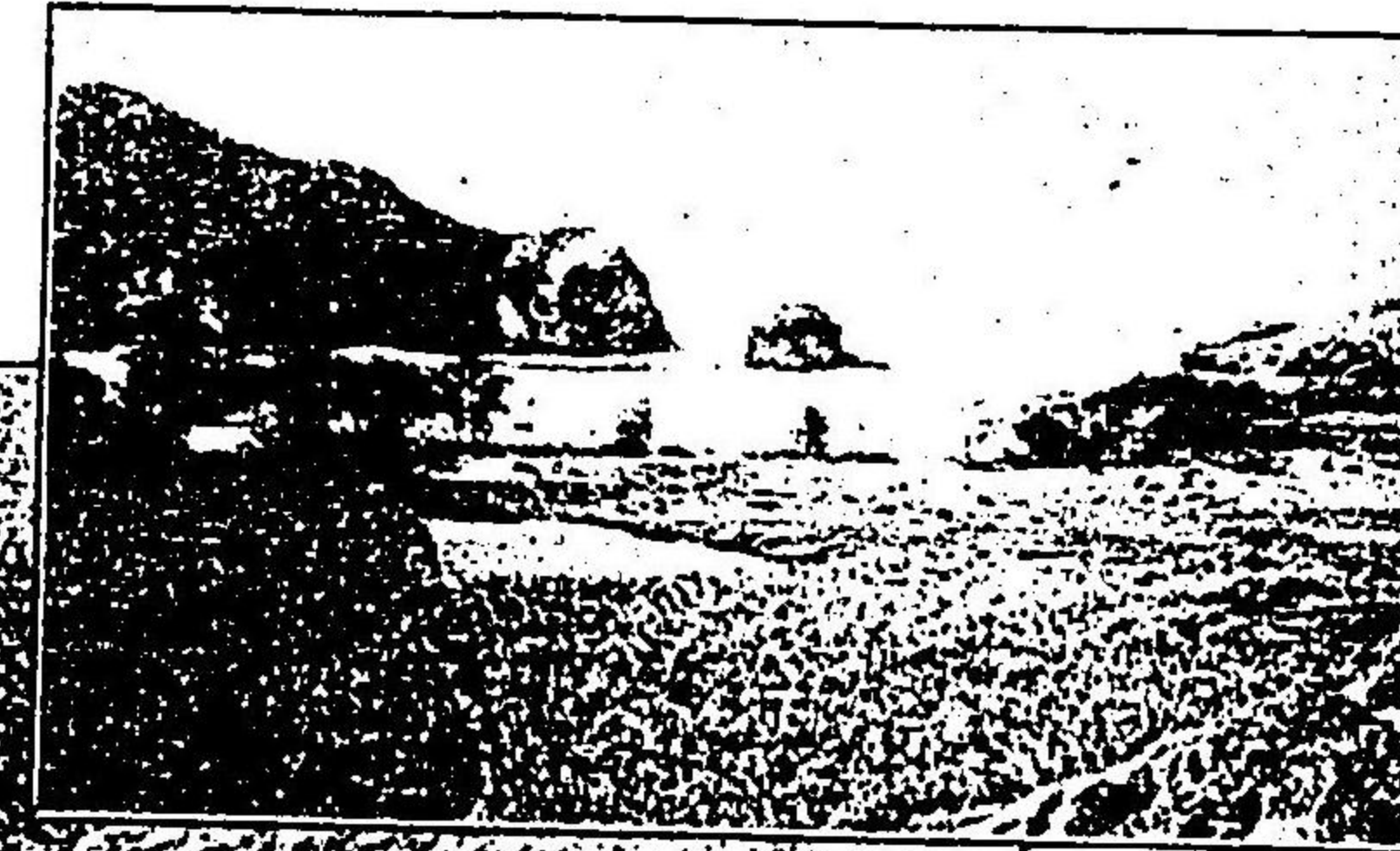
場絲製の畔湖訪諏國濃信 (乙)



場紙製士富國河駿 (丙)

(第六十一圖)

畑蔗甘島原笠小 (甲)

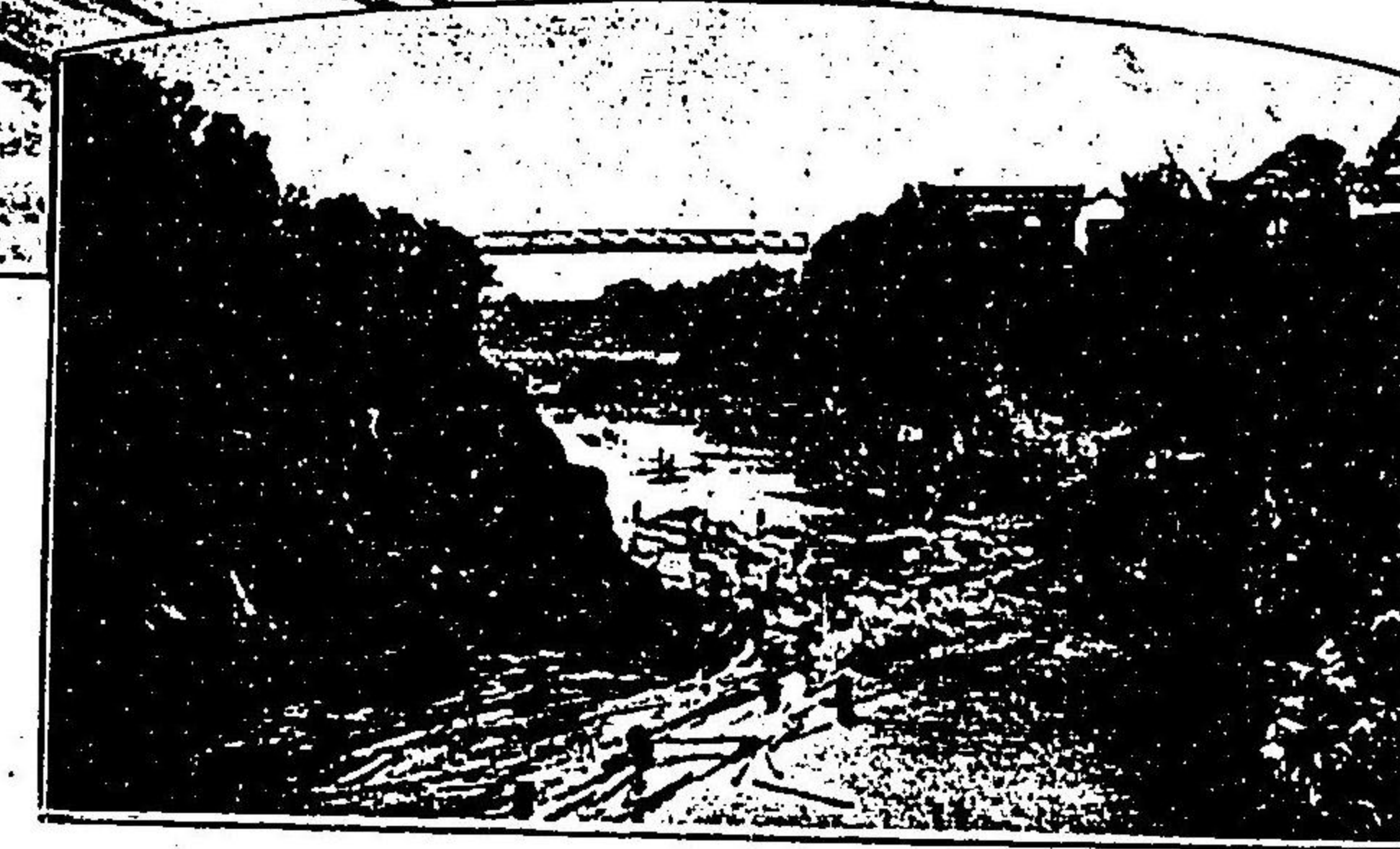


場糖製島原笠小 (乙)



(丙)

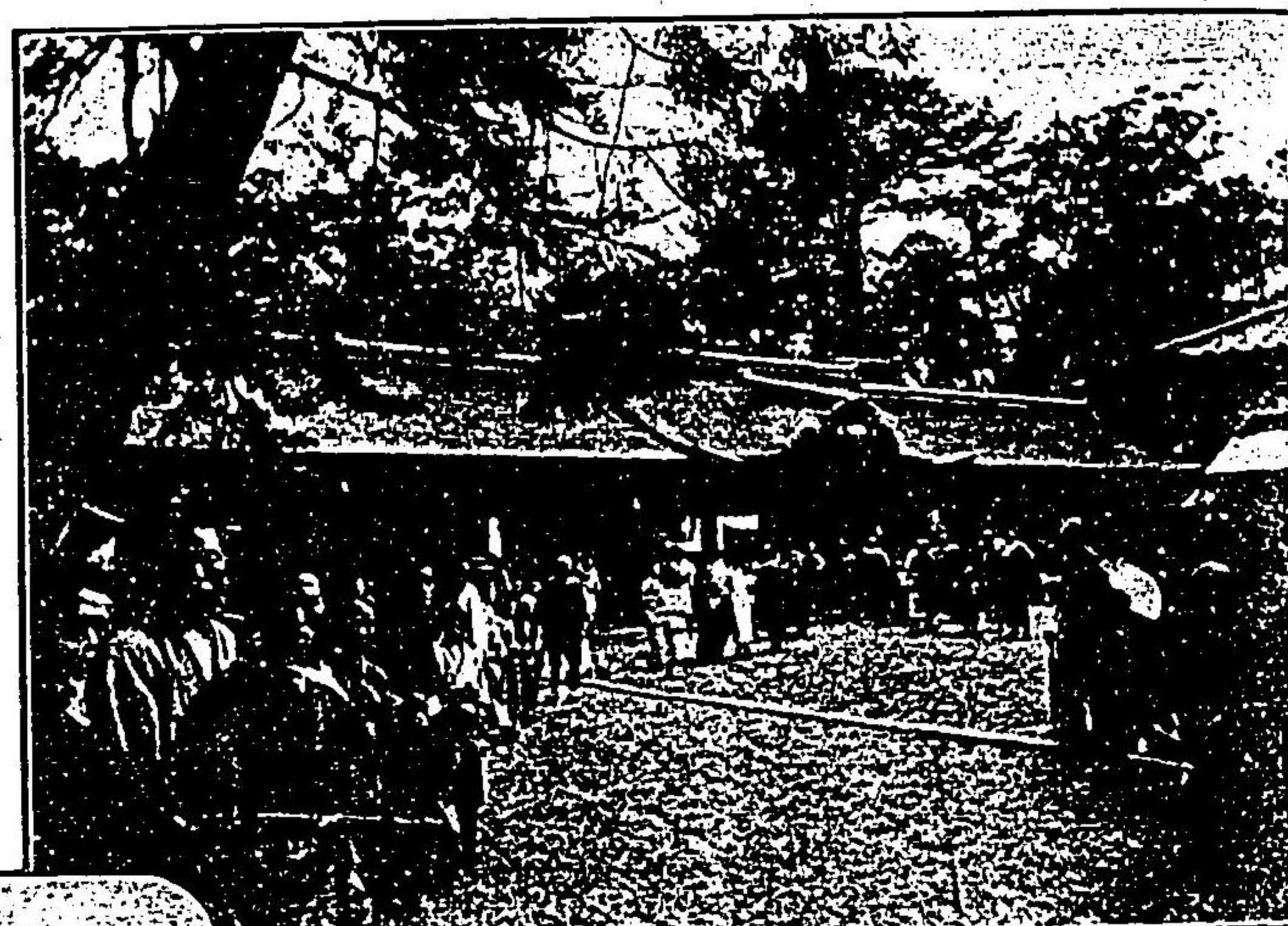
美濃國黒川谷



湊生麻國濃美 (丁)

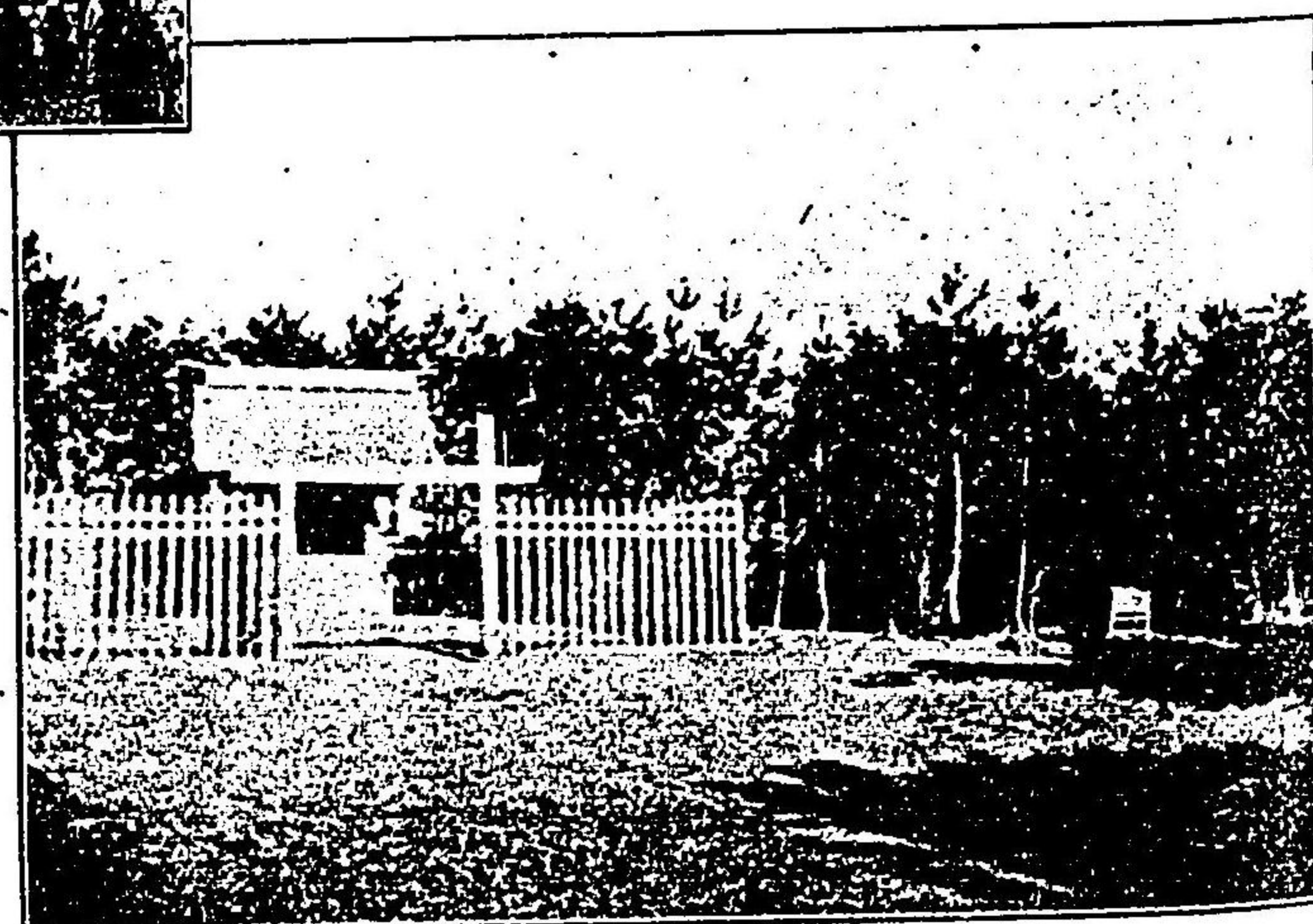
(第六十圖)

社神島津國張尾 (甲)



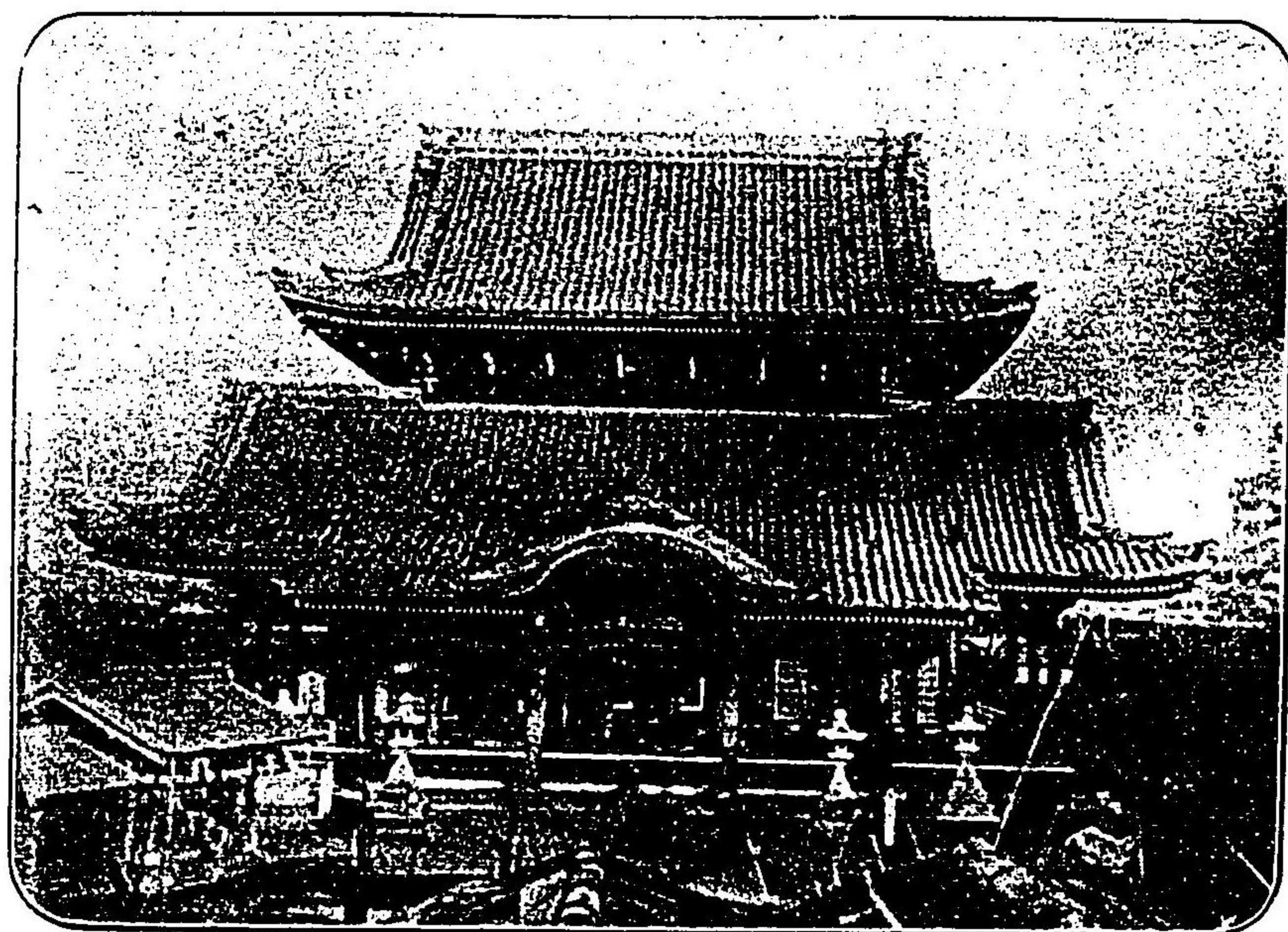
(乙)

名古屋市日清役第一
軍戰死紀念碑



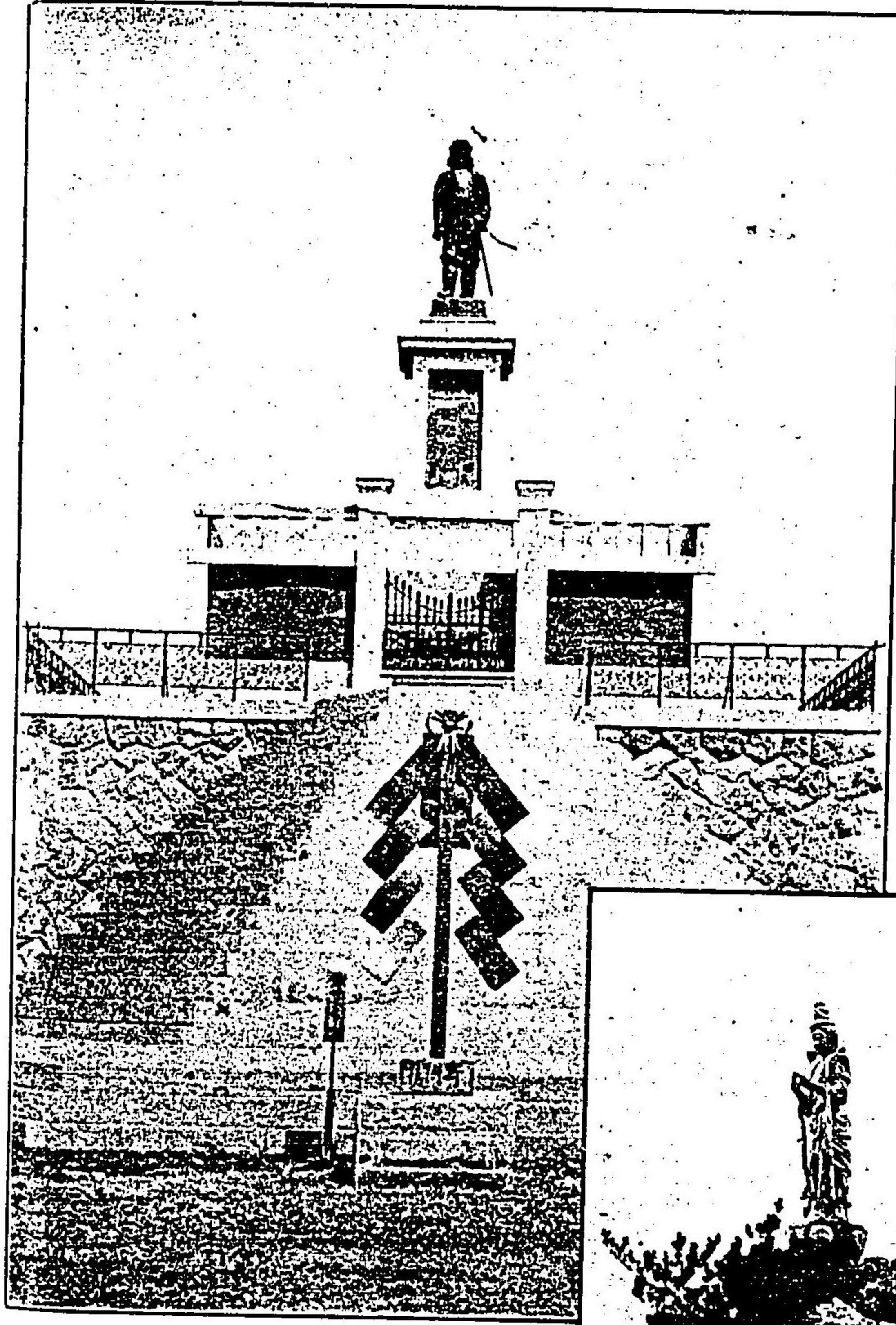
社神國豐村中國張尾 (丙)

門山寺願本屋古名張尾 (甲)



堂音觀須大屋古名張尾 (乙)

三河國豊橋歩兵第十八聯隊紀念碑 (甲)



(第六十四圖)

(乙) 全巖觀音

中部地方に於て市制を布ける地は、静岡縣にありては静岡、愛知縣にありては名古屋、岐阜縣にありては岐阜、山梨縣にありては甲府、長野縣にありては長野なり。就中名古屋市最も盛大にして二十四万四千餘の人口を有し、獨り中部地方に於ける大都なるのみならず、其の繁華實に三府に亞ぐ。産物の饒多、商工業の繁盛眞に中京の名に背かず。其の他の諸市も亦頗る繁盛にして人口一万以上を有する都邑二十許あり。今左に各縣下に於ける縣廳市郡役所警察署等の所在地並に町村の數及び各郡市の人口等を表示すべし。

管轄郡、市		郡、市役所所在地	警察署(分)は	町名	村數	人口
静岡縣	静岡市(駿河)	追手町	追手町	下田、松崎、三島、熱海、伊豆	二一	四二、一七二
	賀茂(伊豆)	下田町	下田町、松崎町(分)	下田、松崎、三島、熱海、伊豆	二一	六五、九二五
	田方(全)	三島町	三島町、熱海町(分)田中村	三島、熱海、伊豆	二七	一〇五、三三九
	駿東(駿河)	沼津町	沼津町、御厨村(分)	沼津、原	二六	九二、八八八
	富士(全)	傳法村	吉原町、大宮町(分)	吉原、大宮	二〇	八四、二四四
	庵原(全)	江尻町	江尻町、富士川町(分)	江尻、富士川、興津、山比	一〇	六四、九六一
	安倍(全)	静岡市追手町		清水、入江	二三	九五、六四八

愛知縣		梨山		岡	
梨山		岡		(町手道市岡静)	
(町錦市府甲・鷹縣)					
志太(駿河)	藤枝町	藤枝町、島田町(分)	藤枝、島田、岡部	二五	一、一八、三四九
榛原(遠江)	川崎町	相良町、川崎町(分)、金谷町(分)	相良、金谷、川崎	一四	七、四七六八
小笠(全)	掛川町	掛川町、大須賀村(分)、四方村(分)	掛川	四五	一〇二、八五〇
周智(全)	森町	森町、奥山村(分)	森、山梨	一一	四、二七二四
磐田(全)	見付町	見付町、山名町(分)、二俣町(分)	見付、山名、二俣、中泉	三七	一、四、四三三
濱名(全)	濱松町	濱松町、新居町(分)、笠井町(分)	濱松、新居、笠井、白須賀	三九	、
引佐(全)	氣賀町	氣賀町	氣賀、金指	八	四二、〇九八
計市	一三	三四	四〇六	一、一〇〇、三三二	
管轄郡、市	所部、市役所所在地	警察署(水上)、江水上警察署(分)、江分署	町名	村数	人口
甲府市(甲斐)	柳町	錦町		三七、五六一	
東山梨(全)	日下部村	勝沼町、日下部村	勝沼	二八	六五、三二七
西山梨(全)	甲府市常盤			一一	一七、〇七二
東八代(全)	石和村	石和村、左右口村(分)		三六	五二、九七五
西八代(全)	市川大門町	市川大門町	市川大門	二一	三九、〇四五
南巨摩(全)	鯉澤町	鯉澤町、陸合村(分)	鯉澤	二二	五〇、九四九
中巨摩(全)	龍王村	龍王村、明蓮村(分)		四一	七六、〇九〇
北巨摩(全)	丑崎町	丑崎町、菅原村(分)、若神子村(分)	丑崎	四一	六九、〇五八
南都留(全)	谷村町	谷村町、福地村(分)	谷村	二三	五五、六二六

愛知縣		愛		北都留(全)	
愛		北都留(全)		大原村、上野原町(分)	
(町平武南市屋古名・鷹縣)					
管轄郡、市	所部、市役所所在地	警察署(水上)、江水上警察署(分)、江分署	町名	村数	人口
名古屋(尾張)	榮町	南久屋町、門前町(分)、鍋屋町(分)、江川町(分)		二四一	五〇六、四九七
愛知(全)	熱田町	熱田町、鳴海町(分)	熱田、鳴海、呼環	四二	二四四、一四五
東春日井(全)	勝川町	勝川町、小牧町(分)、瀬戸町(分)	勝川、小牧、瀬戸	四〇	一三九、三五一
西春日井(全)	西枇杷島町	西枇杷島町	西枇杷島、枇杷島、清洲	三二	八三、五三二
丹羽(全)	布袋町	布袋町、犬山町(分)	布袋、犬山、古知野、岩倉	三五	五七、四四九
粟栗(全)	太田島村	太田島村	黒田、淺井	三一	八二、四八三
中島(全)	稻澤町	稻澤町、一宮町(分)、祖交江町(分)	稻澤、一宮、奥起、萩原	五一	三一、二二三
海東(全)	津島町	津島町、蟹江町(分)	津島、蟹江	三九	一一三、五一三
海西(全)	彌富村	彌富村		一五	八六、九二九
知多(全)	半田村	半田村、内海町(分)、横須賀町(分)	内海、横須賀、有知、大高	五四	三五、〇七九
碧海(全)	知立町	知立町、大濱町(分)	武豊、成岩、龜崎、大野	六一	一五二、二五六
幡豆(全)	西尾町	西尾町、一色町(分)	知立、大濱、刈谷、矢作	三三	一三三、八九一
額田(三河)	岡崎町	岡崎町	西尾、一色、平坂、横須賀	二四	八三、五二九
四加茂町(全)	舉母町	舉母町	岡崎、福岡、廣幡	二九	六七、四七六
東加茂(全)	足助町	足助町	舉母	一九	四三、二一五
計市	九一	五	二四一	一七	四三、二〇四

野 (町旭市野)		計市、郡、一六
下伊那(全)	飯田町 (飯田町、富草村(分)和田村(分))	四一
西筑摩(全)	福島町 (福島町、吾妻村(分))	一五
東筑摩(全)	松本町 (松本町、鹽尻村(分)麻績村(分))	三七
南安曇(全)	豊科村 (豊科村、梓村(分))	一五
北安曇(全)	大町 (大町、池田町村(分)北條村(分))	一六
更級(全)	鹽崎村 (鹽崎村、中津村(分)大岡村(分))	二八
埴科(全)	辰代町 (辰代、松代(分))	一五
上高井(全)	須坂町 (須坂)	一四
下高井(全)	中野町 (中野町、穂高村(分))	一九
計		三七一
計		一、二六四、九一八

二 司法

中部地方五縣内に於ける地方裁判所の所在地は、名古屋岐阜静岡甲府長野の五箇所なり。控訴院は名古屋市本町にあり。名古屋控訴院と稱す。名古屋岐阜の兩地方裁判所は其の管下にあれども、静岡長野甲府の三地方裁判所は東京控訴院の管轄に屬せり。今左に地方裁判所區裁判所の所在地と其の司法

名古屋控訴院

區劃とを表を以て示すべし。

地方裁判所

静岡 (静岡市追手町)

名古屋 (名古屋市東外堀町)

岐阜 (岐阜市大字今泉)

甲府 (甲府市錦町)

長野 (長野市花咲町)

區裁判所

静岡(静岡追手町)沼津(沼津)下田(下田町)吉原(吉原町)掛川(掛川町)濱松(濱松町)藤枝(藤枝町)

名古屋(名古屋東外堀町)一宮(一宮町)津島(津島町)半田(半田町)岡崎(岡崎町)四尾(四尾町)豊橋(豊橋町)新城(新城町)

岐阜(岐阜市今泉)大垣(大垣町)御嵩(御嵩町)高山(高山町)

甲府(甲府市錦町)谷村部(谷村町)

長野(長野市花咲町)飯山(飯山町)松本(松本町)上諏訪(上諏訪町)大町(大町)木曾(木曾町)飯田(飯田町)伊那(伊那町)上田(上田町)岩村田(岩村田町)

地方の民俗の一斑を察せんが爲め、各裁判所につき輕罪重罪被告人罪狀を示し、人口に對する比例率を掲ぐ。

裁判所別輕罪被告人罪狀 (三十三年)

(少數ナル他ノ罪ヲ省クテ以テ 被告人率ハ精密ノ數ニアラズ)

地方裁判所	靜 スル 罪	信 用 ナ シ テ ス ル 罪	健 康 ナ シ テ ス ル 罪	風 俗 ナ シ テ ス ル 罪	身 體 ニ 對 ス ル 罪	財 産 ニ 對 ス ル 罪	人 口 千 人 中 何 人 被 告 人	地 裁 判 所	靜 ス ル 罪	信 用 ナ シ テ ス ル 罪	健 康 ナ シ テ ス ル 罪	風 俗 ナ シ テ ス ル 罪	身 體 ニ 對 ス ル 罪	財 産 ニ 對 ス ル 罪	人 口 千 人 中 何 人 被 告 人
名古屋	六一六	六一六	五二九	二二九	二四三	二四三	二、七	甲府	六三	一八	五	四七九	一三三	四八	二、三
岐阜	六	六	二	八五	一五	二六	二、五	長野	二五	一三六	八一	一三三	三三	一、六	二、六

裁判所別重罪被告人罪状 (三十三年)

(少数ナル他ノ罪ヲ省クテ以テ)

静岡	六	七	一	七	三	九	五	一	七				
名古屋	三	四	九	二	五	二	五	一	二				
岐阜	一	四	二	三	二	七	四	七	一				
静岡	三	一	四	二	五	二	四	七	一				
地方裁判所	貨物ノ 偽造スル 罪	官ノ文書 ヲ偽造スル 罪	私印私書 ヲ偽造スル 罪	謀殺放銃 ノ罪	放火 ノ罪	人口 ニ付被 告人	地方裁判所	貨物ノ 偽造スル 罪	官ノ文書 ヲ偽造スル 罪	私印私書 ヲ偽造スル 罪	謀殺放銃 ノ罪	放火 ノ罪	人口 ニ付被 告人

三 軍事

陸軍 中部地方長野縣・山梨縣は第一師管區に屬し、静岡縣愛知縣は第三師管區に、岐阜縣は第九師管區に屬せり。今其の區劃の詳細及び聯隊區司令部所在地を列擧すれば左の如し。

(△は中央部外に係る地方)

師管	旅管	聯隊區司令部	府縣	管轄區域
第一師管	第一旅管	第一聯隊司令部	長野 山梨	一市九郡 全區
第三師管	第七旅管	第三聯隊司令部	愛知 靜岡	名古屋、愛知郡、知多郡、西春日井郡、東春日井郡、丹羽郡、海東郡、海西郡、中島郡、桑名郡、南設楽郡、八名郡、寶飯郡、四加茂郡、東加茂郡、南設楽郡、北設楽郡、額田郡、幡豆郡、引佐郡、濱名郡、熱田郡、靜岡市、安部郡、志太郡、榛原郡、駿東郡、小笠郡、周智郡、富士郡、麻原郡、山縣郡、養老郡、不破郡、木曽郡、揖斐郡、海津市、山縣郡、養老郡、不破郡、木曽郡、揖斐郡、可兒市、稻葉郡、羽島郡、武儀郡、郡上郡、大野郡、益田郡、吉城郡、加茂郡、土岐郡、惠那郡、安八郡
第九師管	第八旅管	第九聯隊司令部	岐阜 靜岡	岐阜市、稲葉郡、羽島郡、武儀郡、郡上郡、大野郡、益田郡、吉城郡、加茂郡、土岐郡、惠那郡、安八郡

第一師管は東京に、第三師管は名古屋に、(第五十一圖甲) 第九師管は金澤に、各師團司令部あり。又名古屋豊橋の兩地に第五及第十七の旅團司令部を置かる。(第五十一圖乙) 今其の歩兵以下の配置地及當地方壯丁として徴集せらるゝ者の衛戍地區域を表示すれば即ち左の如し。

師團司令部所在地	歩兵旅團司令部所在地	歩兵配備地	騎兵以下各兵科配備地	諸兵衛備地名
第一師團 (東京)	第一旅團 (東京)	第十五聯隊 (高崎)	第一聯隊 (東京)	第一旅團 第十五聯隊 高崎
第一師團 (東京)	第一旅團 (東京)	第十五聯隊 (高崎)	第一聯隊 (東京)	第一旅團 第十五聯隊 高崎

第三師團 (名古屋)	第五旅團 (名古屋)	第六聯隊 (名古屋) 第三十三聯隊 (名古屋)	第五旅團 第六聯隊	第五旅團 第六聯隊	名古屋
第十七旅團 (豊橋)	第十八聯隊 (豊橋)	第十八聯隊 (豊橋)	第十七旅團	第十八聯隊	豊橋
第十九聯隊 (静岡)	第卅四聯隊 (静岡)	第卅四聯隊 (静岡)	第十八旅團	第十九聯隊	静岡
第九師團 (金澤)	第十八旅團 (敦賀)	第十九聯隊 (敦賀)	第十八旅團	第十九聯隊	敦賀
				第卅六聯隊	鯖江

備考、長野山梨及び岐阜縣の管内には軍隊の衛戍地なし。長野山梨の兩縣は東京に、岐阜は敦賀に徴集せらるゝものとす。

中部地方の民族は山來剛健にして勇敢、尙武の氣象に富みき。織田氏の濃尾に於ける、參遠の徳川氏に於ける、駿河の今川氏に於ける、甲斐の武田氏に於る、及伊豆の北條氏に於ける如き、各英雄が龍驤虎視據て以て雄を天下に争ひし所、當時にありては最も勇武を誇られるの民と稱せらる。特に堅實

不撓なる參河武士なる名稱は夙に人口に暗炙せるものあり。徳川氏の由て以て覇業をなせる所以亦偶然にあらざるべし。元和偃武の後昇平二百餘年偷安遊惰の餘り、地京師に近きを以て、士俗動もすれば淫靡に流れし之の觀ありと雖も、士氣未だ全く衰えず、戊辰討會の役大垣藩兵殊に強悍の稱ありき。維新の後兵制を定められ、軍隊の教育其の宜しきを得たるの結果是等地方より組織せられし師團兵士は復た勇悍死を顧みざる古武士の風に同するを得たり。是を以て廿七八年戰役の時に方り、第三師團は時の團長桂中將統率の下に、第五旅團長大迫少將第六旅團長大島少將等を従へ、第五師團と共に第一軍に編せられ、廿七年九月十六日平壤攻撃に大捷を博し、尋て連戰連勝九連城及鳳凰城の占領等皆與て功ありき。就中平壤の役に於て元山枝隊となり、奮戰勇闘敵膽をして寒からしめたるは、佐藤大佐の率ゐし豊橋第十八聯隊(第五十四團丙)にして、所謂鬼將軍の名は今猶人の記憶に新たなる所なり。所謂參河武士の本色を發揮せしものと云ふを得べきか。實に此の大捷は旅順口の略取、威海衛の陥落と相待ちて、日清戰局の大勢を盡したる壯舉なりとす。

甲信地方より徴集せられて、第一師團に編入せられしものは、師團長山地中將の率ふる所となりて、第二軍に屬し、金州城占領旅順口陥落等に與て勇名を博し、其の他戰功尠からざりし事は第一卷に於て詳かなり。

第九師團は日清戰後軍備擴張の結果新設せられしものにして、岐阜縣全團は其の以前にありては全く第三師團管下に隸屬せり。

今茲三十七年役に際し、此等の各師團は何れも遼東に赫々の偉勳を樹つるものあるも、吾人未だ其詳細を記すの機宜に會せざるを憾みとす。

四 教育

初等教育

教育は一般に隆盛と稱すべく、之れを他地方に比して優に上位を占むるを見る。殊に長野縣の如きは、官民共に此に留意して、熱心に其の振興を謀れる結果、其の成績頗る見るべきものあり。其の他の諸縣亦各其の地に適合せる教育事業を起して、好良の成績を收めつゝあり。

初等教育

今前項に於て教育事業の頗る隆盛なるを説きたるが、獨り

高等教育の發達に於ては關東若くは京畿地方に比すべからざるは勿論なり。されど教育の基礎たるべき初等教育に至つては、至も他方に譲らざるのみならず、長野縣の如きは本邦中最も完備せるものにして、他地方の模範となすに足る。實に此縣下に於ける小學校の校舍は一見殆んど小學校と思はれざる宏壯の建築多く、而して常に外觀の美に止まらず、官民共に教育事業に熱心にして、年々之に對する支出額頗る多く、教員の待遇、諸般の設備他地方に於て見るべからざるものあり。而して其の成績頗る好良にして、縣下の就學兒童は、百中男九七餘、女九〇餘の比に達せり。此の就學比は全國各府縣に對して最上の部に置かざるべからず。尤も單に就學比のみよりすれば前卷に述べたる宮城縣其他五六の地之に超ゆるものありと雖も、設備の完全なる、成績の好良なる、諸種の點に於て實に初等教育の隆盛は先づ此の縣下を以て第一と推さざるを得ず。愛知岐阜も百中九六餘の就學比を見、中部地方中學事に於ては稍遜色ある山梨縣の如きも、百中九二餘の割合に達す。

學齡兒童就學不就學始期既達者百中

(三十四年度)

	静岡		愛知		岐阜		山梨		長野		野平	
	就學者 女	男	就學者 女	男	就學者 女	男	就學者 女	男	就學者 女	男	就學者 女	男
不就學者	二〇、五五	四、八四	一五、五〇	三、九八	一七、〇四	五、四六	七、八四	三九、三六	九、八四	二、五七	四、九三	二〇、四五
就學者	九五、一六	七九、四五	九六、〇二	八四、五〇	九四、五四	八二、九六	九二、一六	六〇、六四	九七、四三	九〇、一六	九七、四三	七九、五三
不就學者	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
就學者	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
本州中區	九三、三八	八一、〇五	九三、六二	七六、三五	九四、二九	八五、五八	三、五六	八〇、〇〇	九六、六七	八八、九六	八三、〇六	八四、四三
本州北區	六六二	一八、九五	六、三八	二、三五	五、七一	一、四四三	六、四四	二、〇〇〇	三、三三三	一、一〇四	一、六九〇	一五、五七
本州西區	九四、二九	八五、五八	九四、二九	八五、五八	九四、二九	八五、五八	九四、二九	八五、五八	九四、二九	八五、五八	九四、二九	八五、五八
四國區	三、五六	八〇、〇〇	三、五六	八〇、〇〇	三、五六	八〇、〇〇	三、五六	八〇、〇〇	三、五六	八〇、〇〇	三、五六	八〇、〇〇
九州區	九六、六七	八八、九六	九六、六七	八八、九六	九六、六七	八八、九六	九六、六七	八八、九六	九六、六七	八八、九六	九六、六七	八八、九六
沖繩	八三、〇六	五九、六一	八三、〇六	五九、六一	八三、〇六	五九、六一	八三、〇六	五九、六一	八三、〇六	五九、六一	八三、〇六	五九、六一
北海道	八四、四三	六七、六一	八四、四三	六七、六一	八四、四三	六七、六一	八四、四三	六七、六一	八四、四三	六七、六一	八四、四三	六七、六一

全國學齡兒童就學既達者百中 (三十四年度)

中等教育

中等教育及實業教育 中部地方に於ける中等教育は其初等教育の進歩に準じて隆盛なり。此の地方の各縣は皆一個の師範學校を有すること他地方と異ならず。殊に愛知縣に於ては二個の師範學校(第五十二圖乙)あり。亦以て縣

實業教育

下教育の盛なるを察すべし。女子師範學校は中部地方に於て一も有らざれども、静岡愛知山梨長野の四師範學校には各、女子部の設あり。更に中學校を見るに長野縣に於ては本校分校合せて八個あり。静岡縣には七個を有す。愛知岐阜の兩縣には各、四個、山梨縣には三個を有す。此の他愛知の私立明倫中學の如きは、其の設備間然する所なく、殆んど官立の壘を摩す。蓋し本邦私立中學の最も見るべきものならん。

中部地方に於ては實業教育も亦頗る普及せるものあり。即ち海道筋の諸縣下は交通の要路に衝り、商工業の隆盛を極むるを以て、此の方面の特殊學校甚だ多く、中に就きて名古屋の商業學校の如き最も完備せるを見る。若し夫れ木曾地方の如き、鬱々たる森林を有する地方には、木曾山林學校の如き設けあり。其他陶器水産蠶業染色等各、其地に適合する學校あること左表に示すが如し。而して此等諸學校が各地生産物の進歩發達に寄與する所少からざるは争ふべからざる事實なるべし。

女子教育に至つては更に大に進歩し、之れを奥羽地方に比するに一頭地を

圖書館及博物館

野愛知の兩縣の如き最も多く、静岡岐阜之れに次ぐ。試に他府縣よりする大學在學者の數に比するに、此等四縣に超ゆるは東京山形新潟等僅かに五六の府縣に過ぎず。以て高等教育に對する氣運を察すべし。

圖書館及博物館

中部地方に於ける圖書館としては、静岡に公私立各一、愛知に公立一、山梨に私立一あり。其の所藏の冊數は何れも二千以内にして、圖書館としては殆んど言ふに足らず。

博物館の類には名古屋に博物館あり。首として美術工藝品を集め、農産の標本も少からず。其の他各縣廳所在地には概ね物産陳列所あること奥羽地方と異らず。重に地方の産物を集めて公衆の觀覽に供せり。博物館とは稍其の趣を異にすれども、岐阜の名和昆虫研究所あり。名和靖氏の管する所にして此の地方の殆ど有らゆる昆虫を採集し極めて豊富なる標本を有するを以て、斯學研究者を益すると甚だ大なり。猶一つの注意すべきは長野師範學校同窓會にして、主として此地方の博物館を研究し其の發行する博物雜誌は、斯學者の一瞥を價するものあり。實に地方の學術雜誌中の白眉なり。

新聞紙及雜誌 此の地方の各縣に於て發行せらるる新聞紙及雜誌は左の如し。

	静岡	愛知	岐阜	山梨	長野
有保證金のもの	四	二二	三	八	一二
無保證金のもの	六	一七	七	一	七

五. 宗教

宗教概観

中部地方は、夙に本邦に於ける樞要の位置を占めて、交通の便をも有しける地なれば、人口夙に播殖し、従つて古代より神社の奉祀せられたるもの多かりしことは、延喜式の載する所に由りても之れを知るを得べし、又佛教の方面に於ても夙に名僧高德の巡錫布教もあり、寺院の建立せられたるものも尠なからざるは、現存寺院の數の他の諸地方に比して、頗る多きに由て之を知るを得べし。殊に美濃尾張參河等西方の諸國は、山來眞宗に關係深き地方

とて、今日に於ても東西兩本願寺の勢力は此の地方に蟠屈して根底頗る固く、他力佛教の勢の熾盛なること、彼の北越地方に比しても多く遜色なかるべし。また信濃國にては有名なる善光寺の巨刹あり。是れ實に我か邦に於ける唯一の大悲擁護の靈場と呼はるゝものにして、凡そ宗派の如何を論ぜず苟も佛教徒たるものは、山河百里等しく來りて皆共に之れを仰ぎて後生を願ふを常とす。其の勢力は正に全國に普く亘れりといふべし。甲斐國の身延山亦日蓮一宗の總本山たれば、法華宗徒の崇仰厚く、實に一宗の中心たり。その他駿河國の富士山は本邦の名山として、古來國民の靈異視する所、今に於て尙ほ之れを崇拜するもの全國に通じて多く、扶桑教なる神道の一派も構成せらるれば、又富士講なるもの、設備は偏く諸國に亘りて存在する程なり。されば一種の信仰力のこゝに集中せるを見るべく、又信濃の御嶽山、遠江の秋葉山の如きも俗間の信仰頗る厚きものなり。かくの如く中部地方には各種信仰の中心たるべきもの、存在多ければ、此の地方の宗教に就ては大に留意すべきもの尠しとせず。今左に第一卷已來の例に従ひ、各項を分ちて之れを細説すべし。

神社神道
熱田神社

神社及び神道

此の地方に於ける大祠としては、先づ尾張の熱田神社を推すべし。熱田神社(第五十五圖甲乙)は愛知郡熱田町に鎮座し、伊勢大廟に亞くべき本邦の大祠なり。祭神としては日本武尊を中央とし、天照大神素盞鳴尊宮竈姫命建稻種命を左右とし、以上五座と定め、別に三種神器の一たる草薙寶劍を正殿の東土用殿に奉祀す。今謹て縁起を按ずるに、景行天皇の代、日本武尊詔を奉じて東夷を討し、歸途此の國を過り、當時尾張國造建稻種命の家に宿り、其の妹宮竈姫を娶りて之れに御佩の神劍を授け、やがて伊勢に入りて薨し給ふ。是を以て姫大に之れを哀み、地を吾湯市村に相し新に祠宇を營み、尊の遺し給ひし神劍を安んじてその神靈を綏んぜしもの即ち本社の起原なりといふ。已來歴代皇室の尊崇最も厚く、接遇を伊勢大廟に準せし程なりければ、一般民庶の仰ぐこと愈、高きは今も昔も變りなく、老杉樹として茂り神殿儼として高く、靈氣人に洩る神境の裡には、四時參拜の人を絶えずとす。

三島神社

熱田神社に續ては、伊豆國三島町に鎮座せる三島神社を以て中部地方に於ける大祠と數ふべし。祭神は大山祇命にして、初め同國賀茂郡より奉請せし新宮なりしが、後本宮の衰ふるに及びて推されて一宮となりしものなりといふ。維新の後は官幣大社に列せられ。地方の人は風雨の神として之れを崇仰するといふ。

諏訪神社

信濃の諏訪神社も亦本地方に於ける著名なる古社なり。諏訪郡上諏訪の南一里中洲村にある諏訪神社俗稱上宮と、全郡下諏訪にある諏訪下社との二座あり。上宮は建南方刀美命を祭神とし、下社は其の妃八坂刀賣命を祭神とす。共に今官幣中社なり。民衆が普く之れを仰ぎて軍國の守護神となし、頗る深く尊崇するはいふまでもなく、他國にまでも勸請せられて祠宇を設けられしもの多きを見ても本社神威の盛なるを知るべし。又本社祭典式日等に於て、社前に行はるゝ儀式故例には他社に見るべからざる式禮多く、千年前の本邦古俗を窺ふに足るもの尠しとせず。

官幣社

此の他本地方に於ける官幣社としては、駿河に淺間神社、遠江に井伊谷宮

あり。別格官幣には、駿河に久能神社あり。以上を表を以て示せば即ち左の如し。

官幣大社

熱田神社 祭神 日本武尊外四座 尾張國愛知郡熱田町鎮座

三島神社 祭神 大山祇命 伊豆國伊豆郡三島町鎮座

淺間神社 祭神 木花咲耶姬 駿河國富士郡大宮町鎮座

官幣中社

諏訪神社 祭神 建南方刀美命 信濃國諏訪郡中洲村鎮座

諏訪下社 祭神 八坂刀美命 信濃國諏訪郡下諏訪村鎮座

井伊谷宮 祭神 宗良親王 遠江國引佐郡井伊谷村鎮座

別格官幣社

久能神社 祭神 徳川家康 駿河國久能山鎮座

次に國幣社としては、美濃に不破郡垂井町の南宮神社あり。飛驒に大野郡宮村の水無瀬神社あり、尾張には中島郡一宮町の眞墨田神社あり、信濃には

國幣社

水内郡戸隠山の戸隠神社、小縣郡鹽田の生島神社、参河には寶飯郡桑富村の
砥鹿神社、遠江には周智郡森村の小國神社、駿河には靜岡の淺間新宮、甲斐
には東八代郡一櫻村の淺間神社等あり。多くは古への一宮たり、否らざるも
此等は皆山緒正しき古祠にして、何れも其の地方々々に於て厚く尊崇せらる
ゝことは言を待たず。

富士山信仰

さて前記の官幣大社たる駿河の淺間神社は、即ち世俗に呼て富士大宮と稱
するものにして、其の本社は富士山麓なる富士郡大宮町に在り、富士の絶頂
に奥の宮を置く。今は木花咲耶姫を以てその祭神と爲すと雖も、是れ蓋し後
世の附會せし所なるべく、初め奉祀せしは富士の山靈たりしこと勿論たるべ
し。今も之れに詣づるものは亦爾く信ぜるものにして、信徒の崇仰頗る厚し。
蓋し高山崇拜の本邦の古俗たることは已に第二卷宗教の欄に於ても説きし所
にして、特に富士山の如き其の山容の端麗にして而して一種秀逸なる趣を存
し、周囲の諸山を壓して高く天表に屹立せるものに在りては、之れに對する
尊崇の概念自ら他に異なりて深かるべきは自然の理なりといふべし。扶桑教

扶桑教

なる神道の一派は、實に本山の尊拜を以てその教旨とせるものにして、勢力
諸國に亘りて盛なり。又諸地方に富士講或は丸山講と稱する講中あり。是れ
も畢竟扶桑教と同一の主旨に出でたるものにして、毎年夏季開山の時を待て
精進潔齋して山に登り、絶頂秀靈の氣に觸れ、奥の宮を拜するを以て目的と
なす。因て以て平素の汚濁せる心神を一洗し得べしと信ずるなり。或は一
生
の間に登山回数多きを以て誇るものも少なからず。されば毎歲陰曆六月朔
登山の途一たび開けば、白衣の道者は手に金剛杖を曳き、口に六根清淨を唱
へつゝ先達に導かれて登山するもの、山麓より山嶺迄陸續として蟻行するの
盛なるを見るべし。

御嶽及御嶽教

富士山に次て此の地方に於て、俗間の信仰厚き山嶽は信濃の御嶽なるべし。
御嶽は國の西境西筑摩郡に在りて飛驒に跨り、高さ三千百八十米の峻峰なり。
山靈の奉祀とも認むべき御嶽神社本宮は山麓黒澤村にあり、頂上に奥の宮を
鎮す。古來靈驗の現著なるを説き、毎年夏季信徒の遠近より來りて登山参詣
するもの、多きは、富士山崇敬の習慣に同じく、御嶽教なる神道の一教派は

戸隠山・飯綱

助も是等の信徒等より組成せられたる團結なり。其の他戸隠山飯綱山も亦信濃に在る名山にして、山は甚だ高からずと雖も、古來山伏修験者の信奉せし所として其の名頗る著はる。共に水内郡に在りて長野市より遠からず。戸隠山には國幣小社戸隠神社を奉祀し、飯綱山には飯綱神社を奉祀す。舊稱は戸隠權現飯綱權現と呼びしものにして、修験者の輩奇怪なる迷説を附會して愚民を惑はしたるものなり。尙ほ迷信の項に於て説く所あるべし。

伊豆山神社

伊豆國なる伊豆山神社も亦山靈を崇めしものにして、同國田方郡伊豆山にあり。亂山四匝の間に境域を占めて千年の古祠儼として建つ。舊號は走湯大權現又伊豆山大權現と稱し、靈山に信を起して初め祀られつるものといふ。鎌倉幕府已來關東の總鎮守と推されて東國人の尊奉殊に厚きものなりしが、歲月の推移と共に今日は信仰頗る衰へたるの感あり。

其他の名祠

以上は中部地方社祠の名あるものなり。此他殊に祭禮の盛なるを以て世に知らるゝものには尾張海東郡津島町の津島神社同愛智郡鳴海町の鳴海神社三河豊橋の吉田神社等あり。又尾張の一宮の眞墨田神社短冊祭も奇習を以て知

神社數

地方	官幣社		境 無格外	地方	官幣社		境 無格外
	國幣社	以府縣社			國幣社	以府縣社	
岐阜	二	二、五〇六	四、二六二	靜岡	八	一、八六九	二、三三七
長野	三	二、〇六二	五、一八九	山梨	一	一、〇〇八	一、〇〇九
愛知	三	二、七二七	二、六二六				八〇一
		合計			合計		
		二、七二〇			一、〇〇九		

らるれば、甲斐の一宮二宮三宮三社の神輿渡御の式も亦他に見ざる異禮なり。難除の守札を世に出すを以て知らるゝものは、參河池鯉鮒の知立神社にして、昔時は遠く東國奥羽にも渡りぬといふ。又伊豆賀茂郡石室神社の拜殿のみ神社にして本社建設なきは、自然物たる巖石崇拜の餘影を止むるものを認むべし。

尙ほ各地方に於ける神社の數を縣別を以て表はせば左の如し。(明治三十四年統計)

佛教

佛教 前にも屢説けるが如く、本地方は位置要衝の好地を占めたる所とて、佛教も夙に各方面に布かれて寺院の建立せられしものも多く、現に信濃

各宗寺院數

概観

各宗寺院數	各宗寺院數									
	天台	眞言	淨土	臨濟	曹洞	黃蘗	眞	日蓮	時	融通念佛
岐阜	四四	一〇三	一四一	五六六	一九九	二一〇三五	四〇	三		二、一五二
長野	一〇三	二二一	二三六	一〇六	五四八	一五	二四二	二		一、五二二
愛知	八九	二七九	六九八	四〇三	九八五	一八	九五二	一四		三、五七七
静岡	一九	六四	一八九	六三四	一、四三四	二五	四三八	三八		二、九一四
山梨	一八	一一〇	一〇四	三二七	五八五	九六	四五九	一三		一、七二二

及び飛騨地方の稍疎なる部分を除くの外、各縣共概ね人口二百に對し一寺あるの比にして、本邦に於ては畿内に次で密度の高き地方たるべし。今三十五年の統計に由り各縣各宗派の寺院數を見るに、即ち左の如し。

是に由て之を見れば、美濃尾張參河等の西方の諸國に於ては、淨土宗眞宗等の小乘佛教の寺院其多數を占め、之に反して遠江駿河中斐等の東方諸國に於ては、天台眞言并に禪宗の如き大乘佛教の寺院其多數を占むると共に、念佛宗の寺院は俄かにその數を減少するを見るべし。殊に静岡縣下に於ける曹洞宗臨濟宗の如きは其の寺院の數獨り中部地方諸縣の中に冠絶せるのみならず、

四部諸國に於ける眞宗

亦實に全國中に於て最も多數に存在する地方なりといふ。然れども是等は其の數の上に於て多きを占むといふまでにて、多くは已に説ける關東地方の佛教と同じく形式的の關係を保つに過ぎずして、健全なる信仰は見るに少きの感あり。その鞏固なる信念を持して佛教の眞個一宗教として活動せるを見るは、寧ろ岐阜愛知等の小乘佛教旺盛の地方にありとす。彼の昔て暹羅國より迎へつる釋尊の遺骨を非常なる熱心の運動を以て京都より名古屋市に奉遷し、日蓮寺の設立を計畫せるが如き以て證とすべきなり。

美濃飛騨尾張參河の諸國は、北越の諸國と共に古來眞宗の根據地と數へられし地方にして、東西兩本願寺の勢力隆昌を極め、名號を唱へて冥福を佛陀に祈るの聲到る所に聞かれざるなし。名古屋下茶屋町に在る大谷派本願寺別院の如きは、尾參の信徒が滿腔の熱誠を捧げて隨喜渴仰する所にして、山門殿宇壯宏精美を盡くして海内有數の建築と知らる。同市門前町にある本派本願寺別院亦大谷派のそれに比して壯大の偉觀なしと雖も、地方一宗の中心たる實は即ち存せり。此の他飛騨高山の照蓮寺、信濃松本の正行寺、參河額田

淨土宗

郡美合村の本宗寺、美濃羽鳥郡竹ヶ鼻の専福寺等何れも眞宗に於て著名なる大坊なり。

淨土宗にありては尾張名古屋の建中寺參河御油の東林寺岡崎の大林寺野田の大樹寺美濃稻葉郡西莊村の立政寺等、或は伽藍の壯宏を以て、或は寺格の高きを以て、或は歴史上の山緒を以て、何れも世に知らるゝ巨刹なり。

既に述べたる如く岐阜愛知の二縣下は小乗佛教の勢力地にして、從て各地到る所眞宗淨土宗の寺院多しと雖ども、然れども又天台眞言若くは臨濟曹洞等大乗佛教の巨刹大寺も決して乏しからず。禪刹にありては夢窓圓師の開基として光嚴天堂の勅願道場として聞えたる美濃土岐郡豊村の虎溪山永保寺、同國稻葉郡鏡島にある梅の寺の名を以て知られたる乙津寺、岐阜市外の瑞龍寺、大垣城下の全昌寺、尾州第一の貴刹と呼ばれし一宮妙興寺、名古屋の萬松寺、參河豊川の妙嚴寺の如き、何れも臨濟若しくは曹洞の伽藍として著はれたる者なり。殊に豊川の妙嚴寺は境内に有名なる茶吉尼天堂の在る所、その奉祀の本尊を稻荷大明神の垂跡と談するより、世には豊川稻荷(第五十六圖丙)と

四部の禪・天台・眞言の諸寺院

豊川稻荷

鳳來寺大御堂寺等

大須觀音

尾張四觀音

して知られ、其の靈驗利益は遠近に傳はりて、參拜信仰するもの頗る多く、之れあるが爲めに今は此の地は當國第一の熱關地と數へらるゝに至れり。豊川鐵道なるものが敷設せられたるも、主として此の參詣人を目的としたりといふが如き、如何に豊川稻荷の勢力の盛なるかを卜するに足るべし。天台眞言兩宗の大寺としては、參河設樂郡の鳳來寺こそ兩宗を兼ねたる參河第一の靈場なれ、加之七御堂の隨一とも推されて名聲高く、昔は東照廟を境内に奉じて、爲めに千三百餘名の田祿をさへ給せられたる所なり。續ては野間の大坊を以て知らるゝ尾張知多郡其間の大御堂寺も眞言の大寺として頼朝興立の山緒を以て世に著はる。其他美濃尾張地方は元來觀音の信仰の盛なる地なれば、觀音を奉祀せる大寺に著名なるもの多し。而して其等の寺院は素より天台眞言の兩宗なり、中に就きて最も名高きは名古屋の大須觀音にして、寺を眞福寺といふ。眞言の巨刹なり。恰も東京に於ける淺草觀音の如きものにして、尊信禮拜の老若は晝夜堂前に踵を接し、燈火香烟は常に殿内に充てり。何れか後生を弔ひ冥福を祈るの熱誠ならざるものぞ。市外には又謂ゆる尾張四觀音

駿遠地方の禪寺

なるものあり。愛智郡笠寺の笠覆寺(眞言)、同郡荒子の觀音寺(天台)、海東郡甚目寺村の甚目寺(眞言)、東春日井郡志淡の龍泉寺(天台)即是なり。何れも安置するに觀音菩薩を以てす。地方人士は崇仰尊信最も厚く、賽客常に門に立つ。就中毎歳節分の日及びその賽日等には、參詣の群集を以て境内寸隙を剩さぬまでなりといふ。美濃には掛斐郡谷汲に世俗谷汲觀音と稱する華嚴寺あり。全郡横藏横倉寺の藥師如來も亦地方に名あり。

更に遠江より駿河甲斐伊豆等の諸國に入りては、已に前にも説きたるが如く、禪宗の勢力地なれば、到る所曹洞臨濟等の巨刹多し。即ち駿河駿東郡原の松蔭寺、庵原郡興津の清見寺、及び伊豆田方郡韭山の國清寺、全郡修善寺の修善寺等の如きは、何れも臨濟の名寺として知られしものにして、又遠江國周智郡の可睡齊は曹洞の大寺として名高きものなり。又秋葉山に奉ずる處の三尺坊は又同國引佐郡奥山方廣寺の半僧坊と相待て頗る世に知られ賽客恒に其門に充つるを見る、蓋し共にその名を佛院に假ると雖も其の實は天狗の崇拜に外ならざるなり。

甲駿地方の日蓮宗身延山

善光寺

甲斐は日蓮一宗の總本山たる身延山の在る所、從て附近一體駿河に亘りて日蓮宗の勢力最も熾なり。殊に此の宗の信徒は概して熱誠ある信仰心を保持するを以て、一宗の活動も亦見るべきものなきにあらず。身延山は南巨摩郡に在り、その寺を久遠寺といふ、或は妙法華院とも稱す。宗祖日蓮納骨の廟所にして門徒の仰て祖山と呼ぶ所、實に一宗の首腦なり。その伽藍も結構頗る壯觀を極め、信徒は遠近より來りて詣つべければ、信徒の熱誠を捧げし燈火と香烟は恒に滿山を壓するの觀あるを見るべし。實相寺妙法寺長遠寺等は何れも附近各郡に於ける日蓮の大寺なりとす。

信濃は有名なる善光寺のある所、(第五十六圖)その以外には巨刹少し。さて善光寺は長野市の市内に在り、而して長野市が今日の發達を見たるも實に善光寺の賚なりとす。その本尊たる善光寺如來は即ち欽明天皇の朝百濟より獻納せられつる本朝最初の佛像と稱し傳へらるゝ所にして、從て之を奉ずる地は即ち古來海内唯一の靈場と推され、苟も佛徒たらんものは、此に詣てんが爲めには十里百里を遠しとせず、唯、參詣を遠げ得るを以て一生の榮とすもの

、如し。殿堂の壯宏美觀を盡しつる、院内香火の熾盛なる、皆その勢力の偉大なるをトしつべし。之れに奉仕する寺院は近古以來天台浄土の二宗に於てすることとなり、天台には大勸進以下二十餘坊あり、清僧之れを管し、浄土には大本願以下十餘坊あり、比丘尼之れを掌る。毎歲三月十五日、十月十五日には會式あり、六月十三日十四日には大法會を行はる。其の盛觀は他に比類少しといふ。

以上は各地方に於ける佛教の概況なり。この外尾張には碧海郡大濱に相名寺、美濃には不破郡垂井に金蓮寺等の名高き時宗の遊行道場あれども、この勢力はいふに足らず。

明治卅五年十一月、熱心なる運動の末に、京都より名古屋市に奉遷したる釋尊遺骨は、今同市門前町に元萬松寺の本堂を假奉安所として安置せり。適地を撰定して覺王山日蓮寺なる偉大なる奉安所を作るべきも近きにありといへば、その奉安所にして竣工するの曉は、やがて此の地が日本佛教の中心たる地位を占むるに至るべく、熱誠なる信仰を保つ本地方の民衆は又克く之れ

時宗の諸寺

名古屋の釋尊遺形

耶蘇教

を成し得べし。

耶蘇教 中部地方は元來佛教地たれば、耶蘇教の勢力は到る所微々たり。名古屋の如き長野の如き静岡の如き都會の地には、或は學校を設け會堂を建て、宣教師も多く居をその地に遷して専ら布教に従事するが如きも、何れも僅かに青年學生等の間に少數の信者を得るに止まりて、勢力を作るに足らず。今明治三十三年末統計に由り各縣内の各派教會説教所等の數を擧ぐれば左の如し。

地方	天主教	正教	日本基督教會	日本聖公會	浸禮會	美以監教會	南美以教會	日本美以教會	美普教會	福音教會	耶穌教	其他	合計
岐阜	一	一	九	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一八
愛知	二	五	四	五	七	七	一	一	一	一	一	一	三三
長野	一	二	八	六	一	一	一	一	一	一	一	一	三〇
静岡	四	五	四	三	二	一	一	一	一	一	一	一	三三
山梨	二	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一五

迷信文雜信仰

迷信及雜信仰

神佛の正しきに附會するに奇怪の妄説を以てし、或は靈驗を説き祟罰を恐るゝが如き、若しくは徒に縁起を祝ひ或は禁厭符咒に迷ふが如き、何れも因襲の久しき本邦の古俗なれば、到る所に行はれて其の弊の免るべからざるは已むを得ざる所、此の地方亦是等の迷信や少なからずと雖も、然れども元來中部の諸國は佛教の盛なる所、東には日蓮宗の鞏固なる信仰あり、北には善光寺の靈區あり、而して西部の諸國は即ち眞宗の根據地として尙ほ健全なる信仰の存する所なり。されは概して迷信も他の地方に於て見るが如く甚しからざるやの觀あるは、本地方に多とすきべことなり。

天狗崇拜

今本地方に於ける特殊なる信仰の著しきものを數へんに、先づ第一指を遠江地方の天狗崇拜に屈せざるを得ず。秋葉山の三尺坊及び奥山の半僧坊は即ち是れなり。殊に秋葉山は古來山城鞍馬山豊前の彦山等と併稱せられて天狗の巢窟として其の名最も著はる、信ずるものは鎮火の靈驗ありと稱す。又三河の知立神社護符の克く毒虫の難を避くべしと説けるも亦迷信の著しきものにして、殊に世に普く知らるゝものなり。

飯綱迷信

信濃にありては、諏訪神社の神使として狐を配し、大に之れを崇むるの風あるは已に人の知る所、亦山國に於てはあり得べき山獸崇拜の自然の現象なるべし。然れども飯綱神社に飯綱といへる空想的の奇獸を附會し、眼以て見るべからざるも而も實在せる神獸なりと説くは、他地方には類例少き奇怪なる迷信といふべく、地方の人を毒することも最も多し。若し此の地方にして一種の精神病に罹りたるものあるときは、他方にては狐憑と呼ぶか如くに此の地方にては之を飯綱憑と稱し、飯綱神社の神罰として最も之れを恐る。されば奸譎の徒は人にこの迷信あるに乗じ、自分飯綱を使用するの自由ありと稱して愚民を惑はし利を貪るものあり、之れを世に飯綱遣ひと稱す。一時は關東地方までもその影響を蒙りしものありしが今は衰へたり。

此の他大樹に注連を飾りて神靈視するが如き、古沼巨池に大魚を空想して崇むるが如き、動植物の崇拜所々に見るべしと雖も、是等は本地方特殊の顯象にあらず、第一卷以來叙説せし所なれば今は皆之を略して説かず。

六 交 通

中部地方交通
の今昔

中部地方は東海東山二道に跨りて本邦の殆んど中央に位し、其南部一帯の地は大平洋に臨み地勢概ね平坦にして、土壌肥沃物産饒多水運陸輸の便に乏しからざるも、北部の一半は山岳繚繞平野少なく地勢概して高くして交通甚だ便ならず。特に古來群雄割據して天險の要害を貴び故らに交通を阻害するの傾さへありて、徳川氏天下を定むるに及び巧に譜代の臣僚を封置し、殊に參觀交代の制度を設けられてより行旅自ら頻繁となり、東海東山兩道の交通運輸漸くに其進歩を促がしたりき。蓋し交通の便否は國の文野と貧富を別つ關鍵たるを以て、維新以後職を牧民に奉ずるものは専ら意をこゝに注ぎ、競ふて道路の開鑿橋梁の修治等を努め、又東海信越甲武等の鐵道既に完成し篠の井線中央線は着々其歩を進め、或は電車馬車鐵道の布設も試みられ、又一方に於ては電信線の架設あり。殊に輓近一部の地方にありては電話さへ設置せられたるものあり。是に於てか崎嶇を踰へ急流を涉り行旅極めて艱難を訴

道路

東海道

中仙道

へし地も、今は車上に安駕して往返徂徠するを得べく、一般交通の便次第に整備するに至れり。されど猶信飛の山間にありては樵路纔かに通じ、危橋谷に臨んで交通容易ならず、別天地を成すの境なきにあらざるなり。

本地域の最も主要なる道路は、古來開けたる東海道及び中山道なり。此二線路は殊に中世以後帝都たりし京都と幕府所在地の江戸とを連絡せる幹線をなし、殊に東海道線路は比較的よく開け中山道線路の如く難路にあらざるを以て其の交通も亦自から頻繁なりき。所謂昔の東海道なるものは京都に起り近江伊勢を経て、我中部地方の熱田に至り、之より東に向ひ岡崎濱松静岡等の城市を過ぎ天龍大井富士の巨浸を涉り或は小夜の中山宇津の谷峠薩摩峠等の峻を越へ沼津三島を経て東海道の難關たる箱根を踰へ小田原に出で神奈川を過ぎて江都に至りしなり。又中山道線は琵琶湖の東南、東海道の一驛草津より分岐し、湖の東岸を経て次第に北東に向ひ關ヶ原の狹隘地に於て鈴鹿山脈を横斷し、美濃に入り赤坂加納を経て、太田に於て木曾川を渡り、中津川を経て木曾の山峽に入り、馬籠峠鳥居峠の坂路を過ぎ鹽尻(一千三百六十米)和

田二千五百九十七米、碓氷二千二百米等の峻路を経て、漸く關東の平野に出て高崎を経て江都に至りしなり。是等本邦最大の交通線と雖當時にありては、其の交通機關の設備極めて幼稚にして、籃輿に依らずんば即ち騎馬、然らずんば多くは徒歩なるのみ。而も一旦大河に會すれば橋梁の通ずるものなく、僅かに人背に依り若くは渡船に便りて漸く渡り、霖雨一たび至れば淹滞數日、行旅全く絶ゆるの憾渺なからざりしなり。

維新後道路改修先づ行はれ、次て鐵道線路は東西兩京附近に起り、次第に延長して明治二十三年に至り始めて兩都を連絡し、一方に於ては中山道次第に修築せられ、鐵道も政府は最初中山道線を計畫せしも、其失費の大なるに躊躇して其工を中止し、東海道線路の落成するに及び再び工を起し今や其工程の殆んど二分の一を成すに至れり。

東海東山兩往還の外、猶主要なる交通線を通ぶれば東京より中山道に沿ひ信州に至れる線は、碓氷峠を上り追分に至り分岐し小諸上田を経て長野に至り、關山峠を超へ北越高田に出づる北國街道ありき。古は本邦中部を横斷す

北國街道

る主要線路として碓氷嶺頭輕井澤追分の如きは繁華雜沓を極めしこと、猶函根山麓の三島小田原に讓らざりき。

此等の東海道線と云ひ、中山道線と云ひ、若くは北國街道と稱するものは、何れも本中部を縦走し或は横斷し、古來最も主要なる交通線路をなせしが、近來此等の線路と殆ど平行して鐵道線路の布設せらるゝに及び、舊道路そのものの交通は幾分か閉却し、從來の宿驛は時に或は落莫の慘狀を呈せしものなきに非らざるも、鐵道線路に沿へる一帶の地は人文の發展著大にして、從來全く開けざりし地方も更に新しき交通線路を作つて此等の幹線と連絡を通じ、文化は愈、此等邊陲の地點に浸入するの趨勢を顯はせり。

東海中山兩交通線路の間には山岳重疊して兩者の交通不便なるも近來は道路次第に其間に開鑿せられて稍、其不便を除くことを得るに至れり、今試に之を西より列擧すれば、一は三河より矢作川の流域に沿ひ岡崎より明川を経て信濃根羽に出て、一は豊橋より分れて豊川の流域に沿ひ新城田口を経て同じく根羽に合し飯田に出て、伊那地方を縦走して鹽尻に至り、中山道に會する

東海中山兩交通線路の諸道

ものあり。而して飯田よりは更に一線を西方に派し、木曾山脈を横断して大平峠を経て木曾街道の妻籠に出て、名古屋地方と連絡を計れり。此等の線路は南信地方と東海道地方とを連絡せる最も樞要なる線にして、之れが爲め山岳四圍の南信地方は貨物の集散、人文の發展に恩澤を被むること實に少しとせず。従ふて其習俗の如きも北信地方と異りて、名古屋地方の感化を被ること亦尠なからざるを見る。南信地方よりは更に又天龍の水路に依りて下流遠江地方と舟楫を通し、又其流域に沿うて水窪西渡を経て、或は二俣或は森町に出づる線路あるも、水路は急流激湍長距離に亘ると、陸路は高峯峻岳相重り、未だ車馬を通ずるに至らざるの不便あり。

駿河より北方に向つては、富士川の流に沿ひ或は水路、或は陸路により甲府盆地に至るの交通線路は最主要なるものにして、其便利は天龍川筋の不便なるの比に非らず。又一方東海道線の一驛、御殿場より分れて富士の東北麓なる吉田に出て、或は御坂峠を越へ、或は桂川に沿ひ中央鐵道線路に連絡し、甲府盆地に入るの線路あり。

甲州街道

甲府盆地よりは、更に釜無川の流に沿ひ信濃の諏訪に出て、中山道に會する良好なる街道あり、又一方は八ヶ岳山嶽の東を走り千曲川流域に出て、岩村田に於て中山道の線路に會する街道あり。

一方に於て中山道の地帯と飛驒山地と日本海岸地方とを連絡する交通線路を見るに山岳延亘は多數の好線路を作らしむる能はずして美濃の北部より越前に出づるものとしては良好なるもの更になく、僅かに根尾谷の溪谷に沿うて、越前大野郡に出て、或は長良川を溯りて白鳥村より越前面谷鑛山に向へる線路あるに過ぎず。其餘は何れも樵徑をたどりて漸くに通ずるあるのみ。美濃より飛驒に出づる線路はこゝに述べたる長良川流域により白鳥を経て飛驒山間別天地の稱ある白川の流域に入り、遠く河に沿うて其下流射水川に沿ひ、越前に出づるものあり。又一方には岐阜市より關町を経て益田川に沿ひ、飛驒の中央北方に向ひて走り、高山盆地に出て、高山よりは更に神通川の流に沿ひ、田山に出づるものあり。此の線路の大部分は山岳地方を通ずるに拘はらず、全部總て車馬を通ずるを得べく、本邦を横貫する交通線路中の最も

主要なるものゝ一をなせり。

信濃地方より北越に出づるものは、松本平の北端の一市街大町より北方にむかひ、終に姫川の峡谷に沿ひ、北越の西端の小都會糸魚川に出づるものあり。交通頻繁なるに至らざるも、猶車馬を通ずるの便あり。一方に於て千曲川流域より越後に出づるには、其舊街道たる北國街道と長野より豊野・柏原を経て關山峠を越へ越後の高田を経て直江津に出づるものとあり。又一は長野より信濃川の流に沿ひ飯山・桑名川を経て越後の十日町方面に出づるものと、此線より分岐して關山の山脈を越へ頸城郡地方に出づる二三の道路あり。信濃臺地・飛驒山地とを連絡する交通線路に至りては、僅に野麥峠の一線路を除くの外は、僅かに白骨温泉より乗鞍の北方を通じ、平湯に出づる樵路あるのみ。野麥峠は梓川の上流奈川村を経て飛驒・益田川の上流を連ねしものにして、此二國を連ぬる唯一の線なるも道路猶峻にして交通の不便尠ならず。

又信濃と越中とを連絡する者に至りては、峻峻無涯の飛驒山脈を横断せざるべからざるを以て殆んど道路と稱すべきものなく、有名なる針木峠の峻路

信濃越中の連絡路

の如きは、信濃大町より越中立山に至る唯一の線路として、其名特に著はるゝも、其の線路は或は溪流を亘り、積雪を踏み、約二千五百米の峻坂を越へ、越中黒部川の大峡谷を下り、更に又佐々良峠の峻を越へざるべからず。徑路の時に通ぜざる所ありて、途次少くも二回の露宿を試みざるべからず。固より普通線路と稱すべきものに非らざるなり。

信濃より關東地方に出づるには、碓氷峠の外上田より烏居峠を経て、上野吾妻川上流に出づるものと、川中島平原の中野より澁峠を越へ、上野草津温泉に出づるもの其主要なるものなり。甲府盆地と東京地方とを連絡する線は、甲府盆地の東端勝沼より笹子峠の坂路を越へ桂川の流域に沿ひ、猿橋・上野原等を過ぎ後小佛峠の坂路を越へ、八王子に出て路は多く山間を通ずるも、又以て車馬を通ずるを得べし。猶其他各所の線路に就ては後項地方誌の條に於て詳説すべし。

今試みに東京市日本橋を標準として、各縣廳元標に至る里程を示せば、左の如し。

地方	元標地名		經山道筋	里程	地方	元標地名		經山道筋	里程
	愛知	靜岡				長野	山梨		
愛知	名古屋	市鐵砲町	東海道ニ廻リ 熱田ヲ經テ	九四三・一	長野	長野町	中山道 分ヲ經テ	五九二・〇	
靜岡	靜岡市	吳服町	東海道ニ廻リ	四六・一三	山梨	甲府市	錦町 甲府街道 コリ	三六・七〇	
岐阜	岐阜市	大字白木町	東海道ヨリ 古屋ヲ經テ	一〇四・一六					
山梨	梨								

更に交通運輸の状況を察するが爲め、左に諸車輛数を示すべし。

地方	馬	人力車	荷物	車	合計
愛知	一五一	一七、一四三	二一〇、三六	三三、一〇〇	
靜岡	五〇八	二、四〇五	五九、二一七	六三、八二六	
岐阜	二二二	二、八二九	四八、五二〇	五四、六六九	
長野	二二三	三〇六〇	三三、三〇二	三八、一五二	
山梨	一六九	七九一	七六六〇	九八七六	

鐵道

東海中山の兩街道は遠く古より本邦の最も主要交通線路たりしと共に、現在及將來に於て此二線路は又本邦に於ける最も重要な鐵道線路の

東海鐵道線

通路を占むるものたるに至れり。交通最も頻繁なる東海道に沿ては、大部分は之と平行せる東海鐵道已に完成し、中山道鐵道も將に首尾相連絡せんとするの機運に向へり。而して此等の線路より分岐する所の支線亦漸く其數と其長さとは増加するに至れり。今此等の鐵道に就て少しく述ぶる所あらんとす。

所謂東海鐵道なるものは、其全長に於て舊東海道の街道と一致せざる所あり。京都を發し草津に至る迄は、略之と相伴ふも、草津に至りてより幹線即所謂東海線なるものは、舊中山道に沿ひ岐阜に至り、之より轉じて名古屋熱田を経て再舊街道に會し、之より或は近づき或は遠ざかり、其の間に多少の間隔を保つも、略同方向に向ひ、沼津に至り函根山の峻を避けて北に轉じ、御殿場より足柄を経て小田原の東方なる國府津に至り、再び舊街道と合して東京に向へり。此の線路は既に其大部分は復線工事を了り、濃尾平野に於ける揖斐(三二〇米)長良(四五九米)木曾(五七〇米)の三大川を初め、東海沿岸に於ては濱名湖(八一七米)天龍(二二〇二米)大井(一〇一〇米)安部(五五四米)富士(五六六米)等の巨川に於て壯大なる鐵橋を架し、或は金谷磯濱石部(八六七米)等の大隧道

豆相鐵道

豐川鐵道

尾西鐵道

關西鐵道

を穿ち、又關東平野等の界に於ては足柄峠に於ける難工事を施せるあり。而して此の線路に於ける交通は、本邦鐵道線路中の最頻繁なる所にして、平時に於ては東京神戸間一日四回の直通列車を運轉し其最急行と稱するもの、此の兩點間を十五時間に走り、又東京と中部地方中心たる名古屋との間を九時間運轉せり。此の線路の支線として中部地方にあるものは沼津驛の北方なる三島驛より起り、伊豆の大仁に至る豆相鐵道一〇哩餘あり。

吉田(豊橋)より分れて東北方に向ひ、豐川流域の新城附近の大海に至る豐川鐵道あり。又大府驛より分岐して知多半島の東岸に沿ひ、龜崎半田武豊等の諸港に至る所謂武豊線なる支線あり。又尾張一宮驛より分れて西南に向ひ、濃尾平野の中央を走りて、關西鐵道の彌富驛に連絡せる尾西鐵道あり。此の官設東海道線なるものは曩きに述べたる如く名古屋草津間は、舊東海街道と相離れ寧ろ中山道と密接の關係を保ちて走るものなるが、此の線路の敷設と前後して關西鐵道の敷設は着々其の工事の歩を進め、略舊東海道線に沿うて遂に草津名古屋間を連絡するに至れり。此線路の我中部地方を通ずる部分

中央四線

中央東線

は其の距離短少にして、即ち名古屋より其の附近にある愛知驛を経て、木曾川三角洲を横斷し、彌富驛を経て伊勢國に入り、木曾川の大鐵橋を渡り、桑名町に向へり。

更に中山道方面の鐵道に就て之を見るに、其西方にあるものは名古屋を起點とし東北に向ひ、多治見を経て木曾峽谷の入口なる中津川に至り、之より將さに延ひて木曾を過ぎ松本平に出でんとする中央西線あり。而して一方東方面を見るに、東京より武藏八王子に至れる甲武鐵道の線路は更に之れより西方に向ひて延長し、中央東線となり、小佛峠の隧道(二五三〇米)を過ぎ、桂川の溪谷に出で、無數の小隧道を穿ち、上野原猿橋等の名邑を過ぎ、笹子の大隧道(四六二九米)を過ぎて甲府に出て韭崎に至る迄は既に列車を運轉し、之れより釜無川の東縁逸見平を北方に至り、諏訪盆地に出て壱尻峠の南方を迂回して壱尻に出づるの工事は、今や將さに進行中にあり。是に於て北方より來れる所の篠の井線を併せ、西方に延びて、名古屋より來れる中央西線と首尾相應せんとするの計畫なり。

信越線

又太平洋岸と日本海岸とを連絡し、本邦を横断せる主要なる信越線は日本鐵道の前橋線と高崎に於て連絡し、即ち此の線は高崎より起り、西に向つて横川に至り、之より碓氷峠の坂路をアプト式軌道に於て上り、信濃臺地輕井澤に出て、之より千曲川の流域に沿ひ、小諸上田篠の井長野等の市區を経て、豊野より北に折れ、關山峠を越へ、越後に入り、日本海岸の直江津港に出て、是に於て北越鐵道の線路と連絡せり。

篠の井線

此の官設鐵道信越線よりは更に一支線を出だすもの之を稱して篠の井線と云ふ。即ち川中島平原の一驛篠の井より西南に向ひ、信濃の中央を走れる丘陵地を上り、觀月の勝を以て有名なる姨捨山を過ぎ、猿ヶ馬場峠の隧道を過ぎ、丘陵地を斜斷し、松本平の一隅犀川に沿へる明科驛に出て、松本を過ぎ鹽尻に至り、中央東線に連絡す。

此等の諸線に沿へる市區中名古屋市は東西兩京を連絡する一大驛を成し、加之るに關西鐵道は此地より西に向ひて分岐し、武豊線亦其本市の附近に於て幹線に會し、中央西線は此の地より分岐して東方に向ふあり。斯の如く本

名古屋驛及び其他の大驛

市は交通線路の一大交叉點を成し、四通八達の要衝を占め、特に中央線全く連絡するに至れば、其繁華は一層培養するものあらん。幹線中に於て濱松静岡等は名古屋に次て途中の大驛を成し、沼津は足柄の山間線路を出入する列車の休憩所として重要な一停車場を成せり。

此の他半田武豊等の如きは海運連絡の衝に當り、江尻驛亦清水港の停車場として海上との連絡を保てり。中央東線に於ては甲府驛其主腦の位置に位し、(第五十八圖乙) 大月驛は富士の東麓を通じて東海鐵道の線路と連絡する馬車鐵道の起點たるを以て、又一要點たるを失はず。

信越線にありては長野其中樞に位し、篠の井驛は篠の井線の分岐點たるを以て顯はれ、又篠の井線に沿へる松本は、此の線路を管理する主驛となれり。

線路社名	區間	距離	主要停車場	乗客數	主要停車場	貨物噸數
東海道線(官設)	山北	三八六	御殿場	一、四〇〇、〇〇〇	沼津	一、〇〇〇、〇〇〇
全	關府	三〇〇	名古屋	一、〇〇〇、〇〇〇	静岡	一、〇〇〇、〇〇〇
武大	武大	三〇〇	大府	一、〇〇〇、〇〇〇	大府	一、〇〇〇、〇〇〇
三島	三島	二〇〇	三島	一、〇〇〇、〇〇〇	三島	一、〇〇〇、〇〇〇
豆相線	三島	二〇〇	三島	一、〇〇〇、〇〇〇	三島	一、〇〇〇、〇〇〇

馬車鐵道及電氣鐵道

豐川線	長吉 篠田	一七〇	豐橋 三六八	豐橋 三三三
信越線	輕井澤 柏原	輕井澤 三〇七 篠ノ井 二八八 松本 二〇六 上野原 一七〇 甲府 一三〇 中津 一〇〇 名古屋 七〇	小諸 一六四 原 一六四 上田 三三六 田 三三六	小諸 一六四 原 一六四 上田 三三六 田 三三六
篠ノ井線	篠ノ井 尻	四二七	松本 二〇六 上野原 一七〇 甲府 一三〇 中津 一〇〇 名古屋 七〇	松本 二〇六 上野原 一七〇 甲府 一三〇 中津 一〇〇 名古屋 七〇
中央東線	八王子 碓氷	六〇〇	上野原 一七〇 甲府 一三〇 中津 一〇〇 名古屋 七〇	上野原 一七〇 甲府 一三〇 中津 一〇〇 名古屋 七〇
中央西線	中津 名古屋	一〇〇	中津 一〇〇 名古屋 七〇	中津 一〇〇 名古屋 七〇

中部地方に於て普通鐵道の外或は電氣鐵道馬車鐵道を設け、交通の便を計るもの少しとせず。特に山梨縣に於ては比較的長距離に連亘せるものあり。即ち中部東線の一驛大月驛より桂川に沿ひ、谷村を経て吉田に至り、更に富士の東麓を経て静岡縣東海鐵道の一驛御殿場に至るものあり。又笹子峠の西麓勝沼町より西南に向ひ、甲府に出て、更に西南に向ひ、鵜ヶ澤に至る鐵道馬車あり。

静岡縣下にありては東海鐵道の一驛駿河の鈴川より西北に向ひ、富士の南麓大宮町に至る馬車鐵道あり。又同線路中にある遠江の袋井驛より北方に向ひ森町に至るの線路あり。

人車鐵道

郵便電信電

又電氣鐵道は名古屋市中に布設せられ、又同市より瀬戸町に至る間には自動車鐵道布設せられんとしつゝあり。

此の他伊豆半島の東北部に當り、特種の軌道あり。即熱海より起りて相模の小田原に至る人車鐵道之れなり。(第五十八圖丙)

郵便電信電話 東海道線は各種の交通事業の最も早く發達せる線路にして、維新以前より私設の郵便事業は、疾く此の線に於て發達し、維新後に於ても官設の郵便并に電信線は先づ此線路に沿うて設けられ、本邦の長距離電話線の如きも亦此線路に沿うて架設せらるゝに至れり。其の他の地方と雖も日進の文明に伴はれ、今は到る所郵便の利益を享けざる所なく、又各地方の小都會に於ては既に電信線を架設し、又は市内電話交換の事業は名古屋に於て開始せらるゝに至れり。

今各地方に於ける郵便物、電信の發着數、及び人口に對する比例率を左に表示せん。

郵便電信發着數及其人口比例率

水運
海岸の水運

地方	郵便		物	電信		信
	引受	配達		發着	信	
愛知	三四,四八三	三三,五五三	一五〇三	三〇〇,六六六	四三,九〇四	〇・一七
静岡	一五,六三二	一八,〇三九	一三九	三六,四六九	三三,二二三	〇・三三
岐阜	九,六四九	一三,四二八	一〇〇七	一五,四八五	三三,一〇二	〇・一六
山梨	六,四三三	八,〇三〇	一三九	一三,九七	八,九〇一	〇・一六
長野	一七,九四八	二二,〇六四	一三三	二七,二五七	三〇,五八	〇・二五

水運 中部地方の大平洋沿岸に於ては海岸線の長さ割合には、比較的良港少し。是れ遠州灘海岸の如きは、其長きに係はらず、平滑なる砂濱より成れるは、其主要なる原因なり。然れ共良港亦全くなきにあらず。此沿海の重要なる海港と云ふべきは、伊勢駿河の二大海湾中にあるのみなり。即ち伊勢海に於ては其副灣たる知多灣の内に數個の商港あり。半田武豊龜崎等にして是等の諸港は海面平穩にして、大船を容るゝとを得べく、特に其南端武豊港は棧橋を架し、大汽船と雖も其海岸近くに碇泊するの便を有す。加ふるに東

海道鐵道の延長は此等の港に來りて、海陸の便を助くるあり。其の主要なる輸入品は農産物なり。伊勢海の北隅に當り熱田港あり。(第五十九圖丙)古の東海道の要津たりしのみならず、今日に於ても中部地方の最大都會たる名古屋市の前港をなすの觀ありて、帆船林立せるも、水底淺くして未だ大船を容るゝ能はざるを以て、築港の議は現今當局者間に行はる。知多半島の西岸には、伊勢海に而して常滑港あり。良好の港灣口にはあらざるも、その地産たる土器類を輸出する船舶の碇泊するを見る。駿河灣の重要な港としては清水港あり。鐵道は其の附近江尻驛に來り、海陸の交通に便にして、且つ北風を除くの外は安全にして、常に汽船の碇泊するを見る。本港の輸出入は農産物にして、又多量の石炭を輸入せり。

此の他の港は何れも小港にして、單に沿海航路の寄港地たるに過ぎずと雖、就中稍見るべきものは下田港なり。下田港は港形宜しと雖、南又西風の時には波浪高く、北風の時と雖危険の虞なしと云ふ可らず。伊豆半島中第一の港にして、船舶の好寄港地なり。唯、其半島の南端に偏在し未だ鐵道の便を得ず。

従ふて輸出入も半島の一部に止まるを免れず。其輸出入の主なるは附近の物産たる薪炭及水産物なり。伊豆半島の沿岸には此の他尙東岸相模灣に面しては網代伊東稻取等の小港あり。西岸駿河灣に面しては子の浦松崎田子土肥戸田等の小港あり。又駿河灣の西岸には清水港の他、焼津の小港市あれ共、開瀬に過ぎて、港と稱すべき形勢を備へず。遠江の海岸には殆んど港と稱すべきものなく、唯天龍川の口に掛塚港あり。河口淺くして固より良港と云ふ可らず。此の港の如き元來は天龍の河口にありしが、河口の地形變じて漸次外洋に突出して、港市は次第に内地に退却せる有様を呈せり。濱名湖口の舞坂にも小船の寄港するものあれ共、固より商港たるの價値なしと云ふも可なり。要するに此の海岸に於ては近畿或は關東に於て見る如き大商港と稱すべきものは極めて少しと謂ふべきなり。

翻て内陸の水運を見るに、曩きに地形の條に於て述べたるが如く、此の地方は河流の大なるもの少なからざれ共、多くは急流にして舟楫の便は比較的少しとす。美濃平野を流るゝ諸川は、其平原間に於て舟楫の便あれ共、河水

河川の水運

淺くして洲嶺其中に多き患あり。但し揖斐木曾の兩川に於ては河船能く往來す。特に木曾川は其上流に極めて豊富なる木曾の森林あり。此等より伐採する材木は筏に編みて此の河を下るもの極めて多きを見る。之れより東方に赴けば、三河に於て矢作川豊川あれども、其水運の便は僅かに下流の小部分に止まれり。天龍大井安部富士の四大川に於ては、何れも山間の急流にして、大井安部の二川に於ては、其の流域の大部分は深山幽谷の内に位し、水路亦急流砂礫に富むを以て、殆んど水運の便を見ることを得ざるも、天龍富士の二川に於ては、輕舸急流を下つて辛ふして交通の便を濟す者あり。是れ此二川は其の上流に於て山岳を以て圍まれたる諏訪伊那若くは甲府等の盆地を有し、此の生産に乏しからざる地方に集散する貨物は、僅かに此の一縷の水路を利用し、東海沿岸地方を連絡するを以て、此の間の交通機關たる所謂早船は、疾くに開かれて、天龍川に於ては信濃飯田町の南方時又より、富士川にては甲府盆地の西南隅なる鵜ヶ澤より、常に此急流を下るの便船ありて、前者は二日を以て、後者は僅かに半日を以て東海沿岸の平原に出るを得べきも、

其運路には數日の長きを要せざるべからず。而して此の二川に於ては沿岸所々寄泊地たる河港なきにあらざるも、普通の大川に於て見るが如き河口の良港は之を有せず。天龍川口にある掛塚港の如きは前に述べたるが如く今は漸次内地に退却するの觀ありて、殊に河口に剛沙發展し、船舶の出入に不便なるの憾なきにあらず。富士川の如きは又其の河口には港灣と稱すべき者なきの奇觀あり。而して此の二川共に其の下流に於ける重要な河港として、富士川は岩淵町を有し、天龍川は天龍川驛を有せり。前者は古來東海道の一驛にして、又現今に於て東海道鐵道の一驛となり、富士川を上下する旅客貨物の集散は一に是に依て陸上交通との連絡を成しつゝあり。又天龍川驛は輓近東海道鐵道天龍川大鐵橋第六十一圖の西方に設けられたる一驛なるが、掛塚港の僻在して不便なるにより、今は貨物は次第に本驛に吸収せられ、恰も富士川に於ける岩淵驛の如き觀を呈するに至れり。

顧みて内陸に位せる飛驒信濃の地形に就て之を觀るに、此の二國は共に山間の臺地にあるを以て、水運の便未だ十分ならず。飛驒に於ては船舶の往來

は終に之を見るべからざるも、其南部の益田川の如きは、附近の森林より伐り出す所の材木の運搬には、自然の好運搬路を成せり。信濃に於ては第一の大河信濃川未だ水上交通の便を備へざるを以て、其一大支流たる犀川は松本平より川中島平原に出づるの間、信濃の中央に延亘せる丘陵地を横斷し、水路甚しく險ならずして、河舟の交通を見るを得べく、篠の井線鐵道の未だ開通せざる以前に於ては、貨物の運搬に多少の便宜を與へたるも、今日に於ては單に局部の運搬と遊子觀光の用をなすに過ぎざるのみ。左に中部地方に於ける汽船帆船の現況の一斑を表示す。

官廳及地方	船種	登簿船		不登簿船		計	
		數	噸	數	噸	數	噸
靜岡	汽船	一五	一、二〇〇	三	一〇〇	一八	一、三〇〇
愛知	帆船	一	一〇〇	一	一〇〇	二	二〇〇
同	同	一	一〇〇	一	一〇〇	二	二〇〇

第三章 産業

一 農業

一般の農況

本地方は我が邦の中部に位し山岳重疊すと雖も其の間又平地尠ならず、人文も亦夙に能く發展し、従ふて古來立國の基礎とも稱せられたる農耕も普く行き届き、之を北海道若くは陸羽等の、人煙稀少にして開墾未だ普ねからざる地方に比すれば、耕地の廣袤收穫の度は遙かに其の上に抽づ。加ふるに西南部一帯は本邦中大平野を以て目せられたる濃尾の平野あり、之に續いて三河遠江等の平野遠く東南に亘り、數條の諸川其の間を潤ほし、吾田沃野一望涯りなく、本邦中稀れに見る所のものたり。而已ならず氣候は良好にして、實に恰好の農業地と云ふべく、南部の禾穀北部の養蠶は獨り本地方の特色なるのみならず、本邦中特に大に誇稱するに足るべき價値を備ふ。今爰に各縣

に就き農業の概況を述べれば、長野縣は地勢三方山を以て繞らし、唯、北方僅かに信濃川沿岸に沿うて濶く、其中央犀川千曲川流域地方一帯は南北十數里東西三里餘の間長き平地を保ち、地味豊饒禾穀能く實り、桑樹克く繁茂し、養蠶の業亦従ふて盛となり、繭は其産額の多きと質の良好なるとは群馬埼玉を凌ぎて本邦第一と稱せらる。全縣舉つて養蠶に従事すれ共、就中小縣上水内下伊那の諸郡は特に有名なる地なり。又上水内北安曇兩郡の蕎麥は其の耕作盛にして、收穫は全國中茨木青森に及ばざれ共、其の風味に至りては人の激賞して措かざる所、佐久の人蔘は其地の特産にして栽培亦盛なり。要するに本縣は本地方中面積の廣きこと第一なるを以て、耕地の廣さも亦之れに準し、一般の農耕能く行はれ、農業の種類も著しく各方面に發達せり。山梨縣は本地方中面積尤も狭きが上に四方山を以て圍み山林に富むを以て、耕地は面積に比して岐阜長野に優ると雖、田畑の少なきこと本地方中本縣を以て首位となす。唯、縣の中央に所謂甲斐の盆地を作り、富士川の上流之れに灌漑する所稍、見るべきものあれ共、此の盆地を除きては他に良田と稱するものなく、

畑地に至りても亦甚だ廣からず。故に米の外大豆小豆粟稗蕎麥馬鈴薯の産は漸くにして他縣と比することを得るのみ。然れ共葡萄に至りては獨り縣下唯一の特産物にして、之れを他府縣に供給するの外所謂甲斐産葡萄酒として他縣に輸出す。縣下の葡萄酒製造所は二ヶ所あり。一は東八代郡祝村にあり、一は甲府市にあり、郡部にあるものは大黒天印にして其醸造高は一ヶ年二千石價格五万圓に達し、滋養健胃の良酒として各府縣に輸出し、頗る有望なり。市部にあるものは錦町にあり、甲洲葡萄酒と稱するものにして、現今は東京大阪に支店を置き、熾に各地に輸出するのみならず、又之を支那其他の外國に出す。醸造額は三千五百石ありと云ふ。今葡萄の産地收穫及び其の反別を得たれば次表に掲ぐ。

甲府市		西八代郡	
收穫	反別	收穫	反別
六九〇 <small>町</small>	五八 <small>町</small>	三八〇 <small>町</small>	三二 <small>町</small>
東山梨郡 四三〇 <small>町</small>	三七七	南巨摩郡 九〇	五〇
西山梨郡 一〇、五〇〇	五〇二	合計 二二、五六	一三三、九
東八代郡 四六、二〇〇	三三〇		

愛知縣は東北山を繞らし土地高峻なれ共、西南一帯の大部は第四紀新層の平野渺茫遠く亘り、濃尾平野の一部を形成し、木曾川矢作川豊川等の諸川及其の他數多の支流は延々として沃野を灌漑す。故に米麥を初めとし豆類葉烟草等諸種の農産は他の諸縣に比して大に優れり。特に尾張は耕地廣く、面積と耕地との百分率も亦大にして、歐洲第一等の農業國即ちベルギー・フランス・ドイツ等と相併んで劣らず、中島海東海西三郡の平野は木曾川の流域に屬し、土地肥沃米麥菜種豆類葉藍葉烟草の産極めて多く、又西加茂碧海幡豆三郡の平野は矢作川流域に屬し、之れより引ける數多の溝渠と共に能く諸郡の地を養ふを以て米豆茶葉藍葉種葉烟草の産夥し。寶飯八名の兩郡又豊川の恵を受けて、是等の農産に富めり。然れ共是等饒多なる産物中にて最有名なるは米にして、一般に尾張米の名を以て外國に出だす。靜岡縣は他縣に比して、夙に農事改良の點に着眼し、縣人の輿論は殆ど此に傾むき經營頗る努む。耕地の面積は十萬町歩を超過し、農家の數は全戸數の七割を占め、一家の耕地は七反を超過す。此を以て農耕の産額頗る多きを致し、有名なる農産物も亦尠

なからず。其主なるものを擧ぐれば、米麥茶養蠶等にして、特に茶樹は縣下
 到る所適せざるなく、愛知岐阜兩縣年々の收穫八十萬貫若くば二十萬貫に對
 して二百萬貫の多額に達し、全國茶畑面積の半は此の地に集まり、古來斯
 業の本場と稱せられし京都府も亦一着を輸せざるべからざるに至る。彼の春
 時の茶摘秋時の花候見るもの其廣きに驚歎せざるはなし。獨り茶のみならず、
 米麥の産額も亦他地方に比して、敢て遜色あることなし。三椗も亦多く栽培
 せられ、之より製する紙の産額亦頗る多し。本縣現時農業機關としては、四
 個の農學校、一個の農事試驗場、一個の養蠶學校あり。之れに二個の農林學
 校を加ふれば、其數に於ても已に他府縣を凌ぐ、況んや本縣には報徳會なる
 ものありて農業經濟の途を圖るに於てをや。

以上諸縣の農況を見るに、各縣共に能く農業に適し、農産物も亦饒多なり
 と謂はざるべからず。元來本地方は前已に述べたる如く、本邦の中部を占め、
 山岳も亦た尠なからざれ共、其の中又所々に平野を展開し、西南一帯は肥沃
 なる田圃相連るを以て、各地共に田畑相半ばし、畑には果物蔬菜の産多く、

耕地

田には米穀能く實る、氣候は南北に依て小異ありと雖、敢て耕作を害するに
 至らず。北部植物帯の初め、南部植物帯の終り、寒地産と、温地産との接合
 地點なるを以て、漆樹馬蹄薯甘藷綿花茶樹等兩帶植物相交りて繁殖せり。即
 ち本邦の西部九州地方の産と、東北部陸羽地方の産は此の地に集合して、農
 産の種類頗る豊富なり。土地已に斯の如く、加ふるに人文夙に開け、人智敏
 活を以て能く之れが改良の機關を設け、或は農事試驗場となり、農會となり、
 農事講習所となり、若くは耕地の整理となり、各種各方面に顯はれて、直接
 或は間接に斯道の、改善進歩の計畫をなす、本地方農業の隆盛蓋し故なきに
 あらざるなり。

耕地 農業の有様を知らんと欲せば、第一に耕地と全面積の比を見るを
 要す。本地方は廣漠たる平野なきにあらざれとも、亦飛騨信濃中斐伊豆等の
 山地は耕地の割合を少からしむる原因となるものあり。然れども地味は肥沃
 なるを以て收穫物割合に多し。明治三十五年に於ける本地方の田地は約三十
 一万町歩にして、畑地は約三十一万四千餘町歩、合計六十二万四千餘町歩な

り。之れを本地方全面積に比するに二割三分三厘に當るを以て、關東地方の三割に比すれば、猶及ばずと雖、陸羽の一割四分六厘に比すれば、遙かに廣し。又各縣の耕地面積を一瞥すれば、長野は總面積も廣きが故に耕地も亦廣く、岐阜・静岡兩縣下の面積は各、長野に次ぎ共、耕地の面積は却つて其次に位する愛知より狭し。而して愛知の耕地百分率は最も多くして、三十二に達し、静岡の二倍、長野の二倍半、山梨の二倍餘、岐阜の三倍に當る。岐阜の耕地百分率は最少なれども、美濃南部の平野は、他に比して肥沃なるを以て、農産の收穫は却つて山梨の上に出づ。畑地は愛知・岐阜の兩極端を除けば、餘は皆伯仲の有様を呈し、愛知・岐阜の二縣の畑地よりも水田の多きは、沃野の多きを示し、米穀の産多きを表はせるものなり。

面積と耕地との比較

地方	面積	耕地	畑地	水田	面積と耕地との百分比例
静岡	五〇、三八三		六、三三〇	六、六五一	一三
愛知	三三、二七六		八、七八三	六、三九二	三二

土壤

山梨	岐阜	長野	合計
六九、八五〇	六七、四四五	八五、七六六	二六三、一〇六
三〇、二九九〇	三三、六〇一	七三、二二八	三〇九、五〇六
三、八六九六	四、八五七六	九四、一八五二	三〇二、六五六
一五	一一	一三	三九

土壤 本地方は高山峻嶺重疊蟠屈して、甚だ丘陵平夷の地に乏しく、加ふるに南北兩麓の相衝突せる對曲地方に屬し、地皮幾多の弱點に富み、此の弱點に沿うて幾多の火山噴出し、此等の火山より噴出せる噴石は幾多の良田をして不毛の地たらしめ、耕作に適する第四紀層地も數區に隔絶せられ、規模甚だ小なり。良土の主なるものは木曾・大井・大平・豊川・天龍・安部・信濃等諸川下流の灌漑地、海岸若くは山麓に起伏せる丘陵臺地にして溪谷の古紀岩層を瀾縫し、或は其の岩層間の凹地を填充したる第四紀平野にして、其の他は土性概ね良好ならず。然れ共此等第四紀層の後部を占むる第三紀層の過半は往時迄荒蕪の原野たりしが、近時世の進運に伴ひ人工を以て開墾に着手せしもの漸次増加の傾向を來たし、昨日の原野は今日已に有望の生産地と變ぜし所尠

なからず。

第四紀古層の性質は各地大同小異なれ共概して埴土若くは壤質埴土にして、耕耘の當時は稍膨軟なる状態を維持すれ共、次第に沈定固着せる密層に變じ易き性を帯ぶるを以て、植物根の發生を阻害すること多し。然れ共其吸收力は高度なるを以て肥料分の流亡少なきの利あり。新層は古層の縁邊を成し、三角洲或は海岸に瀕接せる低地若くは河邊の平野等、總て平坦低卑の地を占め、其面積多くは狹長なれ共又美濃尾張の平野の如き廣大なる曠野を成すものあり。何れも水利の便を得て灌漑排水の溝渠縱横に疏通し、地味豊沃にして田園相連り、且つ其位置は各都市に隣接し、水陸の交通に便なるを以て、本地方中最も注目すべき生産地を構成す。此等新層の土壤は比較的窒素及磷酸に乏しき故、肥料としては骨粉魚肥を宜しとし、又粘厚性に富む土性は、可成二毛作を施し物理的及化學的作用の二作用を促進するを要す。彼の美濃尾張の盛に紫雲英を作るは固より窒素肥料を得んが爲なるも、其間自ら土壤の理化學的性質を改良するの効あり。本地方中新層の最も少き地は、伊豆飛

騷信濃にして海岸或は山腹に稍平地あるも僅に溪間掌大の地たるに過ぎず。第三紀層土壤は概ね第四紀層平野の後部若くは山岳の間にありて、到る所多少發育せざるはなきも、特に美濃土岐、尾張愛知知多兩郡、三河豊川の沿岸遠江榛原小笠兩郡の南部に發育す。本土壤は一般に有効成分に乏しからざれ共、土層の構造は適良ならず、大氣透過の餘地に乏しきを以て、往々深耕法排水法等の器械的改良法を施すと同時に、比較的多量の肥料を使用するを要す。秩父古生層は、美濃の西北部即ち揖斐木巢武儀の諸郡、三河豊川の東南岸八名渥美の兩郡に跨り、遠江に入りて周智榛原安部の北部、信濃安曇西筑摩に連亘し、地勢高峻なるを以て廣大なる耕土を構成せず。主要分は富饒ならざれども理學性良好なるを以て、施肥耕耨の法を得ば好果を得べし。且つ土性磷酸窒素を吸収する力強きが故に、此の性質を利用して肥料を供給すれば、自ら其不足を補ふに足らん。花崗岩は尾三の界なる、猿投山脈より西加茂郡の北部、東加茂郡の過半額田の北部の地積を占め、段戸山脈を成せる領家雲母片岩及片麻岩地を挾んで、設樂郡の西部に擴がり、再び全郡東部の境

上に於ける第三紀層を以て填充したる豊川澗谷を擁して、天龍川上流の岸に迫り、信申の境上に跨がり露出すれ共、地位高峻なるを以て、溪流沿岸の僅少の平夷地を除く外、耕作地を構成せず。然れども地味肥沃なるを以て、良質なる各種の農林植物は、此の區域より産出す。領家雲母片岩土性中氣水の收排に便なるは三河南部寶飯額田及幡豆の三郡に連る域内にあり、有機分を含有すること少なきを以て、肥料は普通廐肥の外補缺として魚肥油糟骨粉等を主とするを要す。火山岩屑地土性は箱根の西麓及愛鷹山の東南麓、甲斐釜無川東岸及び、兼ねて第四紀新層を交ゆる信濃川下流下水内郡中部以北の土地に露出せり。是等土質は概ね粘着力を帯び多く腐植質を混挾せる植質壤土にして、營養分に乏しからざれ共、火山灰を混ざるを以て、植物に對する効果良好ならず。富士山麓の裾野は駿河甲斐に延びて、其區域廣大の地積を占むると雖、耕地甚だ狭少にして其大部は乾燥なる氣候に際して、強風の爲め表層の沃土は漸次飛散せられ、大に地の瘠薄を來たし、肥料を施すも之を分解するの力に乏し。甲斐の盆地は往古湖底たりしも火山灰を交るがため富士

米

裾野と同理によりて肥料の効果大に減ず。要するに本地方は西南部には濃尾の平野あり、土性亦肥沃にして水田遠く連なり、本邦中有數の耕地に屬すれども、東北一體は山岳多く耕地僅少なるのみならず、理學的性質不良なるを以て十分なる土壤改良を行ふの要あり。

米 本地方は一般に米穀の耕作に適す。今全國を九州區四國區本州西區全中區全北區北海道の六區に分つときは、其作付段別及收穫高は、本州中區は全國第一に位し、又全國平均一段歩の收穫にも優るを見る。本地方は實に其中區の一部を占むるものなり。今最近米作付段別及收穫高地方別比較表を擧ぐれば次表の如し。

明治三十五年米作付段別及收穫高地方別比較表

地方	作付段別	收穫高	一段歩收穫	國名
九州區	四〇、九六、三	六六、七〇、五九四	一、四八	九州、四、沖繩、八縣
四國區	一八、八八、〇	三三、九七、二	一、四三	四國、四縣
本州西區	五九、七二、〇七、	八八、八六、〇九	一、四六	京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫、岡山、廣島、山口、島根、鳥取、二府、八縣

本州中區	一〇三、五三七・九	一三、五九七・七	一、三〇三	東山、東海、東京、埼玉、茨城、栃木、群馬、神奈川、長野、山梨、静岡、愛知、三重、岐阜、滋賀、福井、石川、富山、山形、秋田、岩手、青森、七縣
本州北區	六二九、〇八・九	五、八五一、〇五	〇、九四六	新潟、宮城、山形、秋田、岩手、青森、七縣
北海道區	一六五、〇五・九	三、五五三	〇、二四三	北海道一圓
合計	二、八四七、三三〇	三六、九四七、〇九二	一、二九六	

抑も米の成熟するは固より其土質に依ると雖、又一定の溫度に關す。中央氣象臺は溫度と米とに就て説を立て曰く、米は攝氏十五度(四五)に發芽し、廿九度(七八)に花を開き、廿四度(九〇)に至りて成熟す。其發芽より收穫期に至る迄の積算溫度は、三千七百六十三度に達せしを最上米とし、一千七百二十一度を最下米とすと。是を以て見れば或一定の溫度内に於て、積算溫度の高き地方を以て米の最良地と認むるを得。彼の本州西區の良米にして收穫の多く、陸羽北海道の良米に乏しく收穫の少きも亦之れが爲なり。本州中區も亦其積算溫度の他に比して高きを以て、一段歩の收穫も西區のそれに比して僅に一升九合の差あるのみ。而して其作付段別と全收穫高を比するに、即全作付段別の四割に當り、又全收穫高を比するも亦その四割を占む。今本地方の

作付段別及收穫高を擧ぐれば左の如し。

明治三十五年本州中部米作付段別及收穫高

地方	作付段別	收穫高	一段歩收穫
本州中部	三二四、九七五・八	四七、四七、八六九	一、五〇二

今之れを前表本州中區に對照するに、反別及收穫高に於て何れも約三分の一に當るも、平均一段の收穫高は一石五斗二合餘となり、中區の一石三斗二合に比して二斗の多きを收穫す。而して其の主なる産地は愛知長野静岡にして岐阜山梨遞次に次ぐ。愛知は木曾矢作の兩川を以て灌漑せられたる濃尾平野の第四紀新層大平野を有し、地味能く米穀に適し、有名なる尾張米を産し、長野は地味肥沃なるにあらざれども其耕地の面積は、本地方中愛知に次ぎ、加ふるに犀川及千曲川の沈積に係る第四紀新層あり。静岡岐阜の二縣は廣漠たる平野を成し耕地に乏しからざれ共、伊豆飛騨の山地あるを以て耕地の面積は共に前二縣に比して廣からず。山梨は本地方中氣候及び地味共に比較的宜しからざるのみならず、耕地は甚しく森林地の爲に壓迫せられたるを

以て、米産地としては殆んど見るに足らず。若し夫れ他日耕地の整理十分なりし曉には現今に比して稍、優る所あるに至らん。左に米作地の種類を示さん
米作付段別及收穫高地方別

地方	作付			收穫			均一段歩平均收穫
	米	陸	計	米	陸	計	
愛知	八五,五二八	七九,七九	六〇,三八	九七,七六五	一四六,一八一	二〇,三九	一六三
静岡	五五,五五一	五七,六〇	一八,三三五	六二,二四六	八二,二一〇	六,二四〇	一四〇
山梨	一六,七〇四	二一,〇七六	三四,一五	一九,一四九	二七,〇三三	六,四四五	一五九
岐阜	五三,八三七	四九,三九	三〇,三三八	六四,〇〇四	七四,三三三	五,四〇九	一七六
長野	六〇,四六五	七七,六四八	三三,一五	六八,五九八	九四,四三八	一〇,九一九	一七三
合計							

麥 麥は本地方中愛知縣を以て最多とす。其中島愛知渥美寶飯丹波等の諸郡の如き最も麥作に適する第四紀古層の平野を有するを以て、他縣に比すれば一倍半若くは二倍の收穫あり。種類は他の各縣と全しく、大麥裸麥小麥にして作付段別及收穫高は大麥裸麥は互に相伯仲すれども小麥は收穫少し。

各縣皆常食に供するは大麥裸麥にして、小麥は粉となし麵麩菓子麩其他に使用す。然れども此等の小麥粉は舶來品に比して劣れるを以て、需要は多くアメリカの輸入品に仰ぎ、大麥も亦常食とするの外麥酒製造の原料となせどもドイツの輸入を受くること多きを以て、近來各地方に於て、外國の良種を撰び之を培養せる傾向あるに至れり。本 是斯くの如く麥の主産地なれば、之より生ずる副産物たる麥稈の工業も亦盛にして、全國第一と稱せらる、岡山縣に次ぐに至れり。又麥酒醬油麩の製造盛にして、麥酒醬油は半田龜崎、麩は津島を有名とす。麥は我が邦農産物中、米に次て最も重要視せらる者にして、幸に我が邦の各地麥作に適せざる所殆んどなく、其の收穫も亦甚だ少なからず。今左に我が邦全體に付米麥の段別及一ヶ年の收穫を比較し次に本地方の麥作につて述きぶべし。

米	反	別	收穫
二,八四七,五〇五			四六,九一四,九四三
一,八一六,二一一			二〇,六四〇,二〇七

中央氣象臺報告の麥の氣溫限界は米よりも一層廣くして、發芽溫度は米の最低十五度なるに對して零度以上、成熟は米の最低二十四度に對し其れ以下の氣溫限界は斯の如く廣きを以て、我邦にては北は北海道陸羽より、南は九州臺灣に至る迄、孰れも其の耕耘に適せり。然れ共其兩端北海道區及本州西區は其收穫本州中區に及ばず、是れ甲は開墾猶未だ普ねからざるに由り、乙は雨量の多きに過ぐるに由る。全國にて麥の最も多く産するは埼玉にして、茨城之に次ぎ、何れも百万石を超過す。本地方は此等地方に次て麥作の盛なる地方にして、大抵少くも四五十万石、多きは八九十万石に昇る。獨り山梨は總ての農作と共に少なく漸く三十万石に達せり。今全國麥の段別收穫高を示し、次て本地方の反別收穫高を掲げて本地方の麥作の統計を示さん。

全國麥作付段別及收穫高地方別 (明治三十五年)

地方	段別	收穫	一段步收穫	地方	段別	收穫	一段步收穫
九州區	三九八、六八九	二九七、三七七	〇七二	本州中區	六七、三六三	八、三三〇、八三	一、二〇四

四國區	一四六、九八三	一五七、三〇〇	一、〇七〇	本州北區	二六、七四、一	一、二六、七六三	〇、八八九
本州西區	四〇七、八七〇、六	四一六、六六六	一、〇三三	北海道	二七、三〇九、八	二四九、八五四	〇、九一五

本地方麥作付段別及收穫高地方別 (明治三十五年)

地方	段別	收穫	一段步收穫	地方	段別	收穫	一段步收穫
愛知	六三、九九六、九	八四、七〇〇	一、二七三	岐阜	四〇、三四七	四三、八〇三	一、二二六
静岡	三〇、八七九、七	五八、〇六二	二、二五六	長野	四七、七四〇	五三、八三四	一、二八〇
山梨	三、四七二、五	三、二〇七	〇、九六八				

食用農産物

本地方食用農産品の主なるものは、大豆・小豆・粟・稗・黍・蕎麥甘藷馬鈴薯等なり。大豆は其の産額の多きと品質の良好なるとは、北海道東北地方關東地方と共に併び賞せらる。本地方中産額の最も多きは、長野にして、愛知之れに次ぎ、静岡山梨岐阜は長野の約六分一を上下す。小豆の産額は、大豆の産額四分の一強にして、産額は長野を第一とし、愛知静岡之れに次て殆んど同額を産し、山梨岐阜は長野の約七分の一を産す。粟も亦其の多

産地を長野とし、其の總石數は小豆の總石數より大なり。稗も亦長野を第一とし、静岡岐阜之に次ぎ、山梨又之に次ぎ、愛知は最も其少額を産す。稗は元來麥粟と全しく米の代用となすの外其需用なし、從て愛知の如き麥粟の多き地方には其多額を要せざれ共、麥粟の少き静岡岐阜山梨の地方には比較的其必要を感ずるに依る。黍又米の代用を爲すと多く、其多産地を愛知とし、長野は其額最も少く、愛知の一万四千石に對して僅かに三千石の收穫を保つに過ぎず。岐阜静岡は又此等の中間に位す。蕎麥は長野を主とし、其産額は全國中茨城青森の二縣に一步を讓るも、其よく人口に膾炙せるは寧ろ茨城にあらざして長野にあり。長野は到る所山腹若くは丘陵の地に其の播種を見ざるはなしと雖、特に其の西北部最も多く之を産し、東北部之に次ぐ。古より有名なる更科蕎麥は實に本縣蕎麥の代表者と謂ふべし。本地方の蕎麥は實に關東産と共に、全國産額の首部を占め、又其消費地を以て有名なる東京に近きを以て、其耕耘は甚だ盛に行はる。左に上記三縣の産額を示さん。

蕎麥主産地段別及收穫表

神 黍 蕎麥

地方	段	別	收	穫	地方	段	別	收	穫
青森			九、二九四	石	茨城			九、二四〇	石
長野			八、〇三六	石					八、〇五三
									五、三九二

甘藷は九州に次ぎ關東と共に其の産額甚だ多し。特に多きは愛知縣の南部にして、渥美寶飯八名碧海の諸郡に多く産し、静岡は之れに次ぎ、長野は土地寒冷なるを以て其産額少し。馬鈴薯は愛知岐阜を除くの外他は殆んど優劣なき少額を産し、之を關東陸羽地方に比すれば大に遜色あるを免れざるは天然上甘藷の繁殖地と正反對を顯すを以てなり。要するに前記食用農産物は各地方其の産額に於ては多少の差あれ共、一方の地に適して一方の地に全く適せざることなく、全積耕地の割合に應じて相應の收穫を有す。彼の甘藷馬鈴薯の如き全然氣候に左右せらるゝものすら猶且つ相當の産あるは、之れ即ち本地方農産の特色にして、地位實に寒暖の中程にあるを以てなり。今左に此等食用品の收穫高を掲ぐ。

食用農産物收穫高

甘藷 馬鈴薯

地方	特別農産物									
	大豆	小豆	粟	稗	黍	蕎麥	甘藷	馬鈴薯	繭	麻苧
愛知	五九,三六四	九五,二七〇	四六,五九一	一〇,九四〇	三三,四五五	二六,七五七	三〇,四八二	七九,二七六		
静岡	三三,四三七	一二,三三三	三三,三四四	四〇,七七一	三三,一〇一	三六,三三三	三〇,四八二			
山梨	四〇,〇〇九	七,一一〇	三三,四七七	一八,一七五	一〇,〇七八	一五,五五三	一七,六四九			
岐阜	三〇,九三五	六,四三七	一四,三三四	三六,〇六六	一五,九九〇	一〇,九一八	五,三六三			
長野	一七,〇〇一	三〇,一九三	五九,五三八	八四,九六六	三,一三六	五,九一一	一四,三一一			

と。
特別農産物 本地方主要なる特別農産物は綿麻苧葉藍茶種茶漆汁桑等
 綿花の多産地は畿内山陰地方なるも、本地方も亦之に次て多く之を産す。即ち愛知縣の三河は綿栽培の嚆矢にして、土地氣候亦能く之に適す。山梨は愛知に次ぎ、長野は獨り氣候不適の爲、耕地收穫共に他縣に比して最も少なきを以て、印度及び北アメリカ合衆國等より輸入を仰ぐに至り、一般に綿花の栽培を減少するに至れり。麻苧の多く産するは静岡にして、主として漁

藍	葉煙草	茶種	漆
具用に供し、其産額も亦多し。岐阜長野も亦所に依て之を産し、主に布及織物の原料となし、種は搾りて油に製す。藍は我邦に産するもの蓼藍山藍の二種あるも蓼藍を多しとす、本地方産するもの亦此に外ならず。本地方は南西部一帯の平野に多く、岐阜羽鳥郡より始まりて尾張の中島西春日井碧海寶飯幡豆の諸郡に亘り、遠江の南部に連る一帯の地に多く之を産す。特に岡崎以西西尾に至る矢作川一帯の地最も盛なり。今其産額を縣別とすれば、愛知を第一とし、静岡之に次ぎ、岐阜長野山梨又之に次ぐ。近年唯、憾む印度藍の輸入するもの頗る多きを。葉煙草は、我國關東平野以西に産し、關東平野及四國九州は其有名なる産地なれ共、本地方は産額及品位に於ても、遙かに此等の下にあり。産地は愛知静岡南部を第一とし、長野之に次ぐ。長野は氣候一般に寒冷にして其栽培に適せざれ共、南方飯田の地溫暖なるを以て此の地の産稍、世に知らるゝものあり。茶種も亦煙草と同じく本地方有名なる産物にあらず共、獨り愛知は他に比して多く、次は静岡にして、愛知の三分の一、岐阜静岡の二分の一、他は頗る僅少なり。漆樹の栽培は本地方各區に産せざ			

甘蔗 茶

ることなしと雖、之を福島青森等東北地方に比すれば頗る僅少なり。甘蔗亦多少なきにあらざるも、甘蔗栽培の終極點にして、其本地方の多産地と稱せらる、静岡愛知に於ても其産額甚だ少し。茶は漆が本邦支那に限るが如く、支那印度と共に世界の主産地をなし、ヨーロッパアメリカの各地に輸出す。而して本邦中最多額を出すは静岡縣にして全國茶園の五分の一を占め、中にも遠江の榛原周智、駿河の阿部最も有名なり。且本縣の茶園は近年非常の進歩をなし、茶園反別産額等は現時各地の首位を占め、古來茶を以て有名なりし京都府を凌ぐに至れり。今明治三十四年横濱より輸出せし本縣茶の額を掲ぐれば左の如し。

遠江産	一〇六、三六六	一箱斤數九十三斤	九、八九一、〇一五
駿河産	七三、二二八	全	六、八一〇、二〇四

右の表中、内國向は百分の二十三、外國向は七十七に當る。静岡縣に次て盛なるは岐阜縣なり。本縣は揖斐武儀加茂上惠那不破の諸郡に産し、製茶は静岡と異り煎茶の産少くして玉露番茶の製造盛なり。揖斐郡池田村孝野井の

三椏 葡萄 人蔘 薄荷 蘿蔔

茶古來頗る著名なり。愛知山梨の二縣は静岡岐阜二縣に比すれば譽ぐべき程の産額なけれ共、之れを長野縣に比すれば遙かに多し。長野縣は氣候寒冷にして茶樹の栽培に適せざるを以て單に自家の料に供するに過ぎず。

其の他有名なるは甲斐の三椏葡萄、長野の人蔘薄荷愛知の蘿蔔等とす。甲斐の三椏は、西八代郡を其主産地とし、年々の産額六七十萬貫、價格十四五萬圓より二十萬圓に昇る。葡萄は食用及び葡萄酒の原料に供し、縣下各地に之を栽培すと雖、勝沼東八代東山梨の諸郡等は其主産地たり。長野縣の人蔘は所謂朝鮮種にして主として佐久郡に産す。今を距る六十年前より栽培し、現今の産額十萬斤以上に及び、未だ福島縣に及ばされども、鳥取栃木秋田等諸縣の上に出て支那に輸出す。薄荷は本邦中山形新潟岡山千葉を主産地とすれ共、愛知長野亦多く之を栽培し、菓子齒磨等の原料及藥品に用ひ、人蔘と共に其栽培及販路未だ廣からずと雖、將來は好果を得るならん。愛知の蘿蔔は分つて宮重大根方領大根等とす。食膳に珍重せらるること世人の知る所、又之を切り干しにしてハワイアメリカ等に輸出せらるゝに至れり。主産地は

中島丹波西春日井海東の四郡にして、産額百二十万貫、價格二十万圓に及ぶ。一二月の候東海道官設鐵道附近、白壁の所々孤立せる如きを望むは、皆其の切干を賣上に洒らせるなり。

特用農産物收穫高

	實綿	大麻	藍	葉烟草	菜種	茶	漆
愛知	三〇六、〇九八	一、〇四〇	一、七三、九〇四	一七六、一三三	六九六三	八三、九三六	八八
山梨	六、三三六	四八〇	三九〇、三六九	三三、九三三	一四〇六八	二〇〇六、三六八	三五六
静岡	一四、三三〇	二七、七六	六、五四	八九、七二	二〇三三	四、〇三三	七五六
岐阜	八、四九三	三三、二六三	二六、三五四	五、三四五	三〇、七七	三六、一〇三	三三〇
長野	九、三〇	一〇三、六〇一	三三、三二	七〇、三三三	一六、五八〇	三六、一〇三	三三〇

蠶業 本地方は火山作用一般に激烈にして、火山灰・浮石等相交り、地味最も桑樹の培養に宜しく、加ふるに氣候の性質も亦蠶業地としては、恰好の地たるを以て關東陸羽地方と共に相併んで、今や我邦養蠶地の中心となるに

至れり。中に就き長野縣は其の最たるものなり。今長野と相併んで養蠶地と稱せらるゝ群馬・福島・埼玉との比較を見るに左の如し。

地方	桑畑段別	繭の産額	蠶種掃立枚數	飼養戸數	平均一戸の掃立枚數
長野	二七、九三、五	四、五七、七	五、五九、五三	一〇七、六九	五、五
福島	二九、九三、〇	一、四四、五四	二、八四、八九	七〇、一〇	四、〇
群馬	三、五四、〇	二、五、六五	四、三八、三四五	八七、八七	五、〇
埼玉	二、六、八六	一、九、三三	三、四、三九	九七、四三	三、三

右の表に依て見るに、桑園は各縣共に大差なしとするも、長野は飼養戸數掃立枚數、若くは繭産額高何れも遙かに他縣の上にあり。又飼養戸數の十万户なるに至りては、同縣全戸數の半に達す。且つ前表は我邦有數の養蠶地を列擧して、之を比較したれ共、又之を大阪長崎青森廣島山口徳島香川大分佐賀等の繭産額十万石未滿の地と比するときは、實に本縣蠶業の盛なるに驚かざるを得ず。加るに其の繭の精良にして、絲質純白、彈力強く、解舒容易に

して、絲量の多きこと、他に其比を見ざる所なり。養蠶地域は前述の如く、全縣下に普きも、其の最も盛なるは小縣郡となす。飼養期は各地共春期を多しとすれ共、獨り松本平地方は、秋蠶種製造盛なるを以て、夏蠶の飼養春蠶に超過せり。本縣は又蠶種の製造盛にして、所謂信州蠶種と稱する者是なり、種紙の多きも亦小縣郡を第一とし、東筑摩上水内下伊那等に盛に之を出だす。山地には又俗に山繭と稱する天蠶及柞蠶を飼養す。蓋し野外に放飼して、柞楡解等の葉を食せしむるなり。山繭の繭絲は精練漂白すること困難にして、又染め難しと雖、光澤の強きは普通のものに優れり。今本縣山繭飼養の有様を記すれば次の如し。

天柞	蠶蠶	飼養戸數		量價	
		數	數	量	價
		二二三	三、五八二、二〇〇	一一、七四三	
		三九八	一一、一一二、五〇〇	一三、六五六	

本縣收繭價額は山繭を合して千五百万圓に上る。之を群馬の七百八十万圓、福島の六百万圓に比するも、猶二倍以上の巨額に達せり。長野縣に次で盛な

天蠶柞蠶

るは山梨岐阜の二縣とす。静岡愛知の兩縣は本地方第三流の蠶業地なれ共、之を本地方以外の諸縣に比すれば、屈指の養蠶地と謂はざるべからず。飛騨地方は風土の農耕に適せざるを以て、農民の大半は職を蠶業に依頼するもの多く、勸誘奨励も亦頗ふる至れり。愛知は丹波碧海幡豆葉栗西加茂等を第一とし、其他と雖盛ならざるはなく、年々の産額も亦大に増加し、蠶種の撰擇、飼養の改良等着々其歩を進めて其の發達頗ふる著し。要するに本地方の蠶業は、天然上養蠶に適する風土を有し、人事上大に之れが保護奨励を加ふるにより、其發達年を追ふて著しく、本邦貿易品の主位を占むる生絲は、實に本地方養蠶に關すること大なるは、他の諸縣の遠く及ばざる所なり。

桑畑段別及繭産額

愛知	静岡	山梨	桑畑段別		繭産額			
			見積	計別	存繭	秋繭		
七、〇八二	七、四六八	一、九三六	一、三五九	八、九八一	六、三三三	一、七九四	一九、〇〇六	九、五三三
七、四六八	一、六七三	二、七二五	九、一五一	五、三九五	一、七九四	四、二二四	一一、〇〇一	六、八八一
一、九三六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	七、一〇一	二、九〇六	一九、〇〇六	九、五三三	六、八八一

牧畜

牧畜 本邦農業中其の進歩の甚だ遅々たるものは實に牧畜業とし、而して特に本地方を以て其の最とす。本地方に於ては各戸僅に牛馬を飼養するの他別に大牧場なく、従つて其種類及匹數も豊富ならざる故、牧畜業としては殆ど云ふに足らざるも各縣に就きて少しく其の梗概を述べれば、長野縣は、古は斯の業甚だ盛にして多く良馬を産したりしが、中頃農業の他の部分盛となりしに従ひ、牧畜を以て利あらずとし、其の業漸次衰微し來りしが、近年に至り再び其の必要を感じ、南佐久及木曾其他各地其改良を圖り、良馬の産漸く増加し、頭數に於て岐阜の二倍、愛知の四倍に達し、木曾駒を以て世に著はるゝに至れり。牛の牧養も亦近來に至り盛となり、上高井小縣及南佐久北佐久の地に其飼養を見るに至り、就中北佐久郡物開山の牧場にては牛酪の佳良なるものを産す。元來本縣の牛數は、静岡の六分の一に及ばざれ共、搾乳用のものは静岡に超過せり。屠牛數亦多けれ共肉の價額十萬圓は愛知縣の

岐阜	七七一九	五六四五	一三三六四	六三二七六	一一四〇〇	一四五六一	一〇四八三九
長野	三三三三四	三五九八一	二七九三五	二〇七八四五	一三三八五三	一四四九七四	四四五六七

十六萬圓には及はず。本縣には又山梨縣と共に蜜蜂の飼養あり、其産額未だ多からざるも、其他に之を飼養する地方稀なるを以て特に之を記す。愛知縣は本地方中最も馬匹の少なかりし地方なりしが、近來農作運搬等に使用するもの多くなるに従ひ馬匹の改良繁殖を奨励するに至り、現時は北設樂東加茂を最とし南設樂八名東春井の諸郡順次盛となれり。牛は搾乳用は少なけれども運搬農耕又は食肉用は何れも其數の多きこと本地方中第一と稱せらる。本縣は又家雞を以て有名にして雞の本場とも稱せられ、百羽以上飼養の戸數は三百六十八戸、百羽以下の飼養戸數は九萬餘戸、頭數六十餘萬羽に達し、一ケ年の産卵三千六百六十萬餘個に及ぶと云ふ。岐阜縣は長野縣に次で、馬匹の多き地方にして、主として飛驒益田郡高根地方とす。本村の戸數三百餘戸、もと農を以て生業を營めども、土地狭少なるに加ふるに、地味亦た瘠薄なるを以て、毎戸多少馬を飼養し、多きは六十頭に及び初夏より末秋までは、北方信濃の境なる野青山中を天然の牧場として放養せり。總數約千七百餘頭に達し、毎年木曾福島の市場に出して之れを鬻ぐ。大野郡亦古來良馬の産地た

りしも、近來漸く衰微せしに、兩三年前より牛馬組合を組織し改良繁殖を計り、郡内已に八所の牧場を開き、毎戸多きは百三四十頭、少きも四五十頭を飼養して、大に將來の繁盛を期せり。今にして衰へずんば豈獨り縣の幸のみならんや。

牛馬豚の飼養數

地方	牛	上記の内乳用	馬	豚	屠牛數	牧場の箇所段別
愛知	七四七	八六	一四三九六	九四	四〇五	一三三
静岡	一九七四	一三八	一六三九九	一九四	一〇九	七
山梨	一六七二	一四四	一九八七〇	八〇	一五五〇	一
岐阜	八〇九三	六三	三六九四四	三三三	一八六四	—
長野	三九七三	一七二	五五五六	九五	一七三九	一三

此の外長野には少許の山羊を飼養す。

二 林業

本州中部は本邦中森林を以て有名なる地方にして、北海道臺灣に比すれば、猶其産額の及ばざると違しと雖、之に次げる秋田青森に比すれば、殆んど之と相匹敵せんとし、本邦中有數の大森林地たり。北海道森林は其面積及樹數に於て、本地方の其れの約五倍に當り、巨樹老幹參差天に冲するもの多しと雖、材質疎鬆にして、其の用途の廣きこと本州中部に及ばず。又秋田青森二縣の其れと比するも、猶未だ本地方の堅牢にして美質の材木多きに敵すべきにあらず。要するに本州中部は實に本邦第一の美林地方にして、彼の能く人口に膾炙する木曾天城の森林は實に其の主なるものなり。

本地方の森林を地形に依て分つときは、山林及平林と爲すを得べく、又之を生育の狀態に依て分てば、天然林及人工林と爲すことを得べし。而して尾張三河遠江各南部の森林は大概皆平林にして、所々密生して、平野の單調を破るもの是なり。本地方は所謂日本五大平野の一にあるを以て、従つて此等の平林に乏しからず。之に反して、飛騨木曾赤石の諸山脈及伊豆天城山等の山岳地方は皆山林にして、綠林鬱蒼として麗はしく、山骨を裝ふ。蓋し本地

中部の林業
平林
山林

天然林
人工林

方は所謂本邦南北兩緯の相會せる所にして、高山峻峯甚だ多きを以て、山林亦甚だ多し。要するに、本地方は平林山林共に多く、何れも皆美麗なる木材に富む。而して山林の多きは北方にして、平林に比すれば、遙かに廣き面積を占む。以上尾三の平林及木曾天城等の山林の多くは、其地の氣候水理土質に適合し、人工に藉らずして、自然に繁茂生長したるを以て、之を天然林と稱す。本地方は又天然林に富み、且つ其樹類甚だ多し。又美濃本巢郡根尾谷駿河富士郡の模範林等を主とし、其他各地方に散在したる造林を人工林と云ふ。本地方の人工林は、猶未だ其規模宏大と云ふを得べからざれ共、近時より各縣共に殖林の必要を認め、百方其増殖に努む。即ち静岡縣にては天城の田方賀茂、遠江の三方、岐阜縣の七宗山、其他長野愛知静岡三縣に跨れる天龍川沿岸地方造林經營の如きは、其最も著しきものにして、綠林森々山骨を被ひ、行人をして歩を止めて歎賞せしむ。就中人工林の能く發達したるは、静岡縣にして、彼の天龍沿岸及び天城の兩地方を以て其模範となすを得べし。往昔、徳川時代の頃には、大に嚴峻なる法律の下に、保護施設を加へ

たりしが、維新後人口増殖と共に、諸般の工業勃興し、奢侈漸く其の風を爲し、大厦高樓亦多く造營せられ、従つて木材の需用は大に其度を高め、森林の濫伐亦頻りに行はれ、加ふるに比年氣象の變化洪水の氾濫用水の涸渴等の諸災相踵ししかば、林相の荒敗は其極に達し、殆ど收拾すべからざるに至れり。是に於て復大に森林保護の必要を感じ、各縣相競ふて殖林に努むるに至り。本地方の森林の如き其廣袤甚だ大なるを以て人跡未だ到らず、斧鉞未た入らざるものあるを以て、現時は其保護の必要上、之に新殖林を合せて五大林区に分ち、又之を御料林國有林民有林に分てり。今次に各大林区所管の面積を擧げん。

大林區	地方	御料林	國有林	民有林	合計
石川	岐阜	二二,五〇七	五,一八四	二八,六九〇	一〇七,九六六
長野	長野	四七四,二七三	三,四三三	二四一,三六九	九五九,九七七
東京	静岡	一九二,〇〇五	二九,一三〇	二九〇,二四三	七七一,〇三九
	山梨	四〇五,三九二	五〇,七〇八	五〇,六四九	五〇六,七四九

大	阪	愛	知	七,九三三	一〇一,八八四	一〇一,六九九	二七,四三三
合計	五			一,三五六,五〇〇	一,二七〇,〇六六	九六九,五九〇	三,五九七,一五六

以上の表に依て見れば、本地方の森林總計面積は凡三百六十万町歩にして、之を本邦全森林面積の二千二百六十万町歩に比すれば、約其の一割六分に當る。次に各種森林の總計面積を見るに、最も多きは一百三十五万町歩を有する御料林にして、一百二十七万町歩を有する國有林之に次ぎ、共に百万町歩を超過すれ共、獨り民有林は最も少くして、一百万町歩に満たず。更に又各縣に就て之を考ふれば、岐阜縣の百万町歩を第一となし、長野の九十五万町歩之に次ぎ、最も少きは愛知の二十七万町歩にして、愛知は岐阜の約五分の一弱に當る。而して又御料林は長野山梨に多くして、愛知に少く、國有林は岐阜に最も多くして、山梨に最も少く、山梨は約岐阜の十分の一強に當る。民有林に至つては山梨を以て最少とし、其他の各縣互に優劣なし。要するに、山梨愛知の兩縣森林面積は、他に比して廣大ならざるなり。之れ種々の原因ありと雖、山梨は氣候の影響は其主なるものにして、愛知は耕地の多き平野

各種森林面積の比較

地方	御料林	國有林	民有林	合計	各種森林面積比較表	
					最大	最小
岐阜	四二,四一四	二二,四五三	七〇〇,七九〇	一一,二二五	七,九三三	
長野	四五,一一六	三三,二七五	一,〇八四,四六六	一,一五二,八五八	二七,四三三	
山梨	二八,六二五	一〇,九〇二	六四三,七八八	七六三,七一一	二七,四三三	
静岡	六三,八一四	三,八〇二	一,四三〇,七七九	一,四九七,三九五	二七,四三三	
山梨	二二,一二五	二八,六二五	一,四三〇,七七九	一,五八四,一六六	二七,四三三	
合計	一,三五六,五〇〇	一,二七〇,〇六六	九六九,五九〇	三,五九七,一五六	二七,四三三	

の存するを以て主なる原因とするものゝ如し。

各種森林面積比較表

最大 岐阜 山梨 岐阜 山梨

最小 愛知 愛知 山梨 山梨

現今各地に於て縣立或は郡立の林業學校を設立して、森林發達の途を講じ、大に其施設に汲々たりと雖、又一方には年々種々の必要上より伐採する額尠なからず。

本州中部伐採用材價額表

愛

知

三三五七
二八一三五

六二四

五〇四、六六二
六三六、二六六

右御料林、國有林、民有林の有名なるものは、駿河田代の御料林、遠江千頭山の御料林、伊豆天城山の御料林、信濃飛驒の木曾御料林、國有林及び信濃遠江三河三國に亘れる天龍川沿岸の御料林及民有林とす。

是等の森林は所謂本邦温帯林の中にありて、海岸の影響を受くるのみならず、兩嶺山系の對曲地方にあるを以て斯の如く廣大となり、吾人口常の需用を供給するに足る良材甚だ多し。今其の種類を列擧して、著名なる材木を詳述すべし。種類は即ち松、樅、梅、檜、杉、花柏、羅漢柏、金松、水杉等にして、其外樟、樺、栗等なり。

就中、花柏、羅漢柏、金松は鼠子と合して木曾を主とし、木質堅緻且美麗なるを以て、木曾の五木と稱し、樅又天城山御料林の名木なり。又副産物としては椎茸を主とし、盛に清國、香港、アメリカ等に輸出す。

ひのき 漢名 扁柏 俗名 檜

喬大なるは本地方の深山幽谷に生ずるもの多しと雖、木曾山中に産するも

のは、喬大に加ふるに材質堅緻色澤美麗なるを以て、其名聲世に高く、木五木の中に數へらる。陸羽地方には稀なれ共、紀伊土佐には多く産す、然れ共本地方に産するものと比すれば、其材遜色あることを免れず。多く艦材、帆檣、橋梁、家屋の材等に使用して、至狂の憂なく、且總ての工業の材料と成じ、箒片として編て笠とし、織て蓆と成し、皮は屋根を葺くべく、繩として船茹とすべし。内國針葉樹中本材を霸王となす。

ひば 方名 あすひ 又は あすなるあて 漢名 羅漢柏 俗名 樺又明檜

深山に産するもの能く喬木を成す、多くは山腹隱濕の地に繁茂す。然れ共木曾山中最も此の良材を産して、五木の内に數へらる。陸羽地方亦多し、但其地方扁柏甚だ少き故に之をひのきと稱す。船材、橋材、屋柱の土臺或は井幹と成し、久しきに堪ふ。又諸般の器具及板を作り、或は曲輪の材とす。其形用途能く扁柏に似たるを以て、俗にあすなると呼ぶ。

さばら 漢名 花柏 俗名 樺又弱檜

直幹高く聳へ、森然鬱蒼たり、形状甚だ扁柏に類す。深山幽谷陰濕の地に

適し、山頂或は平地に生ずるものは多くは曲れり。木曾山中のもの良材にして、即ち五木のひと稱せらる。膩脂香芬色澤鮮麗直理堅硬宜しきを得て、甚だ工作し易し、潤濕に置て、久しく朽敗せず。燥處にあるも反張開裂の患少し、桶材として最も適す。木曾山中にて角材を作るに大底一丈二尺とし、其餘を桶材とし之を樽木（トケ）と稱す。

かうやまき

漢名 金松 方名 まさたうまき 俗名 椴又楨

大なるもの八九十尺、圍丈餘に及ぶ者多し。表皮杉皮に類し、幹身端直森萃薺若として圓錐形を成す、之を望むに甚だ壯麗なり。材質輕軟能く水濕に堪ふるを以て、船材桶類橋杭其他家屋の造作に用ひて、保存期の永きこと其比を見ざる所なり。性深山幽谷に適し、巖石嶮岨の地と雖能く生殖す。紀伊高野山に尤も多く産す故に名あり、薩摩土佐亦此の産あり。且此の樹庭園に栽培すれば樹形美なるを以て特に歐洲人之を賞玩すと云ふ。

ねずこ

方名 くるび

大樹に至つては深山中にあらざれば見ることに稀なり、大抵は山腹に生茂す、

木曾日光の諸山此良材に富む。木理は連斑を成し、椴目通直にして淡黒色を帯び、雅致あるを以て、建築用に供し、多く天井板又は障子の類となす。特に數寄屋の建築用及器具材として最も美なり。

をのをれ

又みねしぱり

木曾山中にあり、材色淡褐、肌理美密にして、堅硬なること他材の及ぶ所に非ず。椴又櫛等を作る。彼の木曾櫛は之を以て作ると云ふ。

あら、ぎ

漢名 水松 俗名 櫟 方名 いちひ

樹幹直高五六丈森然直立し、大樹は枝條微垂す、寒土暖地を問はず、深山中山腹にありて、原野平地に生せず。飛驒位山に産するもの最も有名にして、古來笏を作るを以てサクノキと名づけ位山の名之より出づ。又楊弓の矢を製し、且魔鬼を却くと稱し、箸として大に珍重す。

つが

椴

深山中に密材を成す、遠江千頭山に多く、木曾天龍沿岸にも亦多し。天龍川上流の森林中にあるものは、縦と共に盛に伐出して筏とし、下して磐田郡

中部富士製紙會社分工場の製紙原料に供す。

以上の外信濃の御岳駒ヶ岳等の高山には高山性植物あり、北海道北部の森林に全じきものを生ず、其主なるものを白檜とす。白檜は高山の中腹以上諸樹の生ぜざる所に能く生育し、能く烈風寒雪に堪ふ。信濃御岳駒ヶ岳其他飛驒木會の高山に多し。

今又木會の五木、一ヶ年伐採額を表示すれば次の如し。

木會木一ヶ年伐採額

材名	材積	材名	材積
ひのき	三五、〇〇〇 <small>尺の圓材一尺の價</small>	かやまき	八〇〇 <small>尺の圓材一尺の價</small>
さはら	二〇、〇〇〇 <small>尺の圓材一尺の價</small>	ねすこ	二〇〇 <small>尺の圓材一尺の價</small>
あすなる	七、〇〇〇 <small>尺の圓材一尺の價</small>		

將來施業案實施の日には、優に現今材積の二倍を得べしと云ふ。今本地方各縣林業の有様を述るに當り、特に其面積の廣大にして、且つ能

中部地方の御料林

く整備せるものを御料林となすを以て、其梗概を述べんに、已に述べたるが如く、本地方の御料林は全國御料林の六割を占め、之を全國第一に位する北海道のそれと相比するも、面積の點に於て敢て譲らず。況んや其他の府縣に比すれば優に之に勝れるを見、特に本邦西部諸縣に此種森林の皆無なるに比して、其差雲泥も管ならず、今其御料林の主なるものを擧ぐれば左の如し。

- 一 富士山御料林 (駿河)
- 一 千頭山御料林 (遠江)
- 一 大代御料地 (遠江)
- 一 三方御料林 (遠江)
- 一 瀬尻御料林 (遠江)
- 一 天城山御料林 (伊豆)

- 一 木會御料林 (信濃) 長野縣
- 一 小坂御料林 (飛驒) 岐阜縣
- 一 七宗山御料林 (美濃)

木會御料林

林名	國名	郡名	村名	字	樹種	林種
寢覺里	信濃	西筑摩	駒ヶ根	木會川沿岸	ひのき まはら あすなる 雑木	混天然林

木曾御料林

鞍馬橋附近	全	全	王瀧村	王瀧川沿岸	さほら松 主木	全
鯉川	全	全	全	全	さほらあすなる松 主木	全
床山	全	全	駒ヶ根村	木曾川沿岸	さほらあすなる松 主木	全
阿寺	全	全	大桑村	阿寺川兩岸	さほらあすなる松 主木	全
王瀧林道附近	全	全	王瀧村		さほらあすなる松 主木	全

六三〇

木曾伐木及送木の模様

木曾御料林は昔より毎二十年に大廟造營の料に供す、故に名つけて御杣山と稱す。今其造材及運搬の梗概を述べんに、其業を取るものを總て職工と稱す。職工に數種あり、木を伐るものを杣と呼び、運搬するものを人夫と云ふ。杣及人夫の指揮者は之れを總頭と云ふ。各、裝衣を以て、嚴格なる階級を別ち、互に相侵さず。總頭以下皆義經袴を穿ち、總頭は別に色を以て別ちたる、宮内省下賜の羽織を着、腰に粧飾せる鉈及敷皮を帶ぶ。伐木期に及べば職工は皆故山を辭し、各、齋口を携へ、槍笠を被ひ、各、部署の山に就きて伐木場の側に起臥して其業に服す。其伐木の手練と、送木の巧妙なるは、見る者をして、實に一驚を喫するものありと云ふ。造材

天城御料林

已に了れば之を一旦山中に假設したる貯木場に集め、山落し小谷狩大川狩等の順序を経て、之を海口に致す、之を送木と云ふ。先づ貯木場の木材は棧手と稱する滑道に沿うて、溪谷に下して、山落を爲し、次に溪谷より大川に出だし小谷狩を爲し、已に大河に出づれば網場に於て筏と成し、人夫は初めて之れに竿して、河口なる白鳥及桑名の貯木場に廻送す、之を大川狩と稱す。網場は美濃可見郡錦津村大字錦織にあり、木曾川兩岸の懸崖絶壁の幽境一變して、山開け河瀬くして、深潭の盡る所半は淺瀬と成り、半は砂磧となる所に設置せられ、集注繋留して、整理する所にして、三百餘年來今日に及ぶ。小谷狩を爲すや、溪流各所に堰を作りて溜水し、上流より遞次其堰を去りて下流に流送す。其堰六十餘ヶ所、其操縦の奇觀にして、順序の整然たるは、市中の職工と日を同じくして語るべきにあらず。而して其木材にク上ク一ク等の文字、若くは+×八等の附號あるは、皆本網場を経て來りたる木曾の木材にして、數字及附號は其産地及年號を意味するなり。(第六十二圖丙丁)

天城御料林

天城山は伊豆半島の中央部に位し、田方加茂兩郡に跨り、

三方御料林

廣袤約二十方里、東萬城岳より西三分一岳を圍繞す。土質概して礫石壤土にして、加ふるに腐殖土を混じ、氣候溫和なるを以て、最も樹木の生育に適す。本森林は徳川時代には其直轄に屬し、江戸城に使用する木炭製造の他は、僅かに雜木を伐採せるのみにして、當時天城の七木制なるものを布き、扁柏杉縦梅松落葉松及び樺の伐木を嚴禁せしかど、其林相粗惡なるを以て、御料林編入以來改良の目的を以て、漸次之を伐採し、更に扁柏杉を植培し、其面積は已に全面積の四分の一に及び、運搬の徑路は僅かに下田港に通するに過ぎざれ共、今や道路開鑿の計畫中なれば、其完備の日は其眞價の十分に發揚せらるゝ遠きにあらざるべし。

三方御料林 遠江引佐濱名兩郡に跨り、地域四千二百九十二町歩に亘り濱名町より約二里、平坦なる第四紀丘陵地にあり。現在の樹種は赤松黒松の兩種にして、單純林なるあり、混生林より成るあり、林齡一般に低くして、高くも七十年を越ゆるものなし。運搬の便は地勢上殆んど他に匹儔すべからざる程の便を保つ。本林は維新前には大部濱松藩の領有に屬し、用材は勿

大代御料林

七宗山御料林

瀨尻御料林

長野縣

論薪材と雖、人民の自由採收を許さざりし所なり。

大代御料林 遠江榛原郡五和村小笠原泉村に跨り、面積一千七百餘町、縦梅其他の針葉樹及潤葉樹を混生す。新殖林としては樟杉檜等あれ共、何れも極めて近來の栽培に係るものにして、未だ伐採の期に至らず。

七宗山御料林 岐阜縣武儀郡にあり、飛驒川に密邇し、廣袤一千五百六十町歩あり。嘗て尾州藩の備林たりし時、留木の制を設けて、製炭用伐採の他は容易に伐採を許さず。概して針葉潤葉の混生林にして、比較的扁柏樺縦金松五葉松赤松等に富み、材質亦可なり、近年頻りに改植を計畫せり。

瀨尻御料林 遠江國磐田郡天龍川の沿岸龍川浦川の兩村に連亘せる斷崖絶壁の所水涯より高く起りて頂點に達し、杉扁柏の美林、森然幾千丈の山容を装ひて際涯なく、頗る壯觀を呈す、然れ共林齡未だ高からず。之より今少く、各縣林業の有様を記して、此の條を了へんとす。

長野縣の森林は温帶南部西區に屬し、十三度の同温線は越前より本縣を横斷すれ共、御岳駒ヶ岳の絶頂は偃松帶即ち寒帶林に屬せり。本縣森林總面積

は岐阜縣に次で、本地方第二等に位すれ共、其主なるものは木曾の御料林にして、本縣全面積の半を占め、國有民有文其約半を占む。樹木の種類は扁柏を主とし、さはらあすなる杉松等之に次ぎ、其年々の産額亦多し。又副産物としては栗實椎茸樹皮等にして、林業教育の機關としては、西筑摩郡福島町に郡立木曾山林學校あり、盛に技術者を養成す。木曾山林は木曾川の溪谷を挟みて、廣袤十八万町に連り、巨楡老松枝を交へて盪々空を磨し、白日猶暗く幽邃森嚴宛として、神仙の境に入るが如し。往昔木曾義仲が軍費の財源を木租とし、豊臣秀吉が此の材を用ひたるも、皆此大森林ありしを以てなり。降て江戸幕府に至り、其建築の用材は其多分を此山に仰ぎしより、濫伐の風行はれたりしが、吉宗將軍之を挽回し、維新後御料林國有林民有林に分ちて、之が保護を加へしより、大に見るべき者あるに至り、吉野森林と共に東西の二大美林と稱せらるゝに至れり。本縣木材の運搬は木曾天龍の兩川に依て、白鳥掛塚の二港に出だす。岐阜縣は長野縣と共に温帶南部の西區に位し、地味最も森林に適し、惠那森林より越中立山に亘る飛驒山脈の森林其東北に連

岐阜縣

山梨縣

り、飛驒高原を包みて、扁柏杉松梅等の密樹茂林あり、木曾惠那四近の如きは特に然りとす。其森林總面積は百万町に餘り、本地方其廣大なると第一にして、就中國有林最も多くして、其の半に當り、御料林民有林は又各其半に當り、石川縣林區に屬す。本縣の造林業は近來舉縣一般の輿論となり、盛に之れが繁殖に努む。本巢郡根尾谷の如きは明治二十四年濃尾震災の時崩壊陥落各地に生し、谷に流出する土砂年を追ふて倍蓰するを以て、頻に模範林の設置あり。山梨縣は温帶南部の西區に屬し、四周山を以て繞らし、森林の多き長野縣に亞ぎ、松杉樅等の森林多く、又西北境の駒ヶ岳富士山等の高山の頂上は寒帶林に入り、白檜蝦夷松等を産す。而して森林の大部は御料林にして、國有民有共に少し。御料林中最も能く人目に觸るゝものは、八ヶ岳の麓白須松林なり、北巨摩郡管原村白須地内にあり、甲府より信濃諏訪に通ずる街道に沿ひ、竹の花馬飼場向林等の數部より成り、兩松原片松原の稱あり。其廣袤殆んど百町歩に達し、全林皆松樹より成り、縣下有數の御料林にして、幾百万の鬱蒼たる松樹は半天に聳へ、白砂地に敷きて、碧綠相映じ、炎暑の

静岡縣

候旅客をして思はず快哉を連呼せしむ。静岡縣は温帯林の南部に位し、地勢南方に展して、北方に高き故、南海暖流の影響を受くること多く、森林の繁茂には恰好の位地を占め、加ふるに駿遠豆の三國に亘りて、有名なる森林各所にあり、松杉檜等の良材を産す。森林總面積は長野縣に亞げども、御料林は國有民有兩林の如く多からず。然れども天龍川沿岸大井川上流千頭山駿河田代の官林は最も有名なるものにして、伊豆天城山の森林亦人口に膾炙する所なり。又天龍川沿岸の杉林は本縣中特筆すべきものにして、林齡未だ高からずと雖、懸崖絶壁を蔽ひ、森林鬱蒼として雜樹を交へず。峡谷の兩岸數里の間、雙眸の内に映じ來るもの皆杉林ならざるなく、特に中流秋葉山以北信三の國境に近かば一見其盛大なるを見るを得べし。他二縣は寧ろ荒涼たるの概あり。林業獎勵の機關としては、富士郡大宮町の郡立富士農林學校及田方郡函南村の郡立田方農林學校等あり。何れも皆其の規模大ならざれ共。其經營の機關たるを失はず。副産物としては伊豆地方に椎茸の産少なからず。輸出品として名あり。愛知縣は温帯林の中部に位す、本地方中最も森林の少き

愛知縣

中部の水産

地方なれ共、三河の鳳來寺山段戸山の森林は豊川矢作川沿岸にありて杉檜等の美林相連る、就中鳳來寺山の杉は本縣第一と稱せらる。尾張の大部は平野遠く亘りて森林亦多からず、然れ共飛驒山脈の連る所及び知多半島には多少の松林あり。副産物としては蕈類にして、椎茸は鳳來寺山を以て著名とす。林業の機關としては、碧海郡安城村に縣立の農林學校あり。林業經營の法を講せり。

三 水産

中部の地海岸線を有するものは愛知静岡の兩縣にとゞまり、岐阜長野山梨三縣は一も海岸線を有せざれば、水産業は一見關東奥羽に比しては、或は劣れるが如き觀なきにしもあらざれども、静岡愛知兩縣下の海岸線は、東は伊豆の東端より、西は渥美半島に至るまで廣濶なる外洋に面せるのみならず、一方には伊勢灣三河灣等の内海を擁し居るを以て、海産物極めて多く、加之岐草其の他二縣に在つても、河川池沼に富み、信濃の諏訪湖、山梨の山中湖、

漁獲物

岐阜の木曾川長良川等淡水魚の産出亦決して乏しからず。これを要するに中部の水産は其の實質に於ては關東奥羽に比してさまで劣らざるものあるを見ん。今漁獲物、水産製造物、遠洋漁業、鹽業等の數項に分ち、仔細にこれが實況に就きて述べん。

漁獲物 凡そ水産業の發達如何を知らんと欲せば、先づ其のこれに従事せる漁夫漁船の數を見るに若かず。

地方	戸數	男	女	計
靜岡	三〇一四	三六、四三三	三三、八五九	六、一〇一
愛知	一五、六三八	三三、一三三	二八、二〇九	六、三三二
岐阜	七、三三八	一七、八九九	一五、三三六	三、三三五
長野	二、四九九	五、一三三	四、三三七	九、四九
山梨	一、〇五八	一、三〇六	六〇三	一、九一

斯くの如く中部地方に在つては、其業の最も盛なる沿海二縣に於て、漁業

漁船地方別

地方	濱	浦	湖	川	五間以上	五間未満	三間未満	年未現在數
靜岡	東浦○四浦○狩野川○荒濱○内浦○田子海○岳浦○沼川○須津沼○巴川○有渡濱○釘ヶ浦○袖ヶ浦○防備川○濱名浦○曳島浦○天龍川○濱名湖等				四三	九、〇五九	三、九六〇	一三、四七〇
愛知	尾張灣○三河灣○滙美外濱○木曾川○荒川○矢作川○豊川				一四	九、一〇	七、九六六	八、八九〇
岐阜	長良川○木曾川○飛騨川○津保川○武儀川○廣江川○板取川○大井川○伊自良川○板谷川○杭瀬川○境川○牧田川○鳥羽川○荒田川○津屋川○金草川○上の保川				一	四、六四	三、六九	七、四
長野	諏訪湖○青木湖○中綱湖○千曲川○天龍川○芙蓉湖○犀川					五	九、六六	九、七一
山梨	笛吹川○富士川○河口湖○桂川				一〇		三	三

に従事するもの既に十二萬三千四百餘人に達す。之を彼の水産業最も繁盛なる千葉縣に比するに四萬四千人以上の數を超過せり。又其の有する漁船にあつては、

即ち靜岡縣が有する漁船中、其の五間以上のもの四百三十一に對し千葉茨城二縣を合するも猶ほその間五十四隻の大差あるを見る。山梨岐阜長野の三縣は、淡水漁業の比較的盛なるが爲め、三間未満の漁船を比較的多く有す。

要するに静岡縣は中部最大の漁業區域にして、東浦西浦田子ノ浦釘の浦浦ヶ浦曳馬浦濱名浦其の他の漁業場常に水産輻輳し來り、漁獲物の重なるものは、年々鯉の七十五萬圓内外、鯉の三十四萬圓内外其の首位を占め、鯖の三十五萬圓、鮪の十七萬圓、鯛の十二萬圓之れに次ぎ、五萬圓以上の産額ある水産には、烏賊・鮭・鰻・鱈・石花菜・鰻等にして、産額の大なるまた實に驚くべきものあり。愛知縣に至れば斯業の進歩尙ほ静岡縣に伯仲し、海に在つては伊勢海三河灣三河外海あり、河川には木曾川・矢矧川・豊川・日光川を重なる漁業區域とし、これより得る所の漁獲物の主なるものは鯉・柔魚・鱈・鯛・鮪・鰻・鯉・鰻等に於て、就中鯉は本縣第一の産出額を有し、縣當局者は一に漁獲養殖製造等の漁業獎勵に對する施設を怠らず。毎年新漁船を造りて當業者に貸付け、漁業の發達に資し、漁具は巾着網・曳網・打瀬網等を主とし、鮪流網・ハエ繩等亦盛に使用せらる。就中打瀬網は近來最も發達し、長さ十五間、幅一丈五尺の漁船を作りて遠洋漁業を行ふに至り、漁業上の面目爲めに一變するの傾あり。又從來使用せしアグリ網は、大抵之れを巾着網に改め、明治二十九年鯉巾着網

を使用し初めしより、漁網の收入頗る増加し、各漁業者競争の結果、益漁場の不足を告げ、遠く朝鮮近海に出漁するものあり、或ひは三重縣の漁業者と漁權に就きて紛擾を醸すこと尠からざるが如き、偏へに本縣斯業の發達著しきを見るに足る。

静岡愛知兩縣の漁況は以上述ぶるもの、如し、海岸線を有せざる岐阜長野山梨の三縣中長野縣は最も淡水魚に富み、其の漁業法も亦能く發達し居れり、殊に寒天製造は本邦の主業地たる近畿地方に對し、優に一頭角を現し、海外に輸出するもの極めて多しと云ふ。

今漁獲物地方別を左に掲ぐ (明治三十五年)。

漁獲物	地					
	静岡	愛知	岐阜	阜長	野山	山梨
鯉	三五,四九〇	四四,四六〇				
鯉	一〇〇,〇八三	一一,三五〇				
鯖	一三六,九四〇	二,四八三				

鮪	1,376,910	1,336,000						
鯉	1,350,000	1,010,000						
鯉	42,000							
鯛	3,450,000	6,870,000						
鯛	96,188	1,080,000						
鯛	1,640,000	86,700						
鯛	2,335,000	7,700,000						
鯛	4,212,850	3,800,000						
鯛	891,166	2,912,000						
鯛	852,000	1,887,000						
鯛	3,028,000	3,687,000						
鯛	267,000	55,000						
鯛	1,412,000	5,080,000	65,000					
鯛	131,000	2,268,000						
鼠								
賊								
海								
蝦								
鰻								
鳥								
鯛								
鯛								
鯛								
鯛								

遠洋漁業

鮪	6,250,000	2,600,000					
牡	710,000	3,070,000					
蛤	3,185,000	5,012,000					
鮭	96,188	1,080,000					
鱈		5,222,000	2,886,000				
鮎	3,700,000	1,655,000	3,357,000				
鯉	7,000	3,350,000	1,264,000				
鮒	6,661,000	7,778,000	1,297,000				
其	2,600,000	3,600,000	2,600,000				
他							

遠洋漁業 遠洋漁業著しく發達し來れば、近海に於ける漁區に比して奇利を博するに都合好きより、比較的堅固なる船舶を造り、遠き海上に出づるもの、沿岸各地を通じて近年著しく増加したるが、中部地方に於ける静岡、愛知兩縣の如き、近海の漁撈盛なるに連れて企業心大に勃興し、斯業の發達も亦近來注目すべきものあり。其の漁業區域は重に朝鮮近海及び上總國小濱

沖とし、また其の重なる漁獲物は鱒鮑鯨にして、鱒は朝鮮近海に極めて多く、漁業期間は毎年二月より五月に至り、鮑は又毎年四月より十月に至る期間を以て漁期となせり。而して此の鮑最漁業區は上總國小濱沖とし、鯨は期間漁區共に不定なるも、朝鮮沿海金華山沖に於て捕獲することありと云へり、要するに中部地方に於ける遠洋漁業は關東奥羽其の他の地方に比して未だ遠く及ばざるものありと雖も、斯業の進歩に伴ふて、將來遠洋漁業の長足なる發展を見るや必せり。

今遠洋漁業地方別を左に載す

地方	場所	季節	日本形船		西洋形船		漁獲種類	獲物
			船數	乘組員	船數	乘組員		
靜岡	上總國小濱沖	自四月至十月 年中	三	四五	二	五	鮑	三〇〇〇
愛知	計		三	四五	二	五	鮑	三〇〇〇
朝鮮	海	自二月至五月	三	一五	一	一	鱒	七〇〇
計			三	一五	一	一	鱒	七〇〇

製造物

如何に水産物に富む地方なりと雖も、漁業の方法進歩せず、水産製造品に乏しければ、未だ完全に發達せる水産地と稱するを得ず、中部地方の水産は其漁獲物に於て、産額未だ他を凌駕するに至らざるも、其の製造品にあつては、割合に豊富にして。又其の製造方法に堪能なれば、沿海二縣の如き、三重縣高知縣と相俟つて、現に本邦水産發達の上に有望の地方として目され居れり。こは畢竟地方廳の誘導宜しきを得、學校を興し、技師を聘し、偏に水産製造の事に當らしむるに由れるものにして、即ち靜岡縣に於ける鱈節製造の如きは、先年高知縣より技師を聘し、今は却つて出藍の譽を博するに至り、高知縣の數量二十一万七千二百七十一、價格六十万三千二百八十九圓、鹿兒島の數量十九万零三十三、價格三十五万四千二百四十圓に對し、靜岡縣は優に數量二十五万零九百七十八、價格五十二万六千六百五十七圓を有せり。又愛知縣に於ける煮乾鰯の如き、其品質の良好なるは既に世に知られ、産額も亦従つて多し。(表參照)

此處に特筆すべきは長野縣の寒天製造にして、其の數量に於ては兵庫に次

ぎ、其の價格に於ては優に兵庫を凌ぐの盛況を見、海外に輸出するもの極めて多しと云ふ。今其の起源沿革を訊ぬるに、縣下寒天の製造は天保年代に起り、嘉永年間に至り、實驗の功を積み、改良の方法を按じ、着々其の歩を進めしが、製造未だ幼稚の域を脱せざりしかば、好結果を得るに由なかりしが、明治年間に至り、外國貿易の行はるゝに及び、斯業の發達を計り、輸出の端緒を開かんと欲し、拮据經營更らに器具を増加し、事業を擴張せしも、同業者間競争の弊熾にして、俄かに粗製濫造に流れ、遂に年來の弊害を矯正するに至れり。明治二十六年同業者熟議の上組合を組織し、續年の弊害を矯正し、漸く盛なるに至りしが、三十三年更に信濃寒天諏訪同業組合を設立し、大に昔日の面目を一新し、爾來益、斯業の隆盛を致せるものにして、原料産地は主に伊豆相模安房陸奥佐渡能登北海道にして其産する上晒の石花菜を使用すと云ふ、明治卅三年に於ける寒天産額は實に三萬九千卅九斤に達したり。販路は其七分を支那香港印度シンガポールに輸出し、他は内地需用者に供給しつゝあるものにして、其主産地は諏訪湖の南方にある諸村にして、四賀村、永明

村米澤村富士見村宮川村中洲村豊田村等あり。これを本邦主産地たる近畿地方に比較する時は、大阪の數量十二万一千零六十二貫、價格四十三万一千七百一十一圓、兵庫の數量六万零百八十五貫、價格十六萬六千二百零五圓、京都の四万一千三百八十貫、價格二十二万五千一百七十九圓に對して、長野縣は數量四万七千三百四十二貫、價格二十二万五千一百七十九圓に達し居れり。以て其の如何に有望なるかを知るべし、山梨岐阜二縣の如きは、水産物製造品としては未だ見るべきものなく、僅かに岐阜の乾鰯が縣下水産製造品を代表するに過ぎず。

次に製造物重要品の地方別を載す

製造品目	地方				
	靜岡	知岐	長野	野山	梨
鰻	六五八三	二〇三三			
海參		二〇三三			
乾鮑	六八二〇				
鱈	一七六六	二二六六			

推	鹽	鹽	鹽(乾)	鹽	鹽	乾	田	煮	乾	鮪	鯉	乾	淡
柏	獅	鮪	鮪	鯉	鯉	鯉	作	鯉	鯉	節	節	鯉	菜
鯉			鹽乾		鹽乾								
三三〇	二九〇	三三〇	一四九三	三七八	一一四七	二〇二〇	三三三三	三三六三	八二二二	三二二〇	二二九〇	五三六六七	一五二六
鯉			鹽乾										
三五、六七			四六一		一〇、六〇〇	四二	二八〇三	一六三三	一六三三	二七三七			五、〇〇

水産養殖

干	魚	晒	漉	漉	寒	其
鯉	油	石花菜	海苔	海苔	天羅	他
五、五八四	二、二四九	八、八六六	三九、八〇四	一一〇		三、四九七
二、七七三	三、七四六	一、八五三	二四、〇八九	三、八〇一		一〇、九二三
						四、八五〇
					三、五、一七九	五、四八五

●●●●● 水産養殖 ●●●●●

土潮流水質の如何による事なれば、天然と人工との法を問はず、先づ其の地方の状況を詳かにせざるべからず。假令地方の状況を詳らかにするも、其の人工養殖法を行ふに至つては、魚の種類によりても亦た其の増殖に難易ありと知るべし。中部地方に於ける養殖事業は、奥羽地方と同じく未だ甚だ振はざるもの、如く、海産物にありては静岡縣に於ける牡蠣の養殖が稍、見るべきものにして、淡水魚養殖としては長野縣之が冠たり、殊に佐久郡を以て其の

主産地となす、數量多からざるも鮎、鯉、鰻、鮒等を産出するは岐阜縣にして、殊に長良川に産する鮎の如きは有名なるものなり、其の流域の一部は御料地に編入せられ、陛下供御の膳に上るの光榮を擔ひ居れり。
今左に養殖地方別を掲げ其の生産數量を示すべし

地方	鮎		鯉		鰻		鮒		海苔		其他	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
靜岡	一五	八	八	八	六	一〇	二四	八五	一八	一〇	一〇	二〇
愛知	一	八	二五	二〇	二六	一五	八六	〇〇	二二	八	一〇	二〇
岐阜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長野	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山梨	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地方	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
靜岡	一〇〇	一〇三	三〇	八	一三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
愛知	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

地方	鮎		鯉		鰻		鮒		海苔		其他	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
岐阜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長野	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山梨	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地方	數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> </td></td></td></td></td>	價格	數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> </td></td></td></td>	價格	數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> </td></td></td>	價格	數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> </td></td>	價格	數量 <td>價格</td> <td>數量 <td>價格</td> </td>	價格	數量 <td>價格</td>	價格
靜岡	一〇〇	一〇三	三〇	八	一三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
愛知	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

製鹽 由來本邦に使用する食鹽は主としてこれを海水に仰ぎ、沿海の各地方概ね多少の鹽田を有するも、其の産額は重に降雨の多少と、海水の含鹽量に關すること深きを以て、氣候溫暖雨量稀少なる瀬戸内海は本邦第一の製鹽地をなし、中部地方の如きはこれに比すれば其の産額遙かに劣り、沿海二縣の産額を合するも、猶ほ香川一縣に比して六分の一に及ばず、而して二縣中愛知縣は靜岡に比し稍大なるが如し、即ち鹽田段別は愛知の二百七十九町六段に對し、靜岡は僅かに五十三町三段に過ぎず、産額亦これに準じ六分の一に止まれり。而かも其の二縣に産する鹽質は中等にして、神奈川及び茨城の産に及ばずと云ふ。此等海水より得る食鹽の外に、信濃下伊那郡大鹿村鹿鹽の山間に出づる鹽泉より、食鹽を造るものあれど、其量多からず。
今左に鹽田及び鹽産額比較を載す

地方	鹽田段別			鹽田及び鹽濱其鹽産額		
	三十五年	三十四年	三十三年	三十五年	三十四年	三十三年
愛知	五三三	六六六	六四八	三〇三三七	五三四三三	一六三〇七
静岡	二九六	三〇三三	二五八五	一五〇〇三	一六八三七	二七九四

●参考 香川縣鹽田段別は三十五年調査に於て九百四十一町八段を有し鹽産額百五萬二千八百五十一石を産せり

地方

製鹽

濱浦

鹽田段別

價格

平均一石價格

愛知

伊勢海○三河灣

二九六

三八〇〇

一五三

静岡

駿河灣○有度流○那閉浦○種子浦○釘ヶ浦○遠江灘○濱名湖

五三三

五七二

二九〇

以て中部地方製鹽事業の關西地方に比して、未だ甚だ振はざるを知るべきなり。

四 工業

本地方は我が邦工業上特に注意すべき地方にして、工業の種類も亦甚だ多

様に亘る。即ち長野山梨二縣の製絲工業の如き、又美濃尾張の窯業の如き、或は岐阜静岡の製紙、愛知静岡の紡績事業の如き、將た近年勃興せる静岡の漆器の如き、孰れも内地の需用に應じ、海外貿易に對し、本地方に於ける極めて重要な工業たらざるはなし。殊に窯業に於ては本邦第一の生産地をなし高尙優美なる名古屋の七寶燒の如きあり。實用的なる常滑燒の如きもあり。實用的にして且つ美術的の意匠を加味する瀬戸多治見の陶磁器の如きあり。而して又蠶絲業を顧れば本地方は其の土性桑樹の培養に適せるを以て、關東奥羽地方と共に本邦に於ける最も重要な養蠶地を爲し就中長野縣は、關東の群馬縣と共に全國養蠶地の巨擘にして、養蠶製絲の盛なるは此の兩縣互角の勢を示し其品質の精良なる、ロンドン・リヨンの機業者間に噴々として喧傳せらるゝに至れり。此の如く一方に於ては着々實地の事業の改良進歩を計ると共に一方に於ては大に實業教育の發達を企圖し、諸種の實業學校は頻りに諸地方に建設せられ、學理の應用を經とし、實地の熟練を緯とし、兩々相待ち猶銳意斯業の進歩發達をはかりつゝあり。

製絲紡績 生絲は我が邦の輸出品中最も重要なる者にして、我が貿易の均勢を保つは、職として此の生絲産出の多額なるに由れり。本地方製絲業の最も盛なるは長野縣にして、同縣の製絲業は單に本邦全國に冠たるのみならず、其の名聲又夙に宇内に赫々たるものあり。而して其の原料は單に之れを縣下の産に仰ぐのみならず、更に之れを埼玉群馬千葉の諸縣より輸入し、盛に之れを精製して、遠く海外の需用に應じ、外國機業者間に意外の歎賞を受け、今日に至る迄未だ曾て其の聲價を失墜せず。維新後本邦生絲の陸續海外に輸出せらるゝに至るや、幾何ならずして多くの製絲業者は粗製濫造に陥り、單に目前の利益にのみ汲々たりしかば、海外に於ける本邦生絲の従來の信用は全く地に落ち、遂に明治十八年蠶絲業取締規則の發布を見るに至りしも、獨り本縣の製絲業者は、滔々たる此の渦中に投ぜられず、能く其の體面を保ちしのみならず、明治十一年頃よりは同業者漸次増加し、新機械を利用して愈多額の産出を見るに至れり。本縣生糸の特色とする所は、絲質光澤を存し、類節強力伸度繰返し等に能く注意せるにあり。而して其の産額も亦明治三十

七年度の統計に依れば、殆んど四十万貫に垂んとし、全國總産額の約四分の一に達し、全國の第二等に位する群馬縣に比するも猶約十万貫を超過せり。今本縣中其の最も盛なる地方を擧ぐれば、即ち諏訪郡にして、諏訪湖北岸の地は殊に其の事業の中心をなし、(第六十一圖)同地の産額は十三万餘貫を數へ、本邦第一の製絲工業地として、其の名特に著はる。其他本縣中到處製絲業の行はれざる所なし、蠶絲以外の製織業に至りては殆んど見るに足るべきものなく綿布の産ありと雖多くは皆各個の間業に過ぎず。唯麻は北安曇郡大町附近及び大町長野間の山間に培養し之れを紡績して多く名古屋に輸出す。其の産額一ヶ年約四万貫にして、本縣生絲産額に比すれば甚だ僅少なり。麻布亦主に大町附近に於て製織し名古屋に輸出すと雖、亦農業の副業たるに過ぎざれば、未だ以て本縣主要物産と稱するを得ず。

長野縣に次て生絲業の盛なるを山梨縣とす。本縣は氣候の斯業に適せるより、生絲業は最も古くより發達し來りしが、近年同縣日川村の八田達也なるものあり、斯業の啓發に熱中し銳意其の改良を企圖し、或は群馬福島長野等

の蠶業地を涉獵し、其の實際を視察し、或は地方の製絲家を遊説し共同掲枰場を設立し、以て本縣に於ける生絲の産額は中部地方に於ては獨り長野を除きては其他に冠たるに至れり。本縣綿絲紡績は甲府紡績株式會社渡邊紡績所ありと雖、何れも資本金及錘數産出高に於て尙未だ謂ふに足るものなし。(第六十一圖甲)

山梨縣に次て生糸の産額の多きは岐阜縣也。本縣の蠶絲業は夙に開け、殊に維新後外國に向て生絲の販路を求むるに至りしより、斯業の利潤は遙に普通の農耕業の及ばざる者あるを知り、漸次在來の不毛地を開墾して桑園に充つるに至りしも未だ靜岡縣の如く急進的の現像を呈せざるものあり。然れども恵那郡には蠶絲實業學校の設置あり、美濃の下恵那武儀加茂羽島郡上の五郡は製絲に就事するもの多く業未だ全く望みなきものとは謂ふべからず。飛驒の如き主として林業を以て生業とすれども、製絲の業亦よく行はれ、國中にて最も盛なるは大野郡にして、本郡は製絲業の隆盛飛驒第一と稱せられ、郡内の産額年々六千貫を下らず。工場の大なるもの六工館墨洩社等あり。吉

城郡亦製絲を以て名あり。本縣綿絲紡績に付ては別に記する程のことなし。岐阜縣に次ぎ製絲業の發達せるを愛知縣となす。其産額は本地方に於て中等に位す。本縣は岐阜縣に比しては、其の創始の日尙淺しと雖、其の進歩は頗る速かにして、明治三十一年の産額、四万五千貫より、全三十五年には一躍して七万貫以上に及び、十年前の二倍に達し、殆んど岐阜縣と相比せん有様なり。本縣工業としては機械業第一に推さざるべからず。従つて綿絲の紡績は年々發達を加へ、紡績綿絲の産出額は三百三十五貫、價格殆んど七百兩圓に及び、本縣機業原料に供する外に、清韓兩國にも輸出するに至れり。されば紡績會社の數も多數に達し、主なるは、名古屋市の名古屋紡績會社熱田町の尾張紡績會社海東郡草場村の津島紡績會社一ノ宮町一の宮紡績會社半田町の知多紡績會社三重紡績株式會社愛知工場等とす。而して其の創立の最も古きものは明治十九年にして、新じきものは二十九年なり。其の錘數は總計十二万六百に上り、本邦中斯業の最も盛なる大阪府と比ぶれば、約三割に當ると雖、兵庫と比するに殆んど伯仲の間に位し本邦紡績の主要なる位地を占

む。以て如何に綿絲製造の盛なるを知るに足るべし。
 本縣には以上洋式紡績綿絲の外に、和紡績綿絲を製す、俗に之れをがらがら紡績と稱す。明治十七年額田郡常磐村に額田紡績組合を設置せし以來、漸次擴張して碧海郡幡豆郡及び東加茂郡の四郡に亘り、各盛に之れを製出せり。蓋し其の用途は主として三河木綿の他、段通紋巴綿毛布等の製作原料に供するにあり。

静岡縣は林産を以て主とし、製紙製茶之に次て盛にして、養蠶製絲の業は他の諸縣に比して寧ろ遜色あり。従つて製絲の産額も亦約長野の四十万貫岐阜山梨の七万貫乃至九万貫に對して僅かに四万五千貫を數ふに過ぎず。然れども翻つて累年産額表に注目すれば明治三十一年より全三十五年に至る僅々五ヶ年後の産額は實に其の倍額以上の増加を見る。此の如く長足の進歩を爲せし原因は一方に於ては縣費より年々多額の補助支出すると同時に一方に於ては又堪能なる技師を管内各地に派出して之れを誘掖せしに依ると雖、又彼の報徳社たるもの大に與りて力ありと云ふべし。本縣製絲の業前途又多望な

りと謂ふべし。綿絲紡績業も亦盛なること愛知に次ぎ、中部地方中第三等に位して岐阜の上にある。島田町の南方にある島田紡績會社富士の東麓にある富士紡績會社は、共に水力を利用して盛に其の機械を運轉し、産額合計三十七万四千餘貫に達す。今、左に中部地方一體の製絲戸數及生絲地方別累年比較を示さん。

地方	製絲戸數					生絲				
	三十五年	三十四年	三十三年	三十二年	三十一年	三十五年	三十四年	三十三年	三十二年	三十一年
愛知	二,五七三	一,九六六	一,九六六	二,五六八	三,一五五	七三,三〇〇	六八,四四六	五四,七四〇	四四,一八〇	四五,〇五五
静岡	二,四〇〇	一,四八二	一,四八二	一,二七六	四,六五四	四九,七九〇	三九,七二二	三七,六六一	三七,〇一八	二〇,二〇〇
山梨	九,八六九	一,三〇五	三,二六六	一,四三三	一,三三三	九四,三〇五	七六,六四三	八,七八三	一一,四八三	一一,三三二
岐阜	六,四九〇	六,〇一〇	五,七五一	五,五四四	六,〇七五	七五,二二九	七四,九七三	七,七〇二	八〇,九二四	六三,二八九
長野	二,〇三三	二〇,八五五	二四,八八八	二六,三三三	三三,〇九七	三六,三〇九	三九,二一〇	三五,六二二	三三,四四五	二八,四九五

更に製絲戸數を地方に依り類別すれば左の如し。

地方	製造所			地方	製造所		
	自	宅	合計		自	宅	合計
愛知	一六二	二四二	二五三	岐	五九三	五八九	六四九〇
静岡	八九	三三二	三四〇	長野	七四三	二〇二八	二〇三二
山梨	一〇五	九七四	九八九				

地方	工場名	放下資本	一日平均使用馬力	一日平均運動鐘數	職工一日平均	産額高	番首要なる手

次に中部に於ける綿絲紡績地方別を示せば左の如し。

織物
羽二重

静岡	岡	山	梨
富士紡績株式会社 島田紡績所	富士紡績株式会社 島田紡績所	甲府紡績株式会社 渡邊紡績所	甲府紡績株式会社 渡邊紡績所
二,〇〇〇,〇〇〇 七,七五〇	二,〇〇〇,〇〇〇 七,七五〇	六三,五〇〇 三〇,〇〇〇	六三,五〇〇 三〇,〇〇〇
水力 水力	水力 水力	水力 水力	水力 水力
七五 四〇	七五 四〇	三五 三〇	三五 三〇
二八,三五六 一,四一〇	二八,三五六 一,四一〇	二,三九三 二,六六三	二,三九三 二,六六三
一,三五八 四〇	一,三五八 四〇	六 一三	六 一三
三六,二九〇 二,九三〇	三六,二九〇 二,九三〇	二九,一四八 五,五五五	二九,一四八 五,五五五
八〇 二四	八〇 二四	一五 一四	一五 一四

(富士紡績株式会社の本店は東京にあり又其資本高及び馬力は細絲紡績業と共用せり)

織物 羽二重 羽二重は其の組織單純なるものなりと雖、而も尙特殊の性を有すると價格の廉なるにより、用途の範圍益、廣きを加へ、需用區域は愈、擴張せられ、我が邦海外輸出品中重要の地位を占む。其の輸出額は明治三十五年に於ては、二千四百萬圓の巨額に達せり。之れを明治三十年の八百九十萬餘圓に比すれば二七倍強、全二十七年に比すれば三四倍の増加を示せり。されば本工業の一盛一衰は延て國家經濟の消長に關するに至れり。此くの如く國內に於ては斯業の保護獎勵に勉め、該品聲價の發展を計ると同時に海外に於ける嗜好の變遷は多様に涉り、或は綾に、或は平に、各其の需用を異にするを以て、各生業者は各其の技術を競争して、其の要求に應じ、

當局者亦其の保護獎勵に勉め以て今日あるを致せり。然りと雖該工業は未だ舊套を脱せずして、意匠の陳腐組織の佳良ならざる點等將來猶改善する所少しとせず。宜しく社會の變遷に鑛み、適當の意匠を考案して、技術の改良を圖り、其の販路の擴張に勉めば、邦家の裨益蓋し少なからざるべし。而して本地方中其の産額の多きは岐阜愛知にして、長野之れに次ぐ。然れども、岐阜縣は之れを本邦第一の羽二重産地福井縣に比するに、其の産額價格に於て其の約二十四分の一半に過ぎず。主なる産地は羽島稻葉の二郡にして、重要な會社は加納村の岐阜絹織物株式會社笠松村の濃尾織物株式會社にして、共に岐阜市を距る遠からざる所にあり。

紋羽二重 現今各地より産すれども、其の産額未だ愛知縣の多額なるに比すべからず。即ち愛知は紋羽二重の特産地として有名なり。岐阜縣は其の創織愛知縣より古しと雖、其の進歩は却て愛知縣に一步を譲り、品質も亦愛知のそれに比するに遜色あるを免れず。愛知縣は近來の創業に係ると雖、今や非常の發達を成し、能く品質の統一を圖り、原絲を撰擇し、色澤亦佳良にし

紋羽二重

て優に本縣の物産たるを標榜して餘あり。主産地は丹羽葉栗の南部とす。元來同地方は水田に乏しく、桑畑に富むが故に、織物業の發達するは自然の勢にして、從來より盛なりし機業は六七年前より俄然其の隆盛を加へ、同業者は益、其の數を増加し、幾多の組合はこゝに設立せり。加之縣廳は縣費を投して之れが保護獎勵に務めしかば、其の産額今や百萬圓以上に達し、此の製品は未だ天下逸品と稱する能はずと雖も、原絲の撰擇其の宜しきを得、製織の注意周到なるとは已に述べたるが如し。同業者今一層奮發興起せば優に本縣の特産物たるを失はざるべし。

紋縮緬 岐阜の特産物にして其の組織精巧、他縣の能く及ぶ所にあらざれども、從來其の需用甚だ多かりしが爲、一時大に粗製に流れ、濫造の弊甚だしかりしを以て、頓に需要を失ふの有様となりしも、近來大に改善を計り、挽回の策を盡し之れを海外に輸出せんと企てつゝあるも、紋様の意匠織法生絲の撰擇等は猶ほ未だ十分なりと云ふを得ず、此等改善の曉には蓋し大に海外の好評を得て國家經濟上利する所大なるべし。主なる製造所は稻葉郡加納

紋縮緬

村岐阜絹織物株式會社なり。該社は數百臺の機械と二百餘名の職工を使用し、器械力を以て紋様を顯はし、蒸汽力を以て糸線をなす等、其の經營一見人目を醒覺せしむるに足れり。該社は又紋羽二重を製すれども、紋縮緬に比すれば其の産額甚だ少し。烏帽子縮緬は山繭縮緬と共に、岐阜縮緬の稱あり、共に同會社にて製すれ共、岐阜市及び其の附近の村落にて又盛に製出す。此等本縣の織物は、享保年間岐阜附近の村落にて、江州の織工一種の紋ある縮緬を製し、之を美濃の名産として輸出したりしに創まれりと云ふ。本縣には此外に美濃縮緬と稱する者あり、本名を美濃縮緬と云ふ、羽二重の一種にして會て縣下武儀郡會代地方の生糸を原料とせしを以て、又會代絹と稱せり。主産地は羽島郡笠松附近及竹ヶ鼻村附近にして、亦縣下の重要物産となれり。

甲斐絹 海氣又は改機と稱す。山梨縣の特産にして、南北都留郡を其の主産地となす。維新前諸侯の羽織裏及袴裏等に用ひたりしは、多くは玉虫海氣と稱して、經緯互に其の色を異にし、製織後の色澤恰も玉虫の羽色の如くにして、一種の趣味を有すると價格の低廉なるを以て、一時輸出品中有望の

甲斐絹

品種に數へられたりしも、漸く他の絹織物の業發達するに至り、其の産額大に減少するに至れり。爾來非難聲裡に改善の實を擧げ、或は其製織業の中心たる都留郡谷村町に染織學校を興し、斬新の學理を應用して斯業の進歩を圖かり、或は織り方も舊法を墨守せずして、織前に模様を摺込みたる繪海氣を案出するが如き新機軸を出し、現今は多少内外人の嗜好に適すに至り、稍挽回の色を呈せしも、要するに小機業若くば農家の副業として營むに過ぎずして、未だ大工場の如きものなく、従て其品質に整一を缺き、染色亦堅牢ならざるものあり。甲斐絹に就て猶一言の望むべきあり。甲斐絹はもと、深山幽谷の間に介在せる別天地郡内地方に於て小規模に起りたる機業たるに過ぎずと雖も其織地の性質はよく外人の嗜好に投ずべきものあるを以て其改善の方法宜しきを得て大機業となり彼の羽二重の如く海外の聲價を得んこと希望に堪へざるなり。甲斐絹の代用品として盛に内外に賞讃せらるるものは、長野縣の絹裏地なり。濃花色紅絹等にして、原料は下級の産繭を用ひ、特に座繰絲を撰みて精巧の絹地となせるは、機業の技術に於て頗る多しとする所なり。

郡内織

郡内織 唐絲織とも云ふ。山梨縣下郡内に産するを以て、之れを郡内織と稱す。甲斐絹に比し、其質稍粗らく多くは縦横縞にして、夜具地座蒲團に用ふ。ヨーロッパアメリカの諸國に輸出すれども、其の額未だ多からず。

紹

紹 近時紹の應用漸く廣く、羽織着物は勿論或は襟地紹一樂紋紹紹風通等の諸種の意匠を加へたるもの多く、随つて其の需用亦益多きの傾向あり。而して平紹は其の工程比較的困難ならざるを以て、絹機織の盛なる地は何れも多少の紹織を産出せざるはなき状況なり。元來紹は群馬縣の特産にして、其の産額従つて多く、十万五千反、六十万圓の巨額に達す。本地方中尤も多く産するは岐阜縣にして、他は殆んど云ふに足るものなく、而して全縣の産額は三万五千圓を算し、品質亦群馬縣のものに一步を譲らざるを得ず。

斜子

斜子 斜子は元來武州斜子と稱せられ、東京埼玉を主要なる産地とし、從來上流社會の着料として必需品たりしが、近時其社會に於ける嗜好の變遷と共に羽二重鹽瀬の流行するや、直ちに其地位を奪はれ今や復た昔日の觀を呈せず。本地方中此の機業の盛に且つ産額の多きを以て鳴るものは岐阜縣にし

リボン

て、之れに次ぐものは長野縣なり。然れども何れも其の品質は未だ武州斜子に及ばずと雖も、長野縣の製品は其の原料工作共に岐阜縣のものと較ぶれば優る所あり、而して其の主産地は更科埴科の二郡と成す。

リボン 昔ては之れを外國品に仰ぎしを以て、其の輸入漸く増加したりしも、近來本邦の製造其の技大に熟し、今や其の輸入を防遏せしのみならず、又之れを清國其他に輸出するもの少なからざるに至れり。本地方中静岡縣濱松の製帽會社は、其の製帽に使用する目的を以て本品を製造せしに、未だ東京京都のそれに及ばざれども、創業の新しきに比すれば、其の進歩著しくして前途頗る有望なり。

帶地

帶地 本地方各地に産すれども主なる産地を愛知岐阜の兩縣となす。而して兩縣各其の特色あり。蓋し愛知縣産は概して男物にして、岐阜縣産は概して女物なり。現今産額金高の點に於ては、愛知は岐阜に及ばざること遠しと雖、將來有望なるは愛知なりとす。之れ愛知産は多く筑前を模して未だ及ばずと雖、品質牢實にして且つ近年大に進歩の状態にあれば、數年の後には遂

上田綿

に本場の壘を摩するに至るべし。著名なる製造場には名古屋絹織物合資会社あり。女帯地は元來は京都市の特産物とも稱すべき程のものにして、同地の産は美を凝らし術を練り、意匠の範を往古に取り、典雅にして艶麗、美術工藝の粹と稱すべきも、岐阜産は然らず、其の主とする所は實用的にあるを以て、價格低廉にして顧客多し。

上田綿 長野縣上田町及其の近傍諸村の特産にして、原料は縣下の蠶絲を使用し。染料はアリザリンを用ふ。織地双撚にして堅牢、色澤亦宜しくして褪色の憂ひなし。今左に各種絹織物地方別産額の模様を一表として掲ぐ。

地 方 種 類	羽二重類	斜 子	絲織類	袖大織類	絹 類	平絹類	透綾類
愛 知	三三、四〇〇	三、二七〇	一四、二〇〇	一、一八〇	三六、一五〇	一、一八〇	〇
靜 岡	九、一五五	三、三	三、七六七	一、一八〇	八〇〇	一、一八〇	〇
山 梨		六、〇〇〇	四、五〇〇	一、三、三〇〇	八、三	七、四〇〇	〇
岐 阜	四、八三三	一〇、〇七五	七、五〇八	五、六三三	三、三二六	一、三、一〇〇	〇
長 野	一、九〇〇	五、三九七	一、〇六九	一、〇一八	一、九〇九	二、七五九	五〇〇

木綿交織物

地 方 種 類	海 氣 類	袴 地 類	男 帶 地	女 帶 地	其 他 絹 織
愛 知	一〇〇	一、四	三九、三九七	四、一九三	一〇、二七
靜 岡	九七、二六		一、五〇五	五、九	二、〇〇〇
山 梨			三、八七	八、〇〇	一、二二五
岐 阜		一〇〇		一、四三六	一、六、九五
長 野	二五	三、四二五	三、二二五	四、〇〇〇	三、四二五

木綿交織物 近來各地に於て交織物を産出するの盛なるは浮華なる近時の人心に投合せしものにして其の需用は日に益多きを加へ、各地の機業家は争ふて之を織り出だし、其の極遂に古來著名なる機業地にも浸漸し、盛に波及するを見るに至れるは、時勢の趨向亦已むを得ざるものと謂ふべし。本地方に産する交織も、其の額實に三百万圓に達せり。只戒むべきは各地の機業家が此の流行に誘はれて本來の面目を喪失せざらんことなり。

綿經絹紬は岐阜縣最近の創製に係り、經に瓦斯絲、緯に柞蠶絲を用ひたる薄地織物にして、主として黒地小絞染生地として需用せらる。敢て逸品には

あらずと雖、價の廉なると、外觀の美なるとを以て賞用せらる。愛知縣の交織は製造家任意の呼稱を名つけて、名稱頗ぶる雜駁、同盟織・龍田織名譽織文・明織等、其の幾百種なるを知らずと雖、之を總稱すれば、皆絹綿交織たるに外ならず。而して各品は概して染色の配合織製の技術に於て頗ふる見るに足るものありて、其の價格は一反一圓乃至五圓位に過ぎず。工場の主なるものは愛知織物合資會社名古屋製織合資會社等なり。今其の各種柄合の概要を擧ぐれば左の如し。

- 一 郡 (意匠中柄) 一 風通絹 (交織袖)
- 一 琉球 (經緯綿線真綿を以て織りたる龜甲十字紋花形等各種の柄)
- 一 吉野織 (格子等横取物)
- 一 木目織 (燃系左右を以て織立てたるもの)
- 一 ショラ織 (旋普通入れと「モロ」入れの二種にて織立て水中に入れて縮縮をなしたるもの)
- 一 木曾川縮 (經緯普通綿線綿線は燃綿を以て織り水中に入れて縮縮を成したるもの) 等
- 一 都 一 琥珀錦光 (交織の千筋万筋)
- 一 七子織 (シルケット四ッ入)
- 一 絹中 (綿又は柞蠶絲を以て織りたる無染色)

木綿織

木綿織は近來其製産區域擴張せられ、産額も亦年を追ふて増加す

白木綿

るの傾向あり、本地方亦各地の製織盛なれども、愛知縣は特に有名なる産地にして、其製法に於ても進歩の有様を呈し、染色上に機械を利用すると、紺色に藍以外の染料を使用するものあるとは、新現像なれども、製織の法は舊來の地機高機を用ひて、十年以來其改良を見ざるは其缺點と云ふべし。

植物纖維製織中、木綿織物に亞て人生の用途多くして、我が邦機織中最も重要視せらるゝものは麻織物なり。しかるに本邦に於ける麻織物の多くは、纖維工中の尤も幼稚なるものにして、紡績より製織に至る迄、一も文明的機械の恩澤に潤はず、大概寒國の手工的製造なり。本地方中信濃安曇郡の美麻谷及び其の他郡中の各地皆然り。動物纖維製織は、本地方未だ云ふに足らざれども、獨り愛知に十三万圓位の産額あり。之れ近來女學生の袴を穿つに至り、茲に發達せしものにして、將來其の需用繼續し、工場組織整備するに至らば、本工業の前途は頗る有望なり。

白木綿 愛知縣は白木綿の主産地にして、三河木綿岡木綿知多木綿の三種ありて、各其特色を有す。三河木綿は三河に産し、六郡綿布同業組合の下に

屬し、最近の年額一千万反、價額四百万圓に上れり。其の種類は三あり、即ち三白半紡丸紡之れなり。三白は普通經に紡績絲、緯には之れより細き三河紡績糸を用ひ、長二丈五尺六寸を用ふ。半紡は三白に類すれども、緯に稍細き三河紡績糸を用ふると、長二丈八尺なるとを異なる點となす。丸紡は經緯共に全く普通の紡績糸を用ひたる者にして、經緯共に大なるものを用ふ。此等は何れも皆關東向にして、地質緊緻、主として印半天及び暖簾地として用ひらる。丸紡は、來好評を得て内地用の外盛に朝鮮に輸出す。

岡木綿は中島郡地方の産出に係る。近年は頗る急進の姿を表はし、中形地として需用頗る多し。且つ近來岡木綿同業組合を組織し、規約の勵行に力め短尺粗製の弊を防ぐありて、世人の信用厚く、販路好望なり。最近年額三百五十万反、金額百五十萬圓に過ぎざれども將來有望なり。

知多木綿は知多郡地方の産にして、晒木綿に製す。夙に世に知多晒と稱へ、賞用するもの之れなり。最近の年額一千万反、價格三百萬圓に上り、知多同業組合なるものありて之れを監視す。製織は手織及び自動機械を用ひ、漂白

法は日光と藥品を兼ね用ふ。

白木綿の外に雙子縞縞木綿縮木綿織色木綿等あり、産額順次白木綿に亞き、各本地方中に於て其の産額他縣より優れり。就中佐々縞と稱する木綿縞は、近時染色組織意匠の三者共に殆んど完全の域に達し、大に面目を改む。特に十字小縞の如きは、飛白の部分經緯共に二筋を用ひたるが故に、純白の權衡を得て頗る鮮明なり。佐々縞株式會社は其の主なる製場造とす。

靜岡縣も亦愛知縣と同じく、紡績業盛なるを以て、綿織の業亦從つて盛なり。而して其の種類は白木綿足袋裏コール天等にして、白木綿は年産額尤も多くして百二十万反に達し、コール天製造は其の創業稍古く、苦心改良の結果將來好望の産物なり。

●鳴海絞一名有松絞
名古屋絞

濃尾の平野には綿及び藍の産あり、紡績機械の業亦盛なるを以て絞の此の地方に産出する亦故なきにあらざるなり。鳴海絞又有松絞と稱する者の如き是れなり。鳴海絞は外觀美麗にして、價格も亦貴からず、頗る實用に適するを以て需用極めて廣く、販路各地に亘り、本邦中本絞の至ら

ざる所殆んど稀れなり。もと愛知縣知多郡有松村の特産なりしが、後漸次鳴海名古屋近傍各地其の染法及び製造法傳播し、今日に至りては一箇年の産額一百万反に達せりと云ふ。

遠州綿 静岡縣の特産にして、其の組織縞柄等は粗野質朴なりと雖、染織何れも堅牢にして、中流以下の實用に供せられ、近來著しく其の産額を増加し、内地各地方に輸出す。且毎月一回濱松郡笠井村に市場を開きて之れを販賣す。其の商况頗る活潑にして、取引高十四五万圓に達す。現今猶ほ組合を設けて事業の擴張を計れり。愛知静岡兩縣に亞て綿織の盛なるは岐阜縣とす。本縣の産額は各種を通して平等にして産出亦少なからず。製品亦意匠の進歩技術の熟練なるもの多し。

美濃双子織 主産地は羽島郡なれども、其の他の各地方及び尾張にも産し、尾張産と共に美濃双子と稱し、各地に輸出す。製造高亦多し。其の起源は遠く天明年間において、當時同縣に稀有の大火あり、總ての工業其跡を絶ちしより、朽木縣足利の織工尾張栗原郡に來り、足利織法を傳へしに始まり、後

轉して美濃に傳はりしと云ふ。現今本縣の絹綿交織業も亦此頃より生まれりと云ふ。

以上は本地方中産額及び品質等の著名なるものを掲げたるに過ぎず、猶次の表に依て本地方綿織の概要を観るべし。

愛知	地方種類		地方種類				合計
	織戸數	絹織物	絹綿交織	綿織	麻織物	其他織物	
27,444	5,272	1,333,000	8,973,333	1,985	11,068,291		
愛知	600,810	1,339,968	5,448	27,236	326,619		
静岡	9,181	305,975	3,827	46	110,055		
山梨	37	1,044	38	700	69		
岐阜	22,029	2,580,626	23,920	13,955	1,550		
長野	2,600	22,255	38	4,963	329		

次に本邦中部地方機業産額地方別を掲ぐれば左の如し。

陶磁器

瀬戸焼

静岡	八六七	二〇、六三二	一八五九二	七四、六〇五	一〇、六六七	三三、八〇五
山梨	一一一〇	一七、三九四	八、九六六	八四、五五	八〇	一、七、七、六〇
岐阜	三、九八	一四、四九五	一、四、九六九	二六、三三五	六二七	三、〇、八、〇〇
長野	七、七五三	五、四、三〇五	一三、三六〇	五九、七三	一〇、六九	五、七、八、九六

陶磁器 本地方中陶磁器を以て有名なるは、愛知岐阜の二縣にして、他は皆多少の産出なきには非ざれども、何れも皆僅かに其の地方需用の一部を充たすに止まり、品質亦著名なるものなし。中にも山梨縣は殆ど全く其の産額の見るべきものなし。愛知縣は本地方中有名なるのみならず、亦全國有数の生産地にして、往時にありては遙かに九州有田地方と東西相對して本邦二大窯業地と稱せらるゝの價値を有せしが、近來岐阜縣窯業の盛なるに及びて一籌を輸するに至れり。而して其の主要なる生産地は主に名古屋市の東北四里餘にあたりたる瀬戸町及び品野赤津兩村にして、元來此等地方は第三紀層に屬する黝色の俗に木節と稱する粘土の露出ありて是れ實に瀬戸焼の原料たり。本縣下の窯業は古來幾多の盛衰を経て終に現今の隆盛を來たすに至り、

今や獨り内國の需用を充たすのみならず、又其の輸出先きはアメリカ香港・韓清印度を初めとし、其の他ドイツ・フランス・カナダ・ラランダ等二十六ヶ國に及び、就中北アメリカ合衆國は其の最も顧客たるものなり。其の他東春日井愛知丹羽知多碧海幡豆西加茂の七郡及び名古屋市の各地亦本縣下著名の窯業地にして、其の製造戸數凡て約五百四十餘、製造價額約一百一十五萬千餘圓に達せり。今之を我が邦全産價額約六百九十萬圓に比すれば、約其の六分の一に當り、又之れを他の窯業地として有名なる石川京都府有田等の産額に比すれば、遙かに其の上に位す。特に其の製品は概ね實用に加ふに裝飾の趣味を以てし、深く海外諸國に愛玩せらるゝ所となる。日用向を専らとするものは西加茂郡に多くして、價格も亦低廉なるが故に重にも東洋諸國の需用として産出す。今瀬戸焼の沿革を案するに其の創始は極めて遠くして嵯峨天皇弘仁六年以前已に其の製造あり。其の後後堀川天皇の時、山城京都深草の人加藤四郎左衛門景正と云ふ者あり。幼より土器を造るとを好むと雖、未だ其法を知らず。會僧道元禪師に隨ひて宋の地に渡り製陶法を學び、六年を経て歸朝し、

諸國を巡歴して終に瀬戸村の地製陶に適するを察し、美質の粘土を採掘し釉薬を施し、大に改善を加へて陶業を創設せり。是れ實に陶器史上中興の祖と云ふべきものなり。降りて織田信長の時に及び、製陶業は未だ盛大と云ふ可らざりしが、徳川義直尾張の國主となりしより以來、陶器を以て國産の重なる者たらしめんと欲せしも、而も該業猶振はず、終に城内深井丸の別業を工場に賜ひ、所謂御庭焼なるものを製し、稍盛運に向ふに至れり。後徳川光友の時に及び瀬戸町に國産物藏所を設置し、資金を貸與し窯地の租を免したり。當時景正の孫民吉なるもの九州に至り、平戸有田間を歴遊し、四年間磁器製の秘術を探り得て瀬戸に歸り、青華磁器を創め、舊陶器の本業焼と區別して新製焼と稱し、國主の誘掖を得て、盛に良器を製出し、瀬戸陶業に一大改革を施し、裏面に尾張の二字を刻せしめて一見尾張焼たることを知らしめ、遂に今日に至れり。斯くの如く數百年來の沿革を経て今日の盛大を來たし、海外にも輸出するに至れり。蓋し其の輸出品の試作は三井物産會社の求めにより、アメリカ向食器を製造せしに創まり、明治五年オーストリア博覽會に出

品して始めて此地の製品を世界の市場に紹介し、明治二十八年新に瀬戸村に陶器學校を起し、學理應用の道を開き、又瀬戸陶磁工商同業組合事務所内に委託販賣株式會社を設立し、遂に今日に至れり。
今左に瀬戸陶磁工商同業組合明治三十六年の報告を掲ぐれば左の如し。

瀬戸町	九窯式	窯數	小間	瀬戸陶器數		職工	一年製品價額
				磁器	陶器		
瀬戸町	九窯式	三九	八四	三五四	四	三〇〇	八七五、〇〇〇
不品野村	古窯式	一五	一四三	四〇	六	七〇	一八〇、〇〇〇
赤津村	全	一四	四五	七	二	二〇七	五七五、〇〇〇
上品野村	全	八	四八	三七	一	一九九	四七五、〇〇〇
合計		一五	六五	一五	一三	四六三	一、二五五、〇〇〇

常滑焼

常滑焼の特色は土管水瓶等粗大なる土器にあり。知多半島常滑村に産す。傳説に僧行基の創製に係ると云ふ。爾後幾多の年月を経て改良を施し、又町立常滑陶器學校を設立して其發達を圖り、遂に今日の盛況に至れり。犬山焼

犬山焼

は犬山町附近に産し、楓櫻の模様を畫き雅致あれども、其業進歩の跡なく産額未だ多からず。又別に元賛焼と稱するものあり、もと國亂を避けて支那人朱舜水等と共に歸化せし陳元賛なるもの名古屋に來りて製せしものを始めとし、其の質は瀬戸焼に類すれども、形は支那風を帶ぶ。

多治見焼

尾張の陶法は、漸く四隣に傳播して美濃に入り美濃焼となり、現今土岐惠那可見の三郡は其主産地となれり。土岐郡は瀬戸に近く、文化年中瀬戸より新製焼法を泉村に傳へて磁器を製せしに創まり、元祿中多治見笠原泉下石に二十四窯を作り、其の後妻木駄知等も之れに加はりて三十五窯となり、窯數次第に増加したれとも皆瀬戸焼として諸國に販賣せしを以て、美濃焼の名會つて顯はれざりしが、近來多治見を中心として其の附近の窯業漸次隆盛となり、多治見焼の名漸く世に顯はるゝに至れり。また瀬戸の陶器師にして其の居を轉するもの往々此の地に來り、窯業を營むを以て、益々多治見の窯業は隆盛の有様を呈し、後進の多治見は前進の瀬戸を凌がんとするに至れり。加之其の製品の如きも模様清楚にして氣韻高く、且つ其の價低廉なるを以て、能

く顧客を引きヨーロッパアメリカ支那南洋諸島に輸出し、製造價額は約百五十万圓、製造戸數約五千三百餘、製品の多くは實用的にして、裝飾品は百分の三に當る。最も製陶の盛なるは土岐郡駄知^{オハツ}下知妻木の三村にして、其他全郡の諸村及惠那可見諸郡の諸村と共に皆多治見町に集りて此地の製品と合し、多治見焼として四方に輸出す。駄知村の窯業は明治十一年頃を以て始まり、始四周山を以て圍まれ、交通不便にして窯業も亦甚だ振はざりしが、其の後道路の修繕交通の便を得し以來、頓に盛大と成り、今日の製造戸數は六百戸に達し、下知妻木と共に肩を並べて本縣中最も製陶業の盛なる地たるに至れり。而して其製品は實用の者を主とし、精巧品は間々之を製するに過ぎず。精巧品の最も盛なるは市倉にして、他村に比して其産額多し。諸村各業を分ち、酒杯煎茶腕珈琲茶腕德利等各村特有の製造を成し、一般に美濃焼なる一大特産物として四方に輸出す。製造所の規模は一般に甚だ小にして、工場組織のものは獨り多治見の一工場あるのみ。名古屋各市中西浦工場の看板高く店頭に掲げられたるは此の工場にして、一に又多治見焼の名を代表せる如き

温古燒
澁草燒
石僊燒

芳國燒

觀あり。本縣陶業の機關たる陶器學校は土岐郡の土岐津町大字西山に郡費を以て設立せられ、盛に斯道の隆盛を計れり。

此外赤坂郡の温古燒、土岐郡の久尻燒、岐阜市の金華山燒、高山町の澁草燒、不破郡の石僊燒なるものあり。共に其の産額多からざれども、古雅なる點に於ては、孰れも本縣陶器中に一機軸を出だせり。石僊燒は清水石僊なる者の案に依り、重もに神能古面の模造、風鎮茶器等の裝飾品を作る。澁草燒は飛驒高山町に産す、色澤高尚にして雅致あり、加ふるに品質堅剛なるを以て古來有名なりしが、一時中絶して復往昔の嗜好を充さしむるものなかりしも、明治十一年頃より、大野郡灘村に芳國社なるものを創立して斯業の復古を圖り、明治二十年株式会社芳國社と改め、主として日用品を製造し、専ら東北地方に出だす、故にまた芳國燒とも稱す。形状温雅愛すべきありと雖、未だ巨額の産出を見るに至らず。左に陶磁器地方別産額を掲ぐ。

多治見町	製陶戸數	全戸數の百分比例		製造種別	特徴	多治見又は土岐津瑞浪停車場よりの距離
		製陶戸數	百分比例			
八〇〇	八〇〇	三分二厘	製陶種別	錦畫燒付	一〇(多)	

愛知	製造戸數	職工	窯數	製造品價額	産地
一、四〇	八、五五九	二、六七四	三、三〇〇、三六	名古屋、愛知、東春日井、丹羽、知多、碧海、幡豆、西加茂の七郡	

郡	市ノ倉村	笠原村	妻木村	下知村	駒知村	肥田村	土岐津町	泉村	可豊岡町	見小泉村	郡陶及附近町村
戸數	五二〇	八〇〇	五九五	八〇〇	六〇〇	二〇	六四四	一〇〇	三〇	二〇	二七〇
職工	八	八	七	八	八	八	七	七	七	七	七
窯數	八	八	七	八	八	八	七	七	七	七	七
製造品價額	一、〇〇(多)	一、〇〇(多)	二、〇〇(多)	二、〇〇(多)	二、〇〇(多)	二、〇〇(多)	一、〇〇(多)	一、〇〇(多)	一、〇〇(多)	一、〇〇(多)	三、〇〇(瑞)
産地	染付茶器、咖啡具類	染付茶器、奈良茶碗、皿	白磁、磁器、佛器	湯呑碗、佛器	染付白磁、磁器	湯呑碗、佛器	染付白磁、磁器	湯呑碗、佛器	染付白磁、磁器	湯呑碗、佛器	染付白磁、磁器
特徴	染付茶器、咖啡具類	染付茶器、奈良茶碗、皿	白磁、磁器、佛器	湯呑碗、佛器	染付白磁、磁器	湯呑碗、佛器	染付白磁、磁器	湯呑碗、佛器	染付白磁、磁器	湯呑碗、佛器	染付白磁、磁器
距離	一、〇〇(多)	一、〇〇(多)	二、〇〇(多)	二、〇〇(多)	二、〇〇(多)	二、〇〇(多)	一、〇〇(多)	一、〇〇(多)	一、〇〇(多)	一、〇〇(多)	三、〇〇(瑞)

更に本地の概勢を示さば左の如し。

静岡	一四	三	二八	六一五	駿東、藤原、周智、 静岡、引佐の五郡
岐阜	八元	二二六	二、五五	九三六、二六	土岐、惠那の二郡其他
長野	元	八	三三	一三三	東筑摩郡其他

陶磁業を終るに當り、愛知岐阜兩縣の比較に就て一言せんに、愛知縣は本邦中尤も多種多様の陶磁器を産し、瀬戸焼の名は普く世人の知る所となり、産額の多きこと本邦中第一に居りしも、今日に至りては全く岐阜縣の爲めに凌駕せられんとするに至れり。是れ其の日用品としては岐阜縣の産の廉價なるに如かず、裝飾用としては京都金澤産の優美なるに如かざればなり。蓋し岐阜縣は愛知縣に比すれば、鐵道中央線の沿道に當り、交通機關完備して製品の運搬に非常なる便利を得、又一方には比較的廉價の燃料を得易きが故に價格は比較的廉なるを得るなり。然れども愛知縣にても目下名古屋と瀬戸とを連絡する瀬戸鐵道正に成らんとし、斯業に關する万般の設備も漸く完成に近からんとするを以て、將來は敢て多治見に譲らざるに至るべし。

七寶燒 本邦七寶燒の淵源とも稱すべきは即ち愛知縣にして、其の他の

漆器

産地たる東京都神奈川等は、皆な其の系統を本縣に引きて發達せしものなり。七寶燒は天保年間尾張海東郡服部村の梶常吉のオランダ製七寶の模造を試みにしに興り、其の後塚本貝助等の名工出て、其の技大に進み、明治四年名古屋に七寶會社起りて次第に海外輸出の途を開くに至り、名聲愈々揚がりて、斯業益々盛となり、今日に於ては海東郡寶村附近の地には、製造戸數八十餘戸、職工五百餘人に及び、明治三十三年の産額は六万六千餘個、價額四十五万圓に達したり。特に近年は、透明深紅色の七寶を工夫し、浮模様の意匠を試むるに至りたるは實に其一進歩を呈したるものと云ふべし。此工業の精緻莊麗共に本邦の精華として其名海外に高きも其需用者の多くは外國人にして、製品の種類甚だ狹隘なるは斯業の爲めに頗る遺憾とする所なり。

漆器 漆器の産額に就ては、静岡を第一として、長野愛知之れに次ぎ、山梨を以て最も少しとす。各縣産出の品質精良の點に於て敢へて著名なるものなけれ共、獨り岐阜縣飛驒の春慶塗は其の名夙とに賞揚せらるゝ所なり。静岡産は古來漆器を貿易品として外國に輸出するを以て、其の産額他縣に優

れり。其の主産地は静岡市にして、濱名郡濱松町之れに次ぐ。明治三十四年の調査に依れば、縣下の製造家は合して六百五十五戸、職工二千九百餘人ありて、産出高五十四万五千圓に達し、其の大部分は遠く海外の需用に供せり。特に近來静岡漆器製造株式會社の設立ありし以來は、貿易品の過半は同社に於て製造せられ、静岡縣の漆器業をして、愈々盛大の域に進ましむるに至たり。加之静岡市には漆器徒弟學校の設立ありて、漆器木地蒔繪の三科を置き、各専門の教員を聘して徒弟養成に努めつゝあるを以て、近來は驚くべき發達を遂げ、内外の需用は年を追ふて盛大となれり。今本縣漆器業の沿革を案ずるに、本縣の漆器業は將軍徳川家光の創業にして、家光が賤機山の淺間神社を造營するに際し、美觀を裝ふの目的を以て殿堂に髹漆を施さんとし、各地方の漆工を集め其業に従事せしめたりしが、竣工の後工人の此の地に留りしもの漸く斯業を以て生計を立つるに至り、吉宗將軍の時其の販路一層擴張せられて江戸に及び、降て維新前駿府の一商人長崎に於て和蘭貿易を企て、外人の嗜好に投するもの、製造を同業者に奨励したりしより、海外輸出の途初

めて開け遂に今日の盛境を見るに至れり。又本縣には明治二十五年より紙製漆器と稱する一種の技術を發明し、工場を開き事業を擴張し、今日に至りて漸次盛運に向ふに至れり。されど本縣製品の特徴としては優美高雅の趣味に於て未だ京都東京の製品に及ばざる所あり、且つ所謂輸出向きの廉價なる製品多きの傾あり。

静岡縣に次て漆器産額の多きは長野縣なり。長野縣の漆器は筑摩漆器と稱し、西筑摩下伊那郡に産し、西筑摩郡の栢川福島、下伊那郡の飯田町は其の主産地なり。製品の種類は膳腕重箱等にして、品質は實用に加ふるに堅牢と廉價を旨とせり。製造戸數は三百餘戸、職工八百五十名あり。明治三十四年の産額にて二十六万四千餘圓、之を明治二十八年の産額十一万六千圓に比すれば倍額以上に達し、猶年を追ふて進歩し發達の道に向へり。愛知縣の漆器は膳腕盆重箱等のごとき内地向の普通品多數を占め、裝飾品は極めて少し。品質は静岡石川等に比すれば、及ばざること數等なりと云はざるべからず。主産地は名古屋市にして、製造戸數二百餘戸、職工凡三百五十名、産出高十

八万餘圓にして、明治二十七年に比すれば凡二倍半に達せりと雖、外國貿易品少きが故に近年甚だしき増加を見ず。抑も名古屋市は東海道の大都にして交通の便よく、原料の木材は木曾に近く、漆液は三河に優品多く、圖案師蒔繪師の如きは東西兩京に仰ぐこと難からず、眞筒漆器の製造に適する地方たるを以て、將來の進歩は大に見るべきものあらんか。

名古屋市には又一閑張と稱する紙胎漆器あり。もと京都の名工飛來一閑張の創意に成り、現今に至りては其發達著し、製法は紙上に漆を塗るにあり。文庫机盆等はかくの如くにして製せられ、軽くして使用に便なり。而して其の模様は推漆の如く一見人の嗜好に適するを以て近年は益々其の需用を増加せり。岐阜縣の漆器は世に謂はゆる春慶塗にして、飛驒國大野郡高山町に産す。製品は膳碗盆重箱等の日用向なれ共、之れに批目鉋目菱目斜目打出模様等を施したれば、甚だ雅趣あるも、其の需用未だ多しと云ふ可からず。且つ内地の販路のみなるを以て、産額も亦多からず。製造戸數僅かに三十戸にして、産額も亦二万六千圓に過ぎざれ共、年を追ふて増加の模様を呈す。春慶塗に二

春慶塗

一閑張

製造戸數		職工		價額	
愛知	一、二五〇	八、六六六	三、三九七、五五〇	岐阜	三三
静岡	六、八	二、四八三	五、七四七、三	長野	一五
山梨	三	七	一九四〇	飛驒	七
				春慶塗	七、三九三

種ありて、一は秋田縣能代の産にして、盛に之れを製造して其の産額本縣を凌ぐを以て、人或は能代を以て其の本場と稱するものあれ共、其の實は本縣なること已に前卷に述べたるが如し。今其の山來を聞くに、始め後龜山天皇の時、和泉界の漆工春慶なるものありて、始めて此の法を發明し、飛驒に來りて此の法を傳へしに、時の領主金森宗和頗る風流の情に富み、飛驒春慶と稱して之れを奨励したりしより、春慶塗の名始めて世間に稱せらるゝに至りしなり。今本地方漆器産額地方別を掲ぐれば左の如し。

化學工藝品

化學工藝品 本地方に産する化學工藝品は、酒類醬油味噌に過ぎずして、其の産地の配布も亦普く各地方に行はるゝにあらずして、猶ほ陶器漆器

酒

麥酒

葡萄酒

木瓜酒

醬油
半田醬油

の或る地點に限られて産するが如く、本品も亦其の産地に制限あり。即ち愛知縣にては尾張の酒醬油、三河の味噌、山梨縣にては葡萄酒、長野縣にては木瓜酒等を著名とし、其の他記すべきものなし。是等も或るものを除くの外は、國産たるよりは寧ろ名物として賞用せらるゝものあり。

清酒の主産地は愛知縣知多郡にして、其他名古屋市中島海東の一市二郡に産し、共に縣下の酒造地を以て目せらる。各地とも近年漸く盛大となり、其の醸造高も亦今や殆んど灘酒に匹敵せんとするの勢あり。縣外輸出高は六分にして、主に東京に出だし、他は縣内に使用する。同地方に於ては又カブトビールカブトビールの醸造所あり。葡萄酒は山梨縣を推す。原料は縣内主に勝沼附近に産する葡萄を以てすると已に農業の條に述べたるが如し。製造所の大なるもの亦二ヶ所あり、其製品を稱して一を甲斐産葡萄酒、一を大黒印葡萄酒とす。此他長野縣に木瓜酒を産す。信州の一名物たるに過ぎずと雖、味は甘酸を兼ねたる芳烈の美酒にして、消化力に富むと云ふ。販路未だ廣からずと雖、價額の廉にして衛生に適せるを以て、將來は稍有望なり。醬油は知多半島を以て

八丁味噌

製作工藝品

和紙

有名とし、半田醬油の名ことに世に著はれ、産額また少からずして、小豆島野田等と共に、全國屈指の醬油産地に數へらる。従かつて其の販路も廣くして、臺灣・シンガポール迄達すと云ふ。味噌は三河岡崎及び其の附近に醸造せられ、所謂八丁味噌又岡崎味噌と稱して、東北の仙臺味噌と東西相對して、其の名聲を擅にす。其色赤く、甘味の中少し澁味を帯びたるは、上等者流の膳に上りて頗る賞翫せらるゝ所以なり。

製作工藝品 本地方の製作工藝品の主なるものは紙類を第一とし、隣寸麥稈眞田等之れに亞ぐ。紙の産出は和紙及び洋紙の二種ありて、和紙の産出價額總計は、岐阜の百餘万圓を第一とし、静岡の六十餘万圓、長野の二十万圓、山梨の十萬圓、愛知の七萬圓順次之れに亞ぐ。岐阜は所謂美濃半紙の本場にして、其の産出は全産額の半を占む。長野縣は製紙業甚だ盛ならず、中高半紙と稱する紙類あれ共、産卵紙用元結用となすのみにして其の産額岐阜縣の五分の一に當るに過ぎず。而して又主産地と稱すべき者なく、縣下諸處に僅少の産あり。山梨愛知二縣に至りては、其の産額更に長野縣より少し。

美濃紙

要するに本地方和紙製造業は、各地皆多少の産なきにあらざれ共、製紙地を代表するものは岐阜静岡の二縣と爲さざる可らず。此の二縣は獨り本地方に於て有名なるのみならず、全國中に於ける有名なる製紙地方なり。美濃紙は岐阜縣下古來有名なる特産にして、其の産額多く、其の他型紙・コッピ紙・紙製ナブキン等の如き海外輸出の途開けてより、抄紙業益々發達し、全國中高知縣に次ぎて第二等の位地を占めるに至れり。紙製ナブキンは岐阜市勅使河原合資會社之れを再興し、清麗雅致ある良品を製し、以て巧に外人の嗜好を充たせり。型紙は揖斐郡谷汲の美濃紙合資會社之を抄出す。然れ共一般製紙の盛なるは武儀郡にして、其の産額は本縣全産額の九分を占め、主なる工場としては、一山工場須田製紙場等なり。揖斐郡は武儀郡に次ぎて盛なる地とす。駿河半紙も亦古來静岡縣下の特産にして、縣下各郡盛に栽培する三楮を原料とし、紙質緻密にして光澤あり。大田製紙場の局紙は、堅緻にして能く破損に堪へ、土佐美濃等の楮製のものに比して、其の質遙かに優等にして、公債證書用及び銀行手形等に用ふるは、大抵本紙を以てすと云ふ。本縣には又和

洋紙

紙の他に洋紙を製造す。洋紙は原料の得易くして其の價の廉なると、使用の輕便なるとに依て漸く世人の注意を惹くに至りしより、全國中にて現今十二ヶ所の工場を見るに至りたり。然れ共其主なるものは、富士製紙株式會社王子製紙株式會社合資會社神戸製紙所及び四日市製紙株式會社等とす。本縣内にあるものは富士製紙株式會社第六十一圖丙及び王子製紙株式會社の支工場にして、一は富士郡入山瀬にあり。東海道鐵路鈴川驛より遙かに西北を望めば富士の裾野に宏壯なる煉瓦造の大工場を建立し、富士裾野の水流を導きて以て之を原動力となす。壯大なる烟突は高く天を衝き機關の音轟々として其の製作事業極めて活潑なり。嘗て其の原料として楡・榿及び稻藁等を用ゐたりしが、近來富士山中若くは北海道深林中の山毛櫨・白楊等の木屑を漂泊して原料となすに至れり。之れ蓋し本邦に於て材木を製紙の原料とせし嚆矢なりとす。機關數八、公稱馬力七百にして、他工場の公稱馬力百乃至二百に對しては、實に大なりと謂はざるべからず。王子製紙會社は本社は東京府王子村にありて、其の分工場は二あり。一は遠江周知郡氣田村にして、他の一は全磐田郡佐久

間村中部なかべにあり。氣田中部の二工場は、共に富士川の激流を導きて之れを原動力とし、五乃至六の機關は晝夜を捨てず、盛んに活動して、天龍川上流より輸ひ來れる樅トガを粉截して原料に供す。其の放下資本公稱馬力及び産出高を比すれば、中部は遙かに氣田を凌ぐの概あり。是れ中部は近來其の規模を擴張せるの有様なれど、編者訪問の際は其縦覽を謝絶せしを以て爰に其詳況を記すると能はず。彼の近來盛に使用する新聞紙書籍及印刷紙は、多くは此の兩製紙會社の製造に係り、又近來清韓二國及アメリカ等に輸出す。又以て其の規模の大なるを想像するに足らん。

今左に此等各工場の一表を掲ぐ。

富士製紙株式會社	中部工場	氣田工場	放下資本	原動力	機關數	馬力	原料	消費高	一日就業職工	産出高
一、九〇〇、〇〇〇	二、〇九、三三五	四、五、四四四	水力	八	七、五〇〇	樅 <small>ニ、六六、八三六</small> 其他 <small>二、三九、九一九</small>	一、五七、七八	七三	三、一八、五九四	
			水力	六	二、〇〇〇	六、四、〇三三	四、三、五〇	二四九	八、八五、六九三	
			水力	五	七、五〇〇	二、八、〇三三	三、一〇〇	一四八	四、三、〇、三三	

燐寸

表 中木は木材尺メ 坪とあるは薪材なり

燐寸 燐寸は長野縣を除きては、其他に多少の産額なきにあらざれども、愛知縣の外は云ふに足るものなし。愛知縣は其の産額の大なる兵庫大阪に次ぎ、實に全國第三位に居る。明治十四年頃兵庫縣より職工を聘し、下堀川に燐寸社の創立せしを濫觴とし、明治二十九年愛知燐寸製造會社を開き、木曾山中の材木を軸木として、製造するにいたり、漸く盛大となり、製造戸數五十に達し、産額六十餘万圓を算し、全輸出の十二分の一を製造するに至れり。元來日本燐寸はスエーデン製燐寸の高價なるに比すれば、價額低廉なるを以て、東洋諸國に於ては今ほ全く外國製品を驅逐し去りて、到る處其使用せられざる所なく、一ヶ年産額九百万圓以上に達し、其の八割五分乃至九割は輸出額の占むる所たり。

麥稈眞田

麥稈眞田 麥稈工業は重もに東京以西は行はれ、就中中國四國には其の業一般に傳播せり。本地方に於ては、愛知岐阜の二縣最も盛に行はるれども岐阜は其の産額愛知に比するに足らず。愛知は其の原料に供する麥類の耕作の

提燈扇 提子燈

盛に行はるゝを以て、麥稈細工の産額本地方中最大に達し、實に全國中第三等に位し、岡山香川兩縣に次ぐ。本工業は機械を用ふるの要なく、多くは女子の手藝に屬し、従つて大工場を要せず、戸々之れを營む。其の製造戸數は二千餘にして、全國製造戸數二万八千に對して七分の一に當り、其の産出額は全國の三割に當る。需用は内國向のみならず、アメリカ香港オーストラリアヨーロッパ等に輸出し、其の業年々隆盛に赴けり。

提燈扇子團扇及傘 共に愛知岐阜兩縣の産物にして殊に岐阜縣は其の本場なり。一種優美なる特色を有し、實用的よりは寧ろ美術的裝飾的にして、案外に海外の好評を博し、需用益増加せり。提燈は或る人のながら川月なきやはも水のうへにひかりすゝしき軒のともし火と詠せし所謂岐阜提燈にして、岐阜市附近加納町最も多く之れを産す。清酒、雅致を帯ひて夏夕の好同伴となり、近時多く海外に輸出せらる。依田百川翁嘗て記して曰く。

皮如蟬翼 骨如銀絲 形圓稍長 織毫縷畫 秋芳疊銀 月影蟲聲 彷彿眞景 點火其中 懸之簷間 則清風颯來 涼氣滿室者 是岐阜提燈也 云々

竹細工

亦以て其の特質の一斑を知るに足るべし。舊記に依るに創造は慶長年間にありて、當時年々名古屋藩の献上品となりしが、維新以後廢せられ、唯其名のみを存し、製法も亦漸く世人に忘れられんとせしを、偶勅使河原なる人之れを憂ひ、舊記を案し古老に訂し、二十年前之れを再興せしに、明治十年車駕西巡の時、玉座に懸けて宸威斜ならざりしより聲價大に揚り、終に今日の盛境あるを致せり。傘は雨傘日傘繪傘等にして、加納町其の主産地にして、岐阜縣産出の九割を占む。

竹細工 静岡縣中最も雅致ある一名物として世に喧傳せらるゝは竹細工なり。同縣下に多く産する淡竹煤竹縁竹を材料の主なる者とし、酸類を以て之れに種々の着色を施し、種々の裝飾的器物を製せり。其の特色とする所は、管に外觀の美麗にして雅致あるのみならず、組方堅牢にして且つ容易に腐蝕するの憂なく、従つて能く内外人の嗜好に適し、輸出額殆んど四万圓に垂んとせり。本製作の山來は、徳川時代に當り、駿府の臣江戸幕臣の用ふる狩獵笠を製せしに創まり、今日に至りては宮島有馬と共に本細工の有名なる地方